平城京左京五条五坊十一・十四坪
（HJG14・17 次）

－令和２・４年度発掘調査報告書－

2024

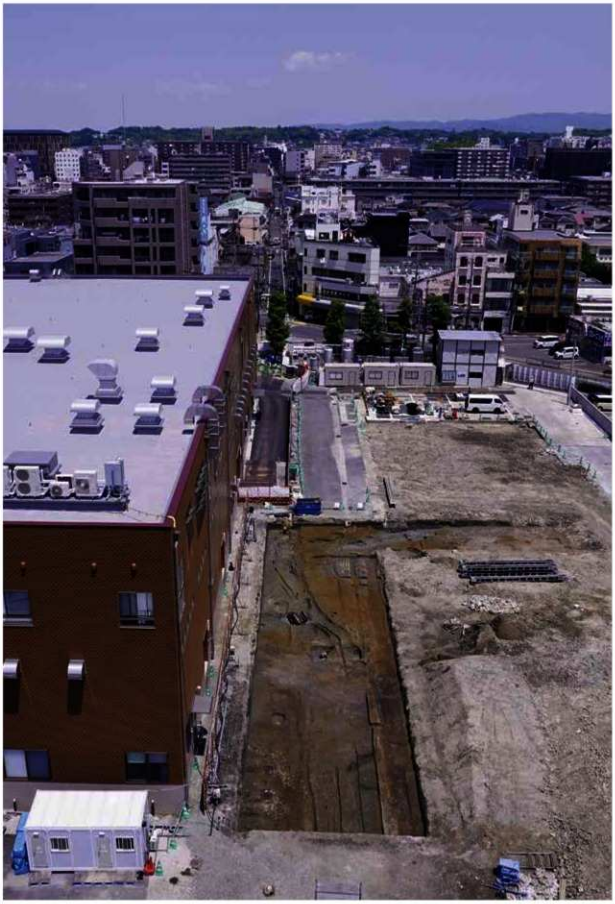
公益財団法人　元興寺文化財研究所

平城京左京五条五坊十一・十四坪
（HJG14・17 次）

－令和２・４年度発掘調査報告書－

2024

公益財団法人　元興寺文化財研究所



東五坊坊間東小路遠景（南から）

序

このたび、平城京左京五条五坊十一・十四坪の発掘調査報告書が完成いたしました。古代都市平城京には、左京のさらに東側へ南北約 2.1km、東西約 1.6m、二条から五条の計 12 坊の範囲に及ぶ張り出した部分があります。この張り出し部分には、興福寺や元興寺、紀寺といった寺院が建立されました。朱雀門付近とは 25 ～ 31m 程の比高差があり、平城京の中でも独特の景観を形成していたようです。今回、報告する発掘地点はこの張り出し部分の南寄りに位置しています。

今回の発掘調査では、東五坊坊間東小路が確認され、最終的に埋没するのは平城京が奈良を去った後であることが分かりました。また十一坪内の利用状況も明らかとなり、宅地を分割する溝や、複数の建物や塀の痕が確認されました。宅地を分割する溝は坪を三分の一に区切るもので、道路の両側溝と考えられることから、幅は狭いながらも坪内道路により区切られていたことがわかる事例となりました。

近年の文化財保護法の改正により、文化財の活用がこれまで以上に重要視されるようになっています。制度による後押しに加え、技術などの進化によって、活用の方法はより多様なものとなり、社会への発信力の高まりが感じられます。文化財の活用が重要であることは言うまでもありませんが、その基礎には地道な調査研究があることもまた事実です。調査研究と活用が互いに支え合うことで、文化財を未来へ継承していくことが可能になると考えます。

最後になりましたが、今回の発掘調査に際して多大なるご協力をいただきました小山株式会社様、調整・指導いただきました奈良県、奈良市教育委員会をはじめ、ご協力いただきました関係各位に深く感謝の意を表したいと思います。

令和６年３月 31 日

公益財団法人　元興寺文化財研究所
理事長　辻村泰善

例言

1. 本書は平城京左京五条五坊十一・十四坪において、工場新築に先立ち実施した発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 調査地は奈良県奈良市西木辻町 88 番地外に所在し、開発面積 9,723.51㎡のうち調査対象面積は 1,002㎡である。
3. 調査は小山株式会社より委託を受けた公益財団法人元興寺文化財研究所が行い、令和 2 年 12 月 7 日～令和 3 年 1 月 29 日、令和 4 年 4 月 18 日～同年 5 月 20 日を現地調査、令和 3 年 2 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日を整理期間とした。
4. 発掘調査は村田裕介、江浦洋（公益財団法人元興寺文化財研究所）が担当し、坂本俊、瀬戸哲也、武田浩子（公益財団法人元興寺文化財研究所）、小林友佳、中村文洋（奈良大学大学院）、岸上維颯、松田青空、上野喜則、池本優衣（奈良大学）、大崎拳斗（天理大学）、小久保茉優（立命館大学）、田中稔（大阪大谷大学大学院）が補佐した（所属は当時）。
5. 調査地の座標および基準点測量は、公益財団法人元興寺文化財研究所が実施し、株式会社文化財サービスが分担した。
6. 発掘調査における土工等土木部門は令和 2 年度調査を安西工業株式会社、令和 4 年度調査を株式会社アートが担当した。
7. 遺構写真撮影は村田、坂本、江浦が、遺物写真撮影は大久保治（公益財団法人元興寺文化財研究所）が撮影した。
8. 出土遺物の実測および浄書は仲井光代、武田、芝 幹、山本知佳（公益財団法人元興寺文化財研究所）が行った。
9. 本書に使用した土器の分類、編年、年代観については以下の文献を参照した。本文中で触れる分類名、年代表記はこれらに依拠している。

   古代の土器研究会 1992『古代の土器（1）都城の土器集成』

   神野恵・森川実 2010「土器類」『図説平城京事典』柊風舎

   奈良国立文化財研究所　1976『平城宮発掘調査報告書Ⅶ』

   奈良国立文化財研究所　1982『平城宮発掘調査報告書XI』

   西弘海 1987『土器様式の成立とその背景』真陽社
10. 発掘調査及び整理報告書作成にかかる費用については、小山株式会社が全額負担した。
11. 当該調査において出土した遺物、実測図、写真は奈良市教育委員会において保管している。
12. 本書の執筆は第 4 章を森将志、辻康男（株式会社パレオ・ラボ）、それ以外を村田が行った。本書の編集は村田が行い、江浦、芝がこれを補佐した。
13. 発掘調査及び報告書作成に際しては、以下の方々からのご助言、ご協力を頂いた。記して感謝申し上げたい。

    奈良市教育委員会、奈良県文化財保存課、馬場基、原田香織、永野智子、原田憲二郎、佐藤亜聖、上井佐妃（敬称略、順不同）

目次

第１章　調査に至る経緯と調査体制 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 2
　第３節　調査の経過（調査日誌抄） …… 3
第２章　遺跡の立地と歴史的環境 …… 5
　第１節　遺跡の立地と環境 …… 5
　第２節　周辺の既往調査 …… 5
　第３節　本調査の課題 …… 6
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　基本層序と遺構面の認定 …… 9
　　（1）令和２年度調査 …… 9
　　（2）令和４年度調査 …… 9
　第２節　令和２年度調査 …… 17
　　（1）検出遺構 …… 17
　　（2）出土遺物 …… 28
　第３節　令和４年度調査 …… 41
　　（1）検出遺構 …… 41
　　（2）出土遺物 …… 44
第４章　自然科学分析 …… 53
　第１節　花粉分析 …… 53
第５章　総括 …… 56
　第１節　遺構の変遷について …… 56
　第２節　東五坊坊間東小路の位置について …… 56

図版目次

図 1　調査地位置図（S=1/25,000）…… 5
図 2　今回の調査地と既往の調査地（『平城京条坊総合地図』を改変）（S=1/4,000）…… 6
図 3　全体平面図（S=1/200）…… 7
図 4　令和 2 年度調査　壁面土層断面図（1）（S=1/80）…… 10
図 5　令和 2 年度調査　壁面土層断面図（2）（S=1/80）…… 11
図 6　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（3）（S=1/80）…… 12
図 7　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（4）（S=1/80）…… 13
図 8　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（5）（S=1/80）…… 14
図 9　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（6）（S=1/80）…… 15
図 10　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（7）（S=1/80）…… 16
図 11　SF170、SD030・075・080・085・095・100 平面・土層断面図
（平面 S=1/100・断面 S=1/40）…… 18
図 12　SB040 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）…… 19
図 13　SB050 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）…… 20
図 14　SB060 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）…… 21
図 15　SB090 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）…… 22
図 16　SA070 平面・土層断面図（平面 S=1/100・断面 S=1/40）…… 24
図 17　SA160 平面・土層断面図（平面 S=1/150・断面 S=1/40）…… 25
図 18　SD020・025・055・065 平面・土層断面図（平面 S=1/150・断面 S=1/40）…… 26
図 19　SK122 平面・土層断面図（S=1/40）…… 27
図 20　SK130 平面・土層断面図（S=1/40）…… 27
図 21　SP149 平面・土層断面図（S=1/40）…… 28
図 22　SD030・075・080・085 出土遺物実測図（S=1/3）…… 29
図 23　SD095 出土遺物実測図（1）（S=1/3）…… 30
図 24　SD095 出土遺物実測図（2）（S=1/3）…… 31
図 25　SD100 出土遺物実測図（S=1/3）…… 32
図 26　SB040・090、SA160 出土遺物実測図（S=1/3）…… 33
図 27　SD020 出土遺物実測図（1）（S=1/3）…… 34
図 28　SD020 出土遺物実測図（2）（S=1/3）…… 35
図 29　SD055 出土遺物実測図（S=1/3）…… 36
図 30　SD065 出土遺物実測図（S=1/3）…… 38
図 31　SK117・122・130、SP149 出土遺物実測図（S=1/3・1/4）…… 39
図 32　暗褐色砂・攪乱出土遺物実測図（S=1/3）…… 40
図 33　SF260、SD220・230 平面・土層断面図（平面 S=1/200・断面 S=1/40）…… 42

図 34　SA240 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 43
図 35　SA250 平面図（S=1/40） …… 43
図 36　SD220 出土遺物実測図（1）（S=1/3） …… 45
図 37　SD220 出土遺物実測図（2）（S=1/3） …… 46
図 38　SD230 出土遺物実測図（S=1/3） …… 46
図 39　SA240 出土遺物実測図（S=1/3） …… 47
図 40　SK231 出土遺物実測図（S=1/3） …… 47
図 41　整地土 1 出土遺物実測図（1）（S=1/3） …… 48
図 42　整地土 1 出土遺物実測図（2）（S=1/3） …… 50
図 43　整地土 2 出土遺物実測図（S=1/3） …… 51
図 44　その他出土遺物実測図（S=1/3） …… 52
図 45　花粉分布図 …… 53
図 46　SD095 から産出した花粉化石 …… 55
図 47　遺構変遷図 …… 57
図 48　十一坪内の宅地分割模式図 …… 58
図 49　調査地周辺の条坊道路検出地点と想定条坊道路位置 …… 58
図 50　令和 2 年度調査　検出遺構配置略図（S=1/200） …… 62
図 51　令和 4 年度調査　検出遺構配置略図（S=1/200） …… 72

写真図版目次

令和２年度調査

図版１
調査前風景（西から）
西区全景（北から）
図版２
東区全景（東から）
東区南半全景（西から）
図版３
西区西壁土層断面（東から）
SD030 土層断面（西から）
図版４
SD080 土層断面（東から）
SD095 土層断面（東から）
図版５
SD100 土層断面（東から）
SB040 全景（東から）
図版６
SB040c 土層断面（西から）
SB050 全景（東から）
図版７
SB050g 土層断面（西から）
SB060a 土層断面（西から）
図版８
SB060c 土層断面（西から）
SB060d 土層断面（西から）
図版９
SB060e 土層断面（西から）
SB060f 土層断面（西から）
図版 10
SB060g 土層断面（西から）
SB060h 土層断面（西から）
図版 11
SB090e 土層断面（西から）
SB090f 土層断面（西から）
図版 12
SB090g 土層断面（北から）
SB090h 土層断面（北から）
図版 13
SA070a 土層断面土層断面（東から）
SA070b 土層断面（東から）
図版 14
SA070d 土層断面（東から）
SA070e 土層断面（東から）
図版 15
SA070n 土層断面（東から）
SA160f 土層断面（西から）
図版 16
SD025 土層断面（南から）
SD065 土層断面（南から）
図版 17
SD030・075・085・095 出土遺物
図版 18・19
SD095 出土遺物
図版 20
SD095・100 出土遺物
図版 21
SD100、SB040・090、SA160 出土遺物
図版 22 ～ 24
SD020 出土遺物
図版 25
SD020・055・065
図版 26
SD065 出土遺物
図版 27
SD065、SK117、SP149、暗褐色砂出土遺物
図版 28
暗褐色砂・攪乱出土遺物

令和４年度調査

図版 29
調査前風景（北から）
遠景（南から）
図版 30
全景（南から）
全景（北から）
図版 31
南壁面土層断面（北から）
東壁面土層断面（西から）
図版 32
SD220・230 検出（南から）
SD220 北壁土層断面（南から）
図版 33
SD220 土層断面 b-b'（北から）
SD220 土層断面 c-c'（北から）
図版 34
SD230 土層断面（北から）
SD220・整地土土層断面（北から）
図版 35
整地土 1 完掘状況（北から）
SA240 全景（東から）
図版 36
SA240a 土層断面（東から）
SA240b 土層断面（東から）
図版 37
SA240c 土層断面（東から）
SA240d 土層断面（北から）
図版 38
SA240e 土層断面（南から）
整地土 2 完掘状況（北から）
図版 39・40
SD220 出土遺物
図版 41
SD220・230 出土遺物
図版 42
SA240、SK231、整地土 1 出土遺物
図版 43
整地土 1 出土遺物
図版 44
整地土 1、整地土 2 出土遺物
図版 45
整地土 2、その他出土遺物
図版 46
その他出土遺物

表目次

表１　分析試料一覧……53
表２　産出花粉胞子一覧……54
表３～６　令和２年度調査　報告遺物一覧……63～66
表７～10　令和２年度調査　検出遺構および出土遺物一覧……67～70
表11・12　令和４年度調査　報告遺物一覧……73～74
表13・14　令和４年度調査　検出遺構および出土遺物一覧……75～76

第１章　調査に至る経緯と調査体制

第１節　調査に至る経緯

令和２年１月21日付けで小山株式会社より、工場新築に伴う埋蔵文化財発掘調査の届出が提出された。当地が平城京の範囲であることから、同年３月２日に奈良県文化財保存課より奈良市教育委員会を通じて発掘調査の実施が指示された。これを受けて奈良市教育委員会は発掘調査実施に向けた協議を開始したが、工期を勘案した結果、公共機関による発掘調査は困難と判断されたため、公益財団法人元興寺文化財研究所へ発掘調査を依頼することとなった。

令和２年11月30日に奈良県文化財保存課より発掘調査の依頼を受けた公益財団法人元興寺文化財研究所は、同年12月１日、平城京左京五条五坊十一坪発掘調査整理報告書作成業務に係る委託契約を小山株式会社と締結、発掘調査届出を提出のうえ、同年12月７日より現地調査を開始した。

現地調査は令和３年１月29日に終了し、令和５年度末の報告書刊行へ向けて、整理・報告書作成業務に移行した。

その後、令和４年２月９日付けで小山株式会社より、倉庫新築に伴う埋蔵文化財発掘調査の届出が提出された。令和２年度調査区の東に隣接し、当地が平城京の範囲であることから、同年３月18日に奈良県文化財保存課より奈良市教育委員会を通じて発掘調査の実施が指示された。これを受けて奈良市教育委員会は発掘調査実施に向けた協議を開始したが、工期を勘案した結果、公共機関による発掘調査は困難と判断されたため、公益財団法人元興寺文化財研究所へ発掘調査を依頼することとなった。

令和４年４月６日に奈良県文化財保存課より発掘調査の依頼を受けた公益財団法人元興寺文化財研究所は、同年４月11日、平城京左京五条五坊十一・十四坪発掘調査整理報告書作成業務に係る委託契約を小山株式会社と締結、発掘調査届出を提出のうえ、同年４月18日より現地調査を開始した。

現地調査は令和４年５月20日に終了し、すみやかに整理・報告書作成業務に移行した。

令和４年度の発掘調査の実施を受けて、令和２年度発掘調査報告書を令和４年度発掘調査報告書と合冊することとなり、令和５年度末の刊行とすることになった。そのため、令和２年度発掘調査整理報告書作成業務の契約日を令和５年度末に変更する変更契約を取り交わした。

現地調査から報告書作成に至る間、小山株式会社の全面的な支援・協力があった。また、奈良県文化財保存課、奈良市教育委員会からの適切なご指導を賜った結果、調査・整理作業を無事に終了することが出来た。関係各位に感謝する次第である。

第２節　調査体制

発掘調査並びに整理・報告書作成は以下の体制で実施した。

（発掘調査）

調査指導：奈良県文化財保存課・奈良市教育委員会

調査主体：公益財団法人元興寺文化財研究所

理 事 長　辻村泰善

所　　長　田邉征夫

事務局長　江島和哉

総合文化財センター長　塚本敏夫（令和２年度）、山田哲也（令和４年度）

文化財調査修復研究グループ

リーダー　金山正子（令和２年度）

統括マネージャー　雨森久晃（令和４年度）

研究員　　村田裕介（現地調査担当）

研究員　　坂本　俊

研究員　　瀬戸哲也（令和３年６月から）

技　師　　江浦　洋（現地調査担当）（令和３年６月から）

現地作業員：安西工業株式会社（令和２年度）、株式会社アート（令和４年度）

測　　量：公益財団法人元興寺文化財研究所・株式会社文化財サービス

（整理報告）

調査指導：奈良県文化財保存課・奈良市教育委員会

調査主体：公益財団法人元興寺文化財研究所

理 事 長　辻村泰善

所　　長　田邉征夫

事務局長　江島和哉

総合文化財センター長　山田哲也

文化財調査修復研究グループ

統括マネージャー　雨森久晃

主　務　　村田裕介（整理報告担当）

研究員　　坂本　俊

研究員　　瀬戸哲也

技　師　　江浦　洋

第３節　調査の経過（調査日誌抄）

令和２年度調査

令和２年

12月７日（月）　重機、機材搬入。奈良市教育委員会立会いのもと、調査区の設定および調査区西からの機械掘削を行う。地表から約 1.1m 下で地山を検出。

12月８日（火）　機械掘削を継続。東側を中心に攪乱が多く、機械掘削に並行して、攪乱の掘削を進める。

12月９日（水）　機械掘削を継続。並行して調査区壁の成形を行う。調査区中程に陶磁器を含む埋土の東西方向の溝を確認する。

12月11日（金）　機械掘削を完了し、完了状況の写真を撮影する。調査区内に測量用の基準杭を設置する。

12月14日（月）　調査区西端より遺構検出を始め、遺構検出状況の略図を作成する。

12月15日（火）　遺構検出作業継続。西区は南側で柱穴が多数検出される。

12月16日（水）　遺構検出に並行して遺構掘削を開始する。

12月17日（木）　SD020 の最下層から土器、瓦がまとまって出土する。奈良時代の溝と考えられる。

12月21日（月）　空中測量へ向けて柱穴の段下げを行う。

12月22日（火）　西区全景撮影、空中測量を実施。

12月23日（水）　柱穴の掘削を開始。

12月26日（土）　柱穴の掘削、記録作業完了。年内の調査を終える。

令和３年

1月５日（火）　東区の調査を開始する。西区の調査完了状況について奈良市教育委員会による確認。

1月７日（木）　東区の遺構検出完了。建物基礎による攪乱が多い。

1月12日（火）　降雪のため、午前中は作業中止。

1月13日（水）　遺構掘削を開始。

1月14日（木）　東西に並ぶ不定形な土坑の掘削を開始する。

1月18日（月）　不定形な土坑群に坪内を分割する道路側溝の可能性。北側は深く、南側は浅い特徴を持つ。

1月19日（火）　空中測量へ向けて柱穴の段下げを行う。

1月20日（水）　西区全景撮影、空中測量を実施。

1月21日（木）　柱穴の掘削を開始。ベルトコンベア搬出。

1月25日（月）　調査区中程の砂層付近に下層確認トレンチを設定して掘削。遺物はみられないが、流水の痕跡あり。奈良市教育委員会による調査状況の確認。

1月26日（火）　調査終了状況の写真撮影。

1月29日（金）　資機材撤収、現地調査終了。

令和４年度調査

令和４年

４月 18 日（月）　重機、機材搬入。奈良市教育委員会立会いのもと、調査区の設定および調査区北から機械掘削を行う。地表から約 1.4m 下で地山を検出。

４月 19 日（火）　機械掘削を継続。調査区に沿って近代の溝を検出。北東部は奈良時代の土器などを含む整地土の可能性がある。

４月 20 日（水）　機械掘削を継続。南から遺構検出を開始。

４月 21 日（木）　機械掘削完了。機械掘削完了状況、調査区南側の遺構検出状況の写真撮影。午後からは降雨のため作業中止。

４月 22 日（金）　調査区内に測量用の基準杭を設置する。

４月 25 日（月）　遺構検出を北から開始する。略測図の作成と並行して、近世以降の遺構の掘削を進める。

４月 26 日（火）　遺構検出を継続。調査区北寄りに整地土と考えられる褐色土と暗褐色土を確認する。整地土には複数の時期がある可能性あり。

４月 27 日（水）　遺構検出は調査区中央部と東側拡張区へ進む。東側拡張区は既存建物などにより大きく攪乱されている。

５月９日（月）　調査区南側の遺構検出を行う。SD220、SD230 の検出状況の写真撮影を行った後、掘削を開始する。

５月 10 日（火）　SD220 最上層より灰釉陶器片が出土する。溝の埋没が平安時代まで下ることを示す。

５月 11 日（水）　SD220 及び整地土にサブトレンチを設定し掘削。整地土のうち暗褐色土については修繕による可能性が考えられる。滋賀県立大学佐藤氏、橿原市教育委員会上井氏来跡。

５月 16 日（月）　調査区壁面を精査し、壁面土層図を作成。

５月 17 日（火）　奈良市教育委員会中島氏来跡。

５月 18 日（水）　全景撮影、空中測量を実施。整地土の掘削を開始。

５月 19 日（木）　整地土掘削継続。整地土については上層の暗褐色土を整地土１、下層の褐色土を整地土２とする。整地土１完掘状況の写真撮影を行う。調査区南側柱穴群を掘削し、埋没状況の写真撮影及び断面図作成を行う。ベルトコンベア搬出。

５月 20 日（金）　整地土２の掘削後、完掘状況の写真撮影を行う。調査区南側の柱穴群完掘し、完掘状況の写真撮影を行う。調査終了状況の写真撮影。機材撤収、現地調査終了。

第２章　遺跡の立地と歴史的環境

第１節　遺跡の立地と環境

調査地は奈良市西木辻町 88 番地外に所在し、平城京左京五条五坊十一坪南東部および十四坪南西部にあたる。調査前は工場が存在する状況であった。

調査地の周辺は、奈良盆地北東部に位置する。この地域は木津川屈曲部からウワナベ古墳横を抜けて帯解付近へ続く佐保田撓曲と、奈良市大安寺町から天理市丹波市町付近まで延びる帯解断層の間に存在する低位段丘面にあたり（産業技術総合研究所 2014）、東から西へ緩やかに降っている。

第２節　周辺の既往調査

これまでの十一坪内の調査には、奈良市教育委員会による HJ 第 478 次調査（以下、市 478 次調査、他も同様）、奈良県立橿原考古学研究所による 1990 年度調査（以下、県 1990 年度調査、他も同様）がある。十四坪内での調査は行われていない。

調査地から約 80m 西で行われた市 478 次調査では、奈良時代の掘立柱建物や塀、土坑、井戸、溝が確認されている（奈良市教育委員会 2006）。また平安時代に下る掘立柱建物などの遺構も確認されて

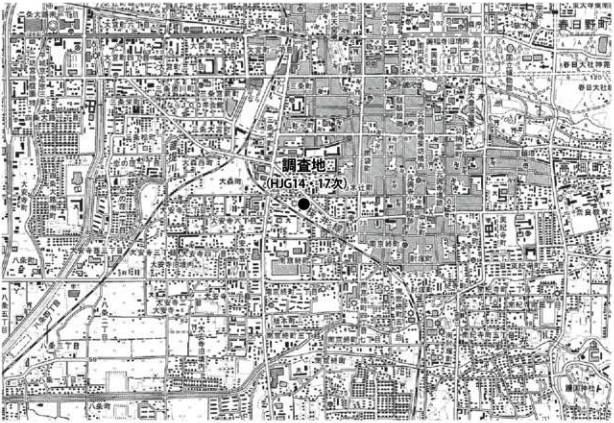


図１　調査地位置図（S=1/25,000）

おり、平城京廃都後も宅地として利用されていたことが明らかとなっている。調査地の西側の敷地で行われた県 1990 年度調査では調査区南半を中心に奈良時代の掘立柱建物や土坑が確認されている（奈良県立橿原考古学研究所 1991）。

さらに周辺の調査での条坊道路の調査成果に目を向けてみると、東五坊坊間路で調査成果が多く蓄積されている。奈良市教育委員会による昭和 55 年度の調査（奈良市教育委員会 1982a）での検出を皮切りに、市 17 次調査（奈良市教育委員会 1982b）、市 313 次調査（奈良市教育委員会 1995a）、市 615 次調査（奈良市教育委員会 2011）、県 2001 年度調査（奈良県立橿原考古学研究所 2013）で確認されている。これ以外では、東五坊大路の両側溝が確認された市 333 次調査（奈良市教育委員会 1995b）、東五坊坊間東小路の東側溝が確認された市 274 次調査（奈良市教育委員会 1994）などがある。東五坊大路が条坊復元想定位置で確認されているのに対し、東五坊坊間路と東五坊坊間東小路が想定位置より西で確認されている点には注意が必要である。

第 3 節　本調査の課題

以上のような周辺の調査成果を踏まえ、本調査でも奈良時代を中心とした遺構・遺物が予想されることから、奈良時代の遺構の展開、特に坪内土地利用の解明を主な課題とした。また、令和 4 年度調査区では既往の調査成果から東五坊坊間東小路の検出の可能性もあることから、道路側溝の存在にも留意して調査を行った。

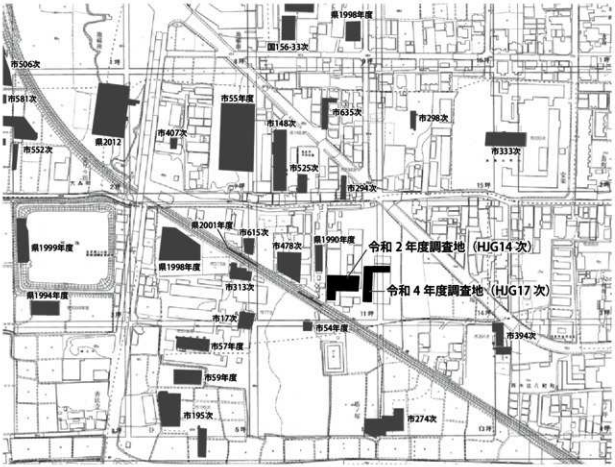


図 2　今回の調査地と既往の調査地（『平城京条坊総合地図』を改変）（S=1/4,000）

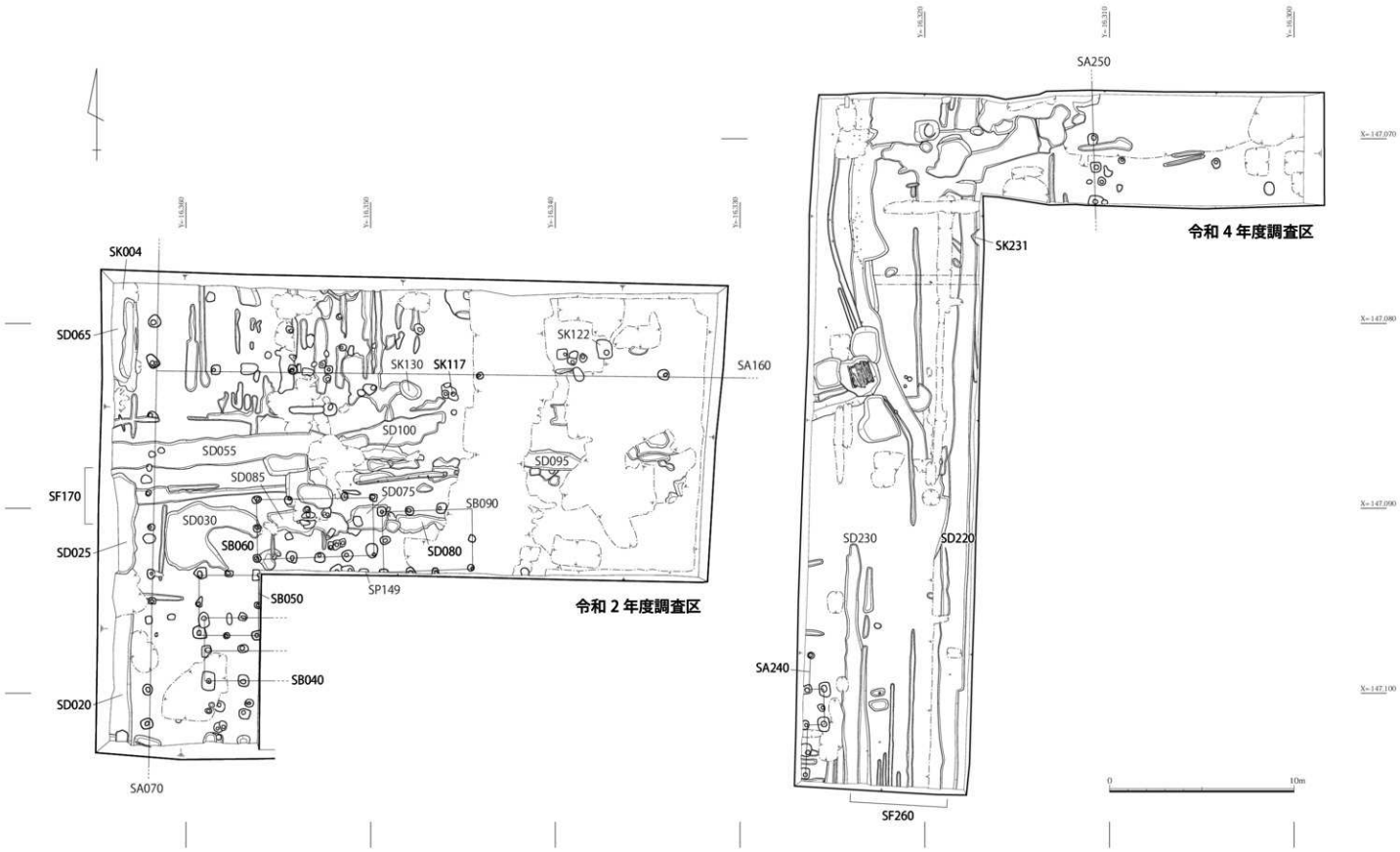


図３　全体平面図（S=1/200）

第３章　調査の成果

第１節　基本層序と遺構面の認定

(1) 令和２年度調査

調査区は南北 26m、東西 33m から、既存建物による破壊が予測される南東隅の東西 24m、南北 10m を除外した L 字形に設定を行った。開発工事との兼ね合いもあり、調査区西側の東西 9m、南北 26m の部分（西区）から調査を行い、その完了後、東側の東西 24m、南北 16m の部分（東区）の調査を行った。

調査区の地山面は東西南北ほぼ比高差なく平坦である。東側を中心に現代の攪乱が著しいため層序は一定でないが、おおよそ層厚約 70cm の現代盛土、層厚 10 ～ 30cm の近現代耕土、層厚 15cm の近世耕土、層厚 10cm の中世耕土であり、これらを除去すると大阪層群を母材とする細砂層が存在し、この細砂上面を遺構面とした。細砂には遺物を含まず、細砂以下のシルト層からも遺物の出土はみられない。調査区北側では、河川堆積によるものと考えられる粗砂～礫層となり、この上面での遺構検出となった。

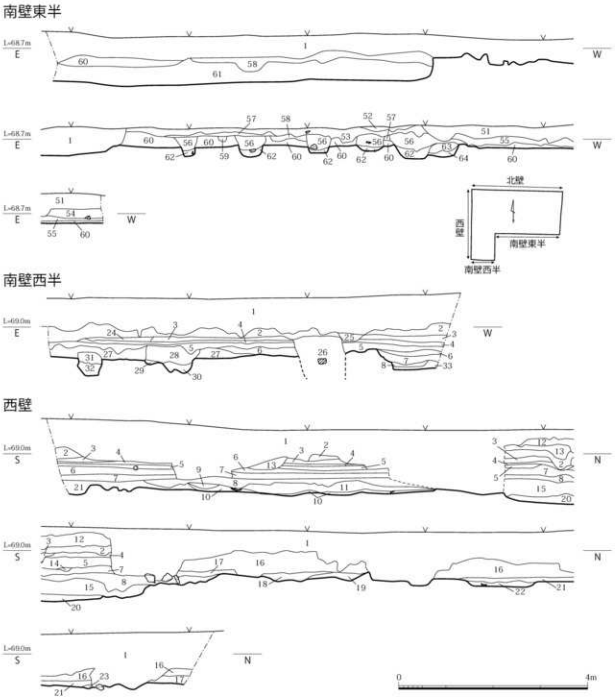
遺構面の調査の後、調査区北東寄りの粗砂の堆積がみられる部分に下層確認トレンチを設定し、遺構面下の堆積の状況および砂礫層から遺物が出土しないことを確認した。

(2) 令和４年度調査

調査区は既存建物による破壊を免れている南北 36m、東西 9m に加えて、北端から南北 6m、東西 10m を東に拡張し、既存建物下ではあるが、破壊を免れている可能性がある拡張区を合わせた L 字形に設定を行った。

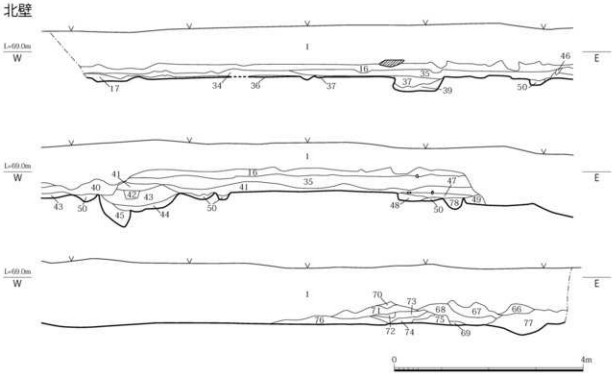
調査区の地山面は東西南北ほぼ比高差なく平坦であるが、西側は近世以降の土地利用により約 20cm の段差をもって低くなっている。東側での層序は、おおよそ層厚約 30cm の現代盛土、層厚 10cm の近現代耕土、層厚 5 ～ 10cm の近世耕土、層厚 5 ～ 15cm の中世耕土であり、これらを除去すると大阪層群を母材とする細砂層が存在し、この細砂上面を遺構面とした。調査区南寄りには粗砂の堆積がみられ、旧流路であると考えられる。

拡張区を除く調査区の東側には、厚さ 10 ～ 20cm の 2 種類の整地土がみられる。北側ではいずれの整地土もみられることから、上層から整地土 1、整地土 2 として調査を行った。



1. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 細砂混シルト（径 30 ～ 150mm 程の礫を多量に含む）（表土）
2. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混シルト（径 1 ～ 10mm の礫，炭化物を中量含む）
3. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混シルト（径 1 ～ 3mm の礫，炭化物を中量含む）
4. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混シルト（鉄分を多量，径 1 ～ 3mm の礫，炭化物を少量含む）
5. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混シルト（径 1 ～ 3mm の礫を中量，炭化物を少量含む）
6. 黄褐 2.5Y5/3 中砂混シルト（径 1 ～ 5mm 程の礫を多量，炭化物，土器片を少量含む）
7. 黄褐 2.5Y4/1 中砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを中量，径 10 ～ 20mm の礫，土器片を少量含む）（SD020）
8. 黄褐 2.5Y4/1 中砂混シルト（亜円状地山ブロック，炭化物を少量含む）（SD020）
9. 黄褐 2.5Y4/1 細砂混シルト（マンガンを多量，炭化物を中量含む）
10. 黒褐 2.5Y3/1 細砂混シルト（炭化物，土器片を多量に含む））
11. 暗オリーブ褐 2.5Y3/2 中砂混シルト（径 10 ～ 50mm の礫を中量，炭化物，土器片を少量含む）
12. 明黄褐 2.5Y7/6 細砂
13. 黒褐 10YR3/2 細砂混シルト（径 10mm の礫を少量含む）
14. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混シルト（径 3 ～ 10mm の礫を少量含む）
15. 暗灰黄 2.5Y5/2 細砂混シルト（SD025）
16. 黒褐 2.5Y3/1 細砂混シルト（径 10 ～ 20mm の礫を少量含む）
17. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混シルト（径 1 ～ 3mm の礫を少量含む）
18. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを少量含む）
19. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを多量に含む）
20. 暗灰黄 2.5Y5/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを多量に含む）
21. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（マンガン，炭化物を少量含む）（SD065）

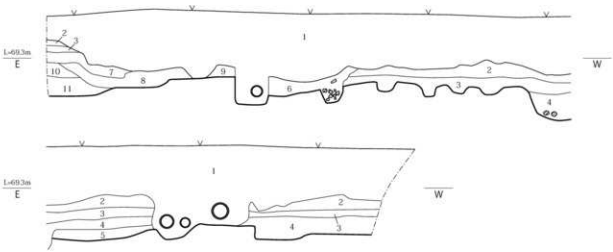
図 4　令和 2 年度調査　壁面土層断面図（1）（S=1/80）



22. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（マンガン、炭化物を多量に含む）（SD065）
23. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（マンガンを多量に含む）（SD065）
24. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混シルト（径 10mm の礫を少量含む）
25. 暗オリーブ 2.5Y4/3 細砂混シルト（径 10 ～ 30mm の礫を少量含む）
26. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混シルト（炭化物を多量に含む）
27. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混シルト（マンガン、炭化物を含む）
28. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混シルト（マンガン、炭化物を多量に含む、土器片少量含む）
29. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロックを少量含む）
30. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロックを含む）
31. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロックを含む）（S-67）
32. 暗灰黄 2.5Y4/2 中砂混シルト（垂角礫状地山ブロックを多量に含む）（S-67）
33. オリーブ褐 2.5Y4/4 細砂混シルト（マンガン、炭化物を含む）（ベース土）
34. オリーブ黒 7.5Y3/2 細砂混シルト（径 10mm の礫を含む）
35. オリーブ黒 7.5Y3/1 細砂混シルト
36. オリーブ黒 7.5Y3/2 中砂混シルト（垂角礫状地山ブロックを多量に含む）
37. オリーブ黒 7.5Y3/2 中砂混シルト
38. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混シルト（径 50mm に礫、炭化物を少量含む）（S-73）
39. オリーブ黒 5Y3/1 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック少量含む）（S-73）
40. 灰 5Y4/1 細砂混シルト（径 1 ～ 3mm の礫、鉄分中量含む）
41. 灰 7.5Y4/1 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック多量に含む）
42. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック多量に含み、マンガン、炭化物、径 1 ～ 5mm の礫少量含む）
43. 灰オリーブ 5Y5/2 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック多量に含む）（S-81）
44. 灰 10Y4/1 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック少量含む）（S-81）
45. 灰 10Y4/1 中砂混シルト（垂角礫状地山ブロック中量含む）（S-81）
46. オリーブ灰 10Y5/2 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック、径 10mm 程の礫多量に含み、炭化物少量含む）
47. オリーブ褐 2.4Y4/3 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック中量、径 1 ～ 10mm の礫、炭化物少量含む）
48. オリーブ褐 2.4Y4/3 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック中量、径 1 ～ 10mm の礫、炭化物、土器片少量含む）
49. 灰 7.5Y5/1 シルト（垂角礫状地山ブロックを多量に含む）
50. 灰オリーブ 5Y5/2 細砂混シルト
51. 灰 7.5Y4/1 細砂混シルト（径 1 ～ 10mm の礫、炭化物、木片少量含む）
52. オリーブ黒 5Y3/1 シルト（径 1 ～ 10mm 程の礫多量に含む）
53. 灰オリーブ 5Y5/2 細砂混シルト（径 1 ～ 10mm 程の礫、マンガン中量含む）
54. 灰 5Y4/1 中砂混シルト（径 1 ～ 20mm の礫中量、炭化物、木片、マンガン中量含む、鉄分沈殿）
55. オリーブ黒 5Y3/1 中砂混シルト（炭化物、木片、マンガン中量含む）
56. 灰 7.5Y4/1 細砂混シルト（マンガン、炭化物多量、土器、瓦片と径 1 ～ 10mm の礫中量含む）
57. 灰 7.5Y4/1 細砂混シルト（マンガン多量、炭化物中量含む）
58. 灰 10Y5/1 細砂混シルト（マンガン、垂角礫状地山多量、径 30 ～ 50mm の垂円礫中量含む）
59. 灰オリーブ 5Y5/2 細砂混シルト（マンガン、垂角礫状地山ブロック多量に含む）
60. 灰オリーブ 5Y5/2 細砂混シルト（マンガン、垂角礫状地山ブロック中量含む）
61. 灰 7.5Y6/1 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック多量、径 1 ～ 50mm 程の礫中量、マンガン少量含む）
62. 灰 5Y5/1 細砂混シルト（炭化物、マンガン少量含む）
63. 明黄褐 10YR6/8 シルト（垂角礫状地山ブロック、径 1 ～ 50mm の礫多量に含む）
64. 灰 10Y5/1 細砂（垂角礫状地山ブロック、径 1 ～ 50mm の礫多量に含む）
65. 黄灰 2.5Y6/1 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック多量、マンガン、炭化物少量含む）（ベース土）
66. 黄灰 2.5Y6/1 細砂混シルト（垂角礫状地山ブロック多量に含む）
67. オリーブ黒 5Y3/1 細砂（垂角礫状地山ブロック、径 1 ～ 3mm 程の礫を少量含む）（葉理あり）
68. 暗オリーブ 5Y4/3 中砂（鉄分を多量、径 1mm 程の礫を少量含む）（葉理あり）
69. 暗褐 10YR3/3 極細砂混シルト（鉄分を多量、径 1mm 程の礫を少量含む）
70. 褐灰 10YR4/1 細砂（鉄分を少量含む）
71. 灰 5Y5/1 中砂（鉄分を中量含む）（葉理あり）
72. 灰 10Y5/1 粗砂（葉理あり）
73. 灰 10Y5/1 粗砂（鉄分を中量含む）（葉理あり）
74. 灰 10Y5/1 粗砂（葉理あり）
75. オリーブ黒 5Y3/2 中砂（鉄分を少量含む）
76. 灰オリーブ 5Y4/2 粗砂（鉄分を少量含む）
77. 灰 5Y4/1 細砂（径 1 ～ 3mm の礫、垂角礫状地山ブロックを多量に含む）
78. 暗緑灰 7.5GY4/1 シルト（垂角礫状地山ブロックを中量含む）

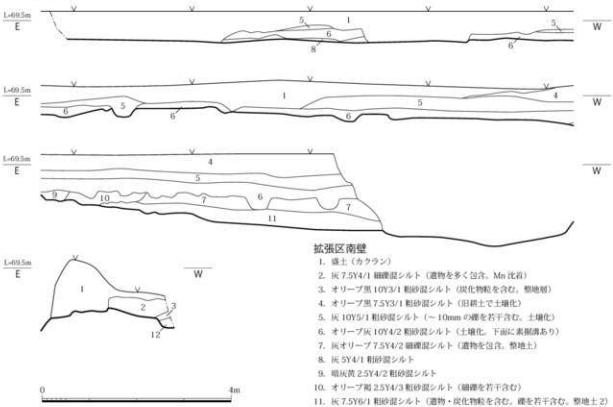
図５　令和２年度調査　壁面土層断面図（2）（S=1/80）

南壁



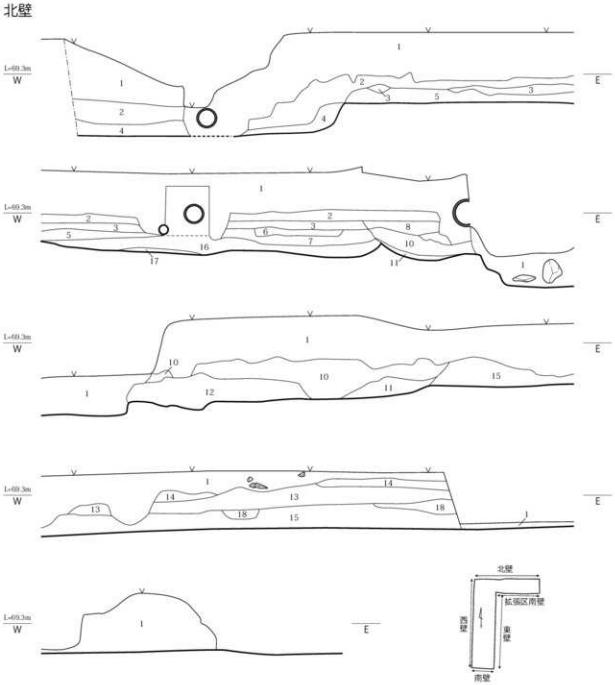
南壁
1. 盛土（カクラン）
2. 青黒 10BG2/1 シルト（粗砂～ 10mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
3. 暗オリーブ灰 5GY3/1 粗砂混シルト（～ 20mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
4. 暗オリーブ灰 5GY4/1 シルト（粗砂～ 10mm の礫を若干含む。下面に南北方向の素掘溝あり。旧耕土で土壌化。遺物を包含）
5. オリーブ黒 10Y3/1 シルト（～ 20mm の礫を若干含む。Fe, Mn 沈着。SD230 理土）
6. 暗オリーブ灰 5GY4/1 粗砂混粘土（カクラン。西側は礫を充填した暗渠）
7. 灰 7.5Y4/1 シルト（粗砂・細礫を若干含む。固くしまる）
8. 灰 10Y5/1 シルト（若干粗砂を含む。遺物が多い。SD220 理土）
9. 灰 7.5Y5/1 粗砂混シルト（整地層か）
10. 灰 5Y4/1 シルト（若干粗砂が混じる。遺物を包含。Fe, Mn 沈着。整地層か）
11. 暗褐 10YR3/3 粗砂混シルト（部分的に細礫を含む。整地土 2）

拡張区南壁



拡張区南壁
1. 盛土（カクラン）
2. 灰 7.5Y4/1 細礫混シルト（遺物を多く包含。Mn 沈着）
3. オリーブ黒 10Y3/1 粗砂混シルト（炭化物粒を含む。整地層）
4. オリーブ黒 7.5Y3/1 粗砂混シルト（旧耕土で土壌化）
5. 灰 10Y5/1 粗砂混シルト（～ 10mm の礫を若干含む。土壌化）
6. オリーブ灰 10Y4/2 粗砂混シルト（土壌化。下面に素掘溝あり）
7. 灰オリーブ 7.5Y4/2 細礫混シルト（遺物を包含。整地土）
8. 灰 5Y4/1 粗砂混シルト
9. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混シルト
10. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂混シルト（細礫を若干含む）
11. 灰 7.5Y6/1 粗砂混シルト（遺物・炭化物粒を含む。礫を若干含む。整地土 2）
12. 灰黄 2.5Y5/1 シルト（黄褐 2.5Y5/3 シルトブロック・細礫を含む）

図 6　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（3）（S=1/80）



1. 盛土（カクラン）
2. 青黒 10BG2/1 シルト（粗砂～ 10mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
3. 暗オリーブ灰 5GY3/1 粗砂混シルト（～ 20mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
4. 灰 10YS/1 粗砂混シルト（～ 10mm の礫を若干含む。土壌化）
5. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂混シルト（～ 50mm の礫を若干含む。Fe 沈着。遺物を包含）
6. オリーブ褐 2.5Y4/3 シルト（～ 20mm の礫を若干含む。SD220 埋土）
7. 灰 7.5Y4/1 粗砂混シルト（SD220 埋土。Mn 沈着）
8. 灰 10Y4/1 粗砂混シルト（土壌化）
9. 灰 7.5Y4/1 シルト（粘土ブロックを含む。土壌化）
10. 灰 10Y4/1 礫混シルト
11. 暗緑灰 10GY4/1 シルト
12. 暗オリーブ灰 5GY4/1 シルト（地山粘土ブロックを含む）
13. 灰オリーブ 5Y5/3 シルト（粗砂・細礫を若干含む）
14. 灰 5Y4/1 粗砂混シルト（旧耕土で土壌化）
15. 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 シルト混粗砂（～ 10mm の礫を多く含む）
16. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂混シルト（遺物・炭化物粒が多い。Mn 沈着。整地土 2）
17. 暗灰黄 2.5Y5/2 シルト
18. 黄褐 2.5Y5/4 粗砂混シルト

図７　令和４年度調査　壁面土層断面図（4）（S=1/80）

東壁

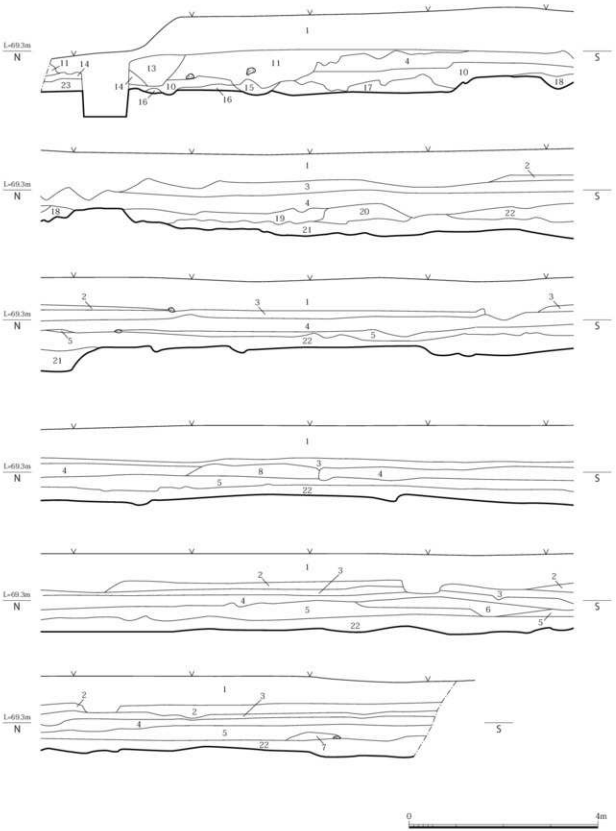


図 8　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（5）（S=1/80）

西壁１

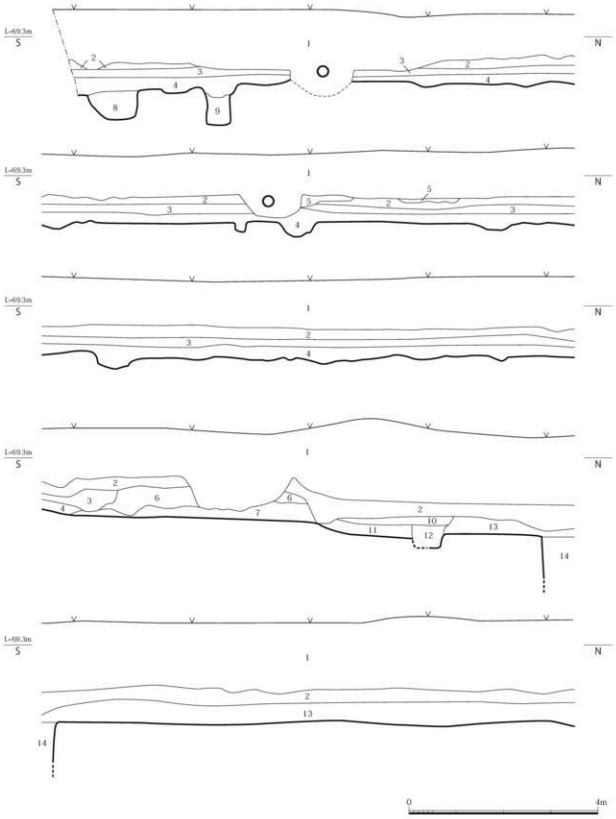
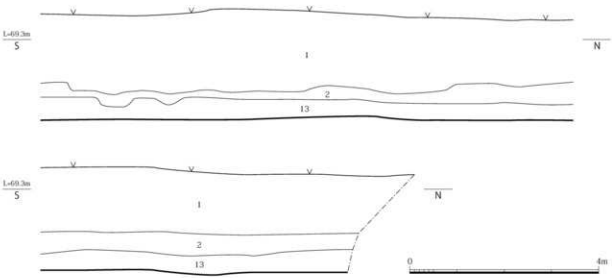


図９　令和４年度調査　壁面土層断面図（6）（S=1/80）

西壁 2



西壁

1. 盛土（カクラン）
2. 青黒 10BG2/1 シルト（粗砂～ 10mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
3. 暗オリーブ灰 5GY3/1 粗砂混シルト（～ 20mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
4. 暗オリーブ灰 5GY4/1 シルト（粗砂～ 10mm の礫を若干含む。下面に東西方向の素掘溝あり。遺物を包含。旧耕土で土壌化）
5. オリーブ灰 2.5GY5/1 シルト（粗砂を若干含む。下部に Fe 沈着。やや土壌化）
6. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂混シルト（～ 10mm の細礫を含む。上部に Fe 沈着。畔状の高まりか）
7. 灰 10Y5/1 シルト混粗砂（Fe 沈着）
8. 黄灰 2.5Y5/1 粗砂混シルト（SB240a 埋土）
9. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂混シルト（Mn 沈着）
10. 灰 7.5Y5/1 粗砂混シルト（地山粘土ブロックを若干含む）
11. 暗緑灰 10GY4/1 シルト混粗砂
12. 灰 10Y4/1 シルト混礫（暗渠）
13. 灰 10Y5/1 粗砂混シルト（～ 10mm の礫を若干含む。土壌化）
14. オリーブ黒 10Y3/1 粘土（近世以降の農業用井戸）

東壁

1. 盛土（カクラン）
2. 青黒 10BG2/1 シルト（粗砂～ 10mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
3. 暗オリーブ灰 5GY3/1 粗砂混シルト（～ 20mm の礫を若干含む。旧耕土で土壌化）
4. 灰 7.5Y4/1 シルト（粗砂・細礫を若干含む。固くしまる）
5. 灰 5Y4/1 シルト（若干粗砂が混じる。遺物を包含。Fe,Mn 沈着。整地層か）
6. 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 粗砂混シルト
7. 暗緑灰 7.5GY4/1 シルト混粗砂（整地層）
8. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂混シルト（Fe 沈着。遺物を包含）
9. 黄灰 2.5Y5/1 シルト（Fe 沈着。南北方向素掘溝埋土）
10. オリーブ黒 10Y3/1 細礫混シルト（遺物を多く包含。整地土 1）
11. 灰 7.5Y4/1 細礫混シルト（遺物を多く包含。Mn 沈着）
12. 灰 10Y5/1 シルト混中砂（～ 50mm の礫を若干含む）
13. オリーブ黒 7.5Y3/1 粗砂混シルト
14. オリーブ黒 10Y3/1 粗砂混シルト（炭化物粒を含む。整地層）
15. 灰黄 2.5Y6/2 粗砂混細砂
16. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混シルト
17. にぶい黄褐 10YR5/3 粗砂混シルト（整地土 2）
18. にぶい黄褐 10YR5/3 シルト（細礫が混じる。整地土 1 下部）
19. 灰黄褐 10YR4/2 シルト（整地土 1）
20. にぶい黄褐 10YR5/3 シルト（遺物を包含。整地層）
21. 褐 10YR4/4 粗砂混シルト（部分的に Mn 粒が多い。均質。整地土 2）
22. 暗褐 10YR3/3 粗砂混シルト（部分的に細礫を含む。整地土 2）
23. 黄灰 2.5Y5/1 シルト（黄褐 2.5Y5/3 シルトブロックを含む。細礫が混じる）

図 10　令和 4 年度調査　壁面土層断面図（7）（S=1/80）

第２節　令和２年度調査

（1）検出遺構

道路遺構

SF170（図 11、図版３～５）

調査区中央部で検出した。SD095、100 を北側溝、SD030・075・080・085 を南側溝とする東西方向の坪内道路である。側溝心心間距離で 3.75m を測り、12 小尺程度の設計であったと考えられる。側溝は遺構により様相が異なるが、幅 1.0 ～ 1.5m 程度、遺構面からの深さ 0.1 ～ 0.3m を測り、断面形態は逆台形を呈する。主軸方向は西で 1° 59′ 北へ振れるものである。埋土は地山ブロックを含む細砂混じりのシルトからなり、機能停止後、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には奈良時代後半の土師器・須恵器などがある。

掘立柱建物

SB040（図 12、図版５・６）

調査区南側で検出した。重複関係から SB050 に後出する。南北二間、東西二間以上の規模を持つ総柱建物であると考えられる。柱間は南北方向で 168 ～ 177cm、東西方向で 212 ～ 185cm、主軸方向は北で 4° 44′ 西へ振れるものである。柱材はいずれも抜き取られているが、抜き取りの痕跡からは直径 15cm 程度の柱が想定できる。

出土遺物には奈良時代の土師器・須恵器がある。

SB050（図 13、図版６・７）

調査区南側で検出した。重複関係から SB040 に先行する。南北二間×東西二間の規模を持つ。柱間は 147 ～ 165cm で、主軸方向は北で 0° 57′ 東へ振れるものである。四隅の柱穴に対して、間の柱穴の規模が小さい。柱材はいずれも抜き取られているが、抜き取りの痕跡からは直径 15cm 程度の柱が想定できる。

出土遺物には奈良時代の土師器・須恵器などがあるが、小片のため図示していない。

SB060（図 14、図版７～ 10）

調査区中央部で検出した。重複関係から SD030 に先行する。南北二間×東西四間の規模を持つ東西棟の建物と考えられる。柱間は 143 ～ 193cm を測り、主軸方向は北で 0° 57′ 東へ振れるものである。柱材はいずれも抜き取られているが、抜き取りの痕跡からは直径 15cm 程度の柱が想定できる。

出土遺物には奈良時代の土師器があるが、小片のため図示していない。

SB090（図 15、図版 11・12）

調査区中央部で検出した。重複関係から SD075 に先行する。南北二間×東西三間の規模を持つ東西棟と考えられる。柱間は 140 ～ 196cm を測り、主軸方向は北で 1° 43′ 西へ振れるものである。柱材はいずれも抜き取られているが、抜き取りの痕跡からは直径 15 ～ 20cm 程度の柱が想定できる。

出土遺物には奈良時代の土師器・須恵器がある。

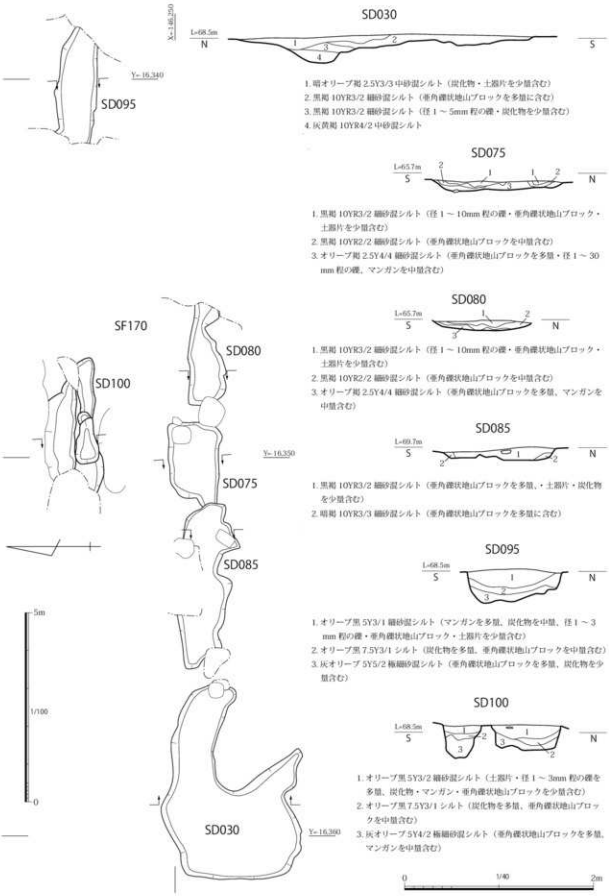
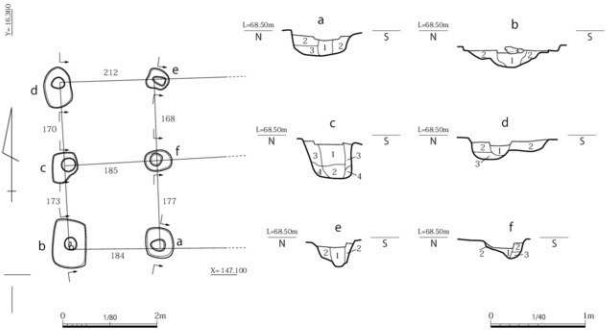


図 11　SF170、SD030・075・080・085・095・100 平面・土層断面図（平面 S=1/100・断面 S=1/40）



a

1. 暗黄褐 2.5Y5/2 中～粗砂混礫砂（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂～細砂混礫～中砂（径 10 ～ 30mm 程の地山ブロックを多量、径 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを含む）（掘方）
3. 黒褐 2.5Y3/2 中砂混シルト（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）

b

1. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂混シルト～細砂（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混細砂（径 20 ～ 50mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）

c

1. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混シルト（径 20mm 程の亜角円礫状地山ブロック・炭化物を少量含む）（抜取）
2. 黒褐 2.5Y3/2 中～粗砂混シルト（径 20mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
3. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂～細礫混細砂（径 20 ～ 40mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）
4. 黒褐 2.5Y3/2 粗砂～細礫混シルト～細砂（径 5 ～ 50mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）

d

1. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混シルト（径 5 ～ 20mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混シルト（径 20 ～ 90mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）
3. 暗灰黄 2.5Y5/2 細砂～細礫混シルト（径 10 ～ 20mm 程の礫を多量に含む）（掘方）

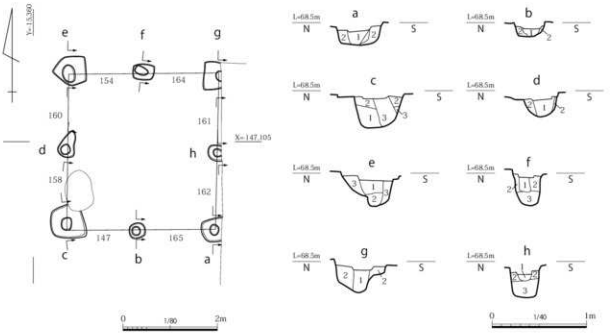
e

1. 黄褐 2.5Y5/3 細礫混細砂（径 10 ～ 20mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（抜取）
2. オリーブ褐 2.5Y4/4 粗砂混細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）

f

1. 暗褐 10YR3/3 粗砂～細礫混細砂（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫・径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗褐 10YR3/3 粗砂混シルト～細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量、径 20 ～ 40mm の亜角礫を少量含む）（掘方）
3. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂～細礫混細砂（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）

図 12　SB040 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）



a

1. 暗黄褐 2.5Y5/2 中～粗砂混細砂（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂～細砂混細～中砂（径 10 ～ 30mm 程の地山ブロックを多量、径 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを含む）（掘方）
3. 黒褐 2.5Y3/2 中砂混シルト（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）

b

1. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂混シルト～細砂（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混細砂（径 20 ～ 50mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）

c

1. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混シルト（径 20mm 程の亜角円礫状地山ブロック・炭化物を少量含む）（抜取）
2. 黒褐 2.5Y3/2 中～粗砂混シルト（径 20mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
3. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂～細礫混細砂（径 20 ～ 40mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）
4. 黒褐 2.5Y3/2 粗砂～細礫混シルト～細砂（径 5 ～ 50mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）

d

1. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混シルト（径 5 ～ 20mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混シルト（径 20 ～ 90mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）
3. 暗灰黄 2.5Y5/2 細砂～細礫混シルト（径 10 ～ 20mm 程の礫を多量に含む）（掘方）

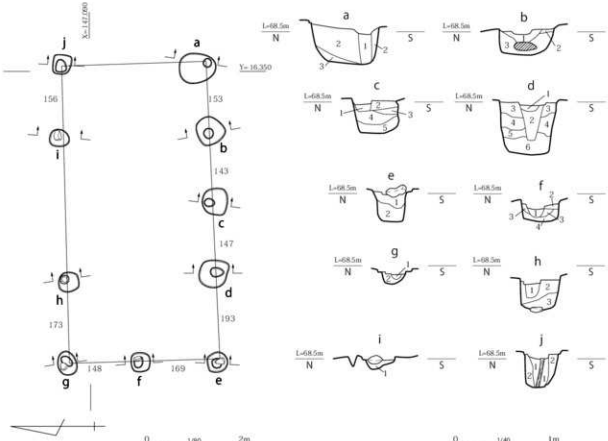
e

1. 黄褐 2.5Y5/3 細礫混細砂（径 10 ～ 20mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（抜取）
2. オリーブ褐 2.5Y4/4 粗砂混細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）

f

1. 暗褐 10YR3/3 粗砂～細礫混細砂（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫・径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗褐 10YR3/3 粗砂混シルト～細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角円礫状地山ブロックを多量、径 20 ～ 40mm の亜角礫を少量含む）（掘方）
3. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂～細礫混細砂（径 10mm 程の亜角円礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）

図 13　SB050 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）



a
1. オリーブ褐 2.5Y4/3 粗砂混シルト（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロック・マンガンを少量含む）（抜取）
2. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粗砂混シルト（マンガンを少量，径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロック・直径 10 ～ 50mm 程の亜角礫を含む）（掘方）
3. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混シルト（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロック・直径 10 ～ 20mm 程の亜角礫を少量含む）（掘方）

b
1. 暗褐 10YR3/3 粗砂混シルト（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロック・マンガンを少量含む）（抜取）
2. 暗褐 10YR3/3 粗砂混シルト（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロック・マンガンを含む）（掘方）
3. 黒褐 10YR3/2 粗砂混シルト（径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量，マンガンを少量含む）（掘方）

c
1. 暗褐 10YR3/3 粗砂混細砂（マンガンを少量，径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを含む）（抜取）
2. にぶい黄褐 10YR4/3 粗砂混細砂（マンガンを少量，径 10 ～ 50mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量に含む）（掘方）
3. 黒褐 10YR2/2 粗砂混シルト（径 5 ～ 10mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）
4. 褐 10YR4/4 粗砂～細礫混細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量，マンガンを少量含む）（掘方）
5. 黒褐 10YR3/2 粗砂混シルト（径10～30mm程の亜角礫状地山ブロックを含む）（掘方）

d
1. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを多量，炭化物を少量含む）（抜取）
2. 灰オリーブ 5Y4/2 粗砂混シルト（炭化物を多量，亜角礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
3. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロック・炭化物を含む）（掘方）
4. 灰 5Y4/1 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを多量，炭化物を少量含む）（掘方）
5. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロック・炭化物を含む）（掘方）
6. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを多量，炭化物を少量含む）（掘方）

e
1. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混シルト（炭化物を多量，亜角礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混シルト（炭化物を多量，亜角礫状地山ブロックを少量含む）

f
1. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロック・マンガンを少量含む）（抜取）
2. 褐 10YR4/4 シルト（亜角礫状地山ブロックを多量に含む）
3. 黒褐10YR3/2シルトマンガンを多量,亜角礫状地山ブロックを少量含む）（掘方）
4. 灰黄 2.5Y4/1 シルト（亜角礫状地山ブロックを多量に含む）

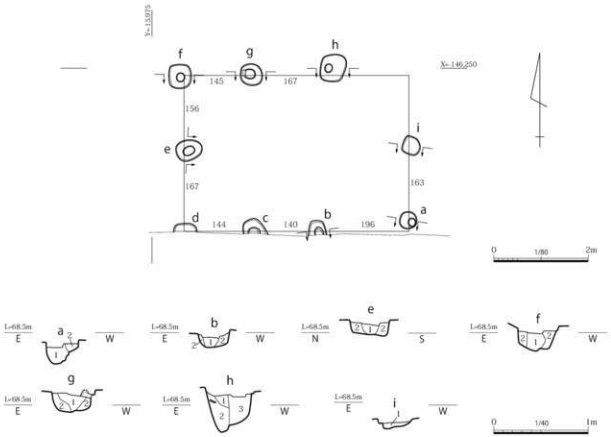
g
1. 暗褐 10YR3/3 細砂混シルト（マンガンを多量に含む）（抜取）
2. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを多量に含む）（抜取）

h
1. 黄灰 2.5Y4/1 中砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 黄灰 2.5Y5/1 細砂混シルト（亜角礫状地山ブロックを多量，炭化物を少量含む）（掘方）
3. 黄灰 2.5Y5/1 中砂（亜角礫状地山ブロックを少量含む）

i
1. 褐 10YR4/4 粗砂混細砂（マンガンを少量，径 5 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを含む）

j
1. 灰黄 2.5Y5/1 粗砂混シルト～細砂（径 5 ～ 10mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混シルト（直径 10 ～ 30mm 程の亜角礫・マンガンを少量，径 5 ～ 10mm 程の亜角礫状地山ブロックを含む）（掘方）

図 14　SB060 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）



a
1. 灰黄褐 10YR5/2 粗砂混細砂～中砂（径 5 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量、マンガンを少量含む）（抜取）
2. にぶい黄褐 10YR4/3 粗砂混中砂（径 5 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量、マンガンを少量含む）（掘方）

b
1. 灰黄褐 10YR6/2 粗砂混中砂（径 5 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを含む）（抜取）
2. 灰黄褐 10YR4/2 粗砂混中砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロック・マンガンを含む）（掘方）

e
1. 灰黄褐 10YR4/2 粗砂混シルト（径 10mm 程の亜角礫状地山ブロック・マンガンを少量含む）（抜取）
2. 黒褐 10YR3/2 粗砂混シルト（マンガンを多量、径 5mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）

f
1. 黒褐 10YR2/2 粗砂混シルト（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山を含む）（抜取）
2. 褐 10YR4/6 粗砂混シルト（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量、マンガンを少量含む）（掘方）

g
1. にぶい黄褐 10YR4/3 中砂混シルト（径 5 ～ 10mm 程の亜角礫状地山ブロック・直径 10mm 程の亜角礫を少量含む）（抜取）
2. にぶい黄褐 10YR4/3 粗砂混細砂（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量、マンガンを少量、直径 20mm 程の亜角礫を含む）（掘方）

h
1. 灰黄褐 10YR4/2 粗砂混シルト（径 10mm 程の亜角礫状地山ブロック・マンガンを少量含む）（抜取）
2. 黒褐 10YR3/2 粗砂混シルト（マンガンを多量、径 5mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）（抜取）
3. 暗褐 10YR3/3 粗砂混細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量、マンガンを含む）（掘方）

i
1. 灰黄褐 10YR4/2 粗砂混細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを含む）（抜取？）

図 15　SB090 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

掘立柱塀

SA070（図 16、図版 13 ～ 15）

調査区西側で検出した南北方向の掘立柱塀である。14 基の柱穴からなる 21.7m を確認した。柱間は一定せず、70 ～ 280cm を測り、主軸方向は北で 0° 55′ 東へ振れるものである。柱材はいずれも抜き取られているが、抜き取りの痕跡からは直径 15cm 前後の柱が想定できる。坪を東から約三分の一に区切るものと考えられる。

出土遺物には奈良時代の土師器・須恵器・瓦があるが、小片のため図示していない。

SA160（図 17、図版 15）

調査区北側で検出した東西方向の掘立柱塀である。攪乱などにより一部の柱穴は失われているが、7 基の柱穴からなる 16.3m を確認した。柱間は柱穴 d－g で 193 ～ 232cm を測り、主軸方向は西で 0° 36′ 北へ振れるものである。柱材はいずれも抜き取られているが、抜き取りの痕跡からは直径 15cm 程度の柱が想定できる。SA070 に直交し、坪を南から約八分の三に区切るものと考えられる。

出土遺物には奈良時代の土師器・須恵器がある。

溝

SD020（図 18）

調査区南西部で検出した南北方向の溝である。溝西肩は調査区外にあり、南側は調査区外へ伸びる。検出範囲では幅 1.1m で、約 7.1m 検出した。検出面からの深さは 0.2m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。底面の標高は北端で 68.1m、南端で 68.3m を測り、緩やかに北へ下がる。主軸方向は溝東肩が北で 1° 00′ 東へ振れるものである。埋土は地山ブロックを含む中砂混じりのシルトからなり、下層には土器片とともに炭化物を含む。開口状態での廃棄がしばらくなされた後に人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には下層を中心に出土した土師器・須恵器などがあり、平城宮土器Ⅲ～Ⅳに属するものである。

SD025（図 18、図版 16）

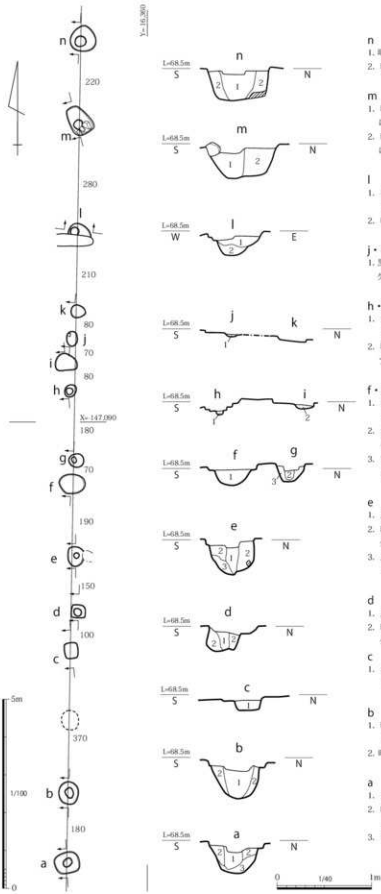
調査区南西部で検出した南北方向の溝である。溝西肩は調査区外にある。検出範囲では幅 1.1m で、約 5.5m 検出した。検出面からの深さは 0.5m を測り、断面形態は逆台形状を呈する。底面の標高は最も深い中央部で 68.0m 前後を測る。主軸方向は北で 0° 46′ 東へ振れるものである。埋土は地山ブロックを含む細砂混じりのシルトからなり、機能停止後、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には奈良時代に属する土師器・須恵器などがあるが、小片のため図示していない。

SD055（図 18）

調査区中央西寄りで検出した東西方向の溝で、西側は調査区外へ伸びる。幅 1.2m で、約 18m 検出した。検出面からの深さは 0.1m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。底面の標高は西端で 68.4m、東端で 68.3m を測り、緩やかに東へ傾斜している。主軸方向は西で 3° 40′ 南へ振れるものである。埋土は地山ブロックを含む細砂混じりのシルトからなり、機能停止後、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には、奈良時代の土師器・須恵器の他、近世の陶磁器などがある。



n
1. 暗褐 10YR3/3 細砂混シルト（径 10 ～ 50mm 程の礫を少量含む）
2. 暗褐 10YR3/3 中砂混シルト

m
1. 暗褐 10YR3/3 中砂混シルト（径 10 ～ 50mm 程の礫を多量に含む）
2. 暗褐 10YR3/3 中砂混シルト（径 10 ～ 30mm 程の礫を多量に含む）

l
1. 褐灰 10YR4/1 中砂混シルト（径～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）
2. 暗灰黄 2.5Y5/2 中砂混細砂（径～ 10mm 程の礫を多量に含む）

j・k
1. 黒褐 2.5Y3/1 中粒砂混細砂（径～ 3mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）

h・s
1. 黄灰 2.5Y4/1 中粒砂混細砂（径 5 ～ 10mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 中粒砂混細砂（径～ 5mm 程の亜角礫状地山ブロックを少量含む）

f・g
1. 黄褐 2.5Y5/4 細砂混シルト（径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量に含む）
2. オリーブ褐 2.5Y4/6 細砂混シルト（径 10 ～ 30mm 程の亜円礫状地山ブロックを多量に含む）
3. 黄褐 2.5Y5/6 細砂混シルト（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量に含む）

e
1. 黒褐 10YR2/3 細砂（炭化物を少量含む）
2. 暗褐 10YR3/3 細砂（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロック・炭化物を少量含む）
3. 黒褐 10YR2/3 中砂混細砂（径 10 ～ 30mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量に含む）

d
1. 黒褐 10YR3/3 細砂（炭化物を少量含む）
2. 暗褐 10YR3/3 細砂（径 10 ～ 20mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量に含む）

c
1. オリーブ褐 2.5Y4/4 細砂（径 10 ～ 50mm 程の亜角礫状地山ブロックを多量に含む）

b
1. 暗オリーブ褐 2.5Y4/4 細砂混シルト（地山ブロックを多量に含む）
2. 暗オリーブ褐 2.5Y4/4 細砂混シルト（地山ブロックを少量含む）

a
1. 黄褐 2.5Y5/4 細砂混シルト（地山ブロックを多量に含む）
2. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 中砂混シルト（地山ブロックを多量に含む）
3. オリーブ褐 2.5Y4/4 中砂混シルト（地山ブロックを少量含む）

図 16　SA070 平面・土層断面図（平面 S=1/100・断面 S=1/40）

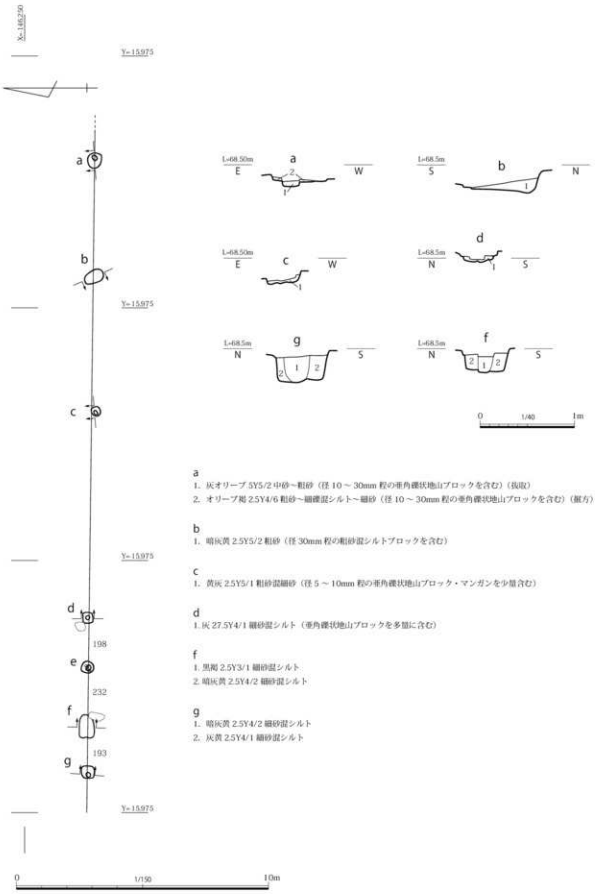


図 17　SA160 平面・土層断面図（平面 S=1/150・断面 S=1/40）

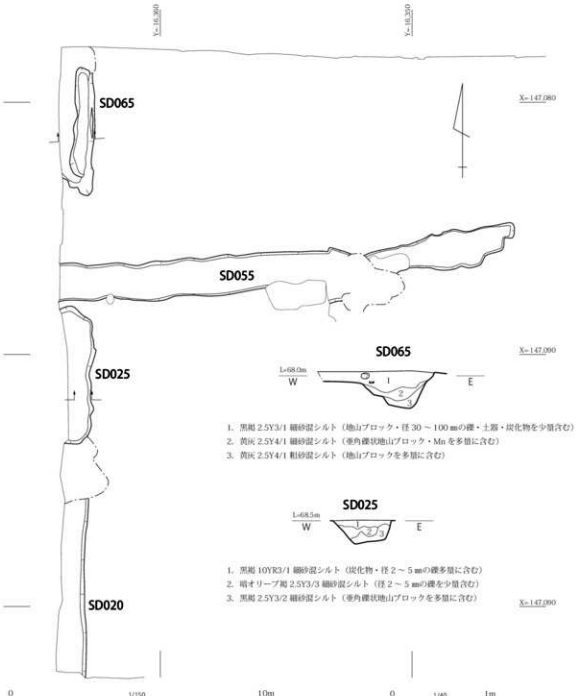


図 18　SD020・025・055・065 平面・土層断面図（平面 S=1/150・断面 S=1/40）

SD065（図 18、図版 16）

調査区北西部で検出した。溝西肩は調査区外にあり、北側は調査区外へ伸びる。検出範囲では幅 1.4m で、約 4.8m 検出した南北方向の溝である。検出面からの深さは 0.2m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。底面の標高は東肩付近の最深部で 68.2m 程度である。主軸方向は溝東肩が北で 1° 26′ 東へ振れるものである。埋土は地山ブロックを含む細砂混じりのシルトからなり、機能停止後、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には、奈良時代後半の土師器・須恵器がある。

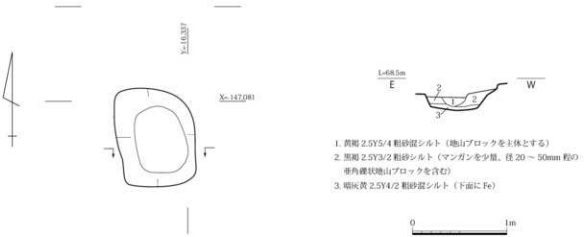


図 19　SK122 平面・土層断面図（S=1/40）

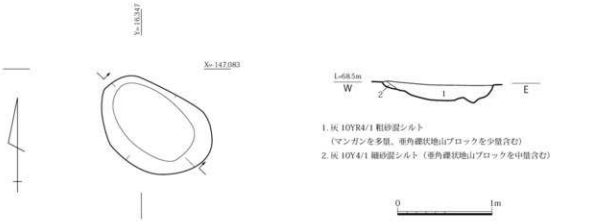


図 20　SK130 平面・土層断面図（S=1/40）

土坑

SK117

調査区中央部で検出した。長軸 1.1m、短軸 0.6m で、平面形態は楕円形を呈する。底部付近から平瓦が出土している。

出土遺物には奈良時代の土師器・須恵器・瓦などがある。

SK122（図 19）

調査区北東部で検出した。長軸 1.0m、短軸 0.6m で、平面形態は隅丸方形を呈する。遺構面からの深さは 0.3m を測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土には地山ブロックが含まれることから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には奈良時代後半の土師器・須恵器などがある。

SK130（図 20）

調査区中央部で検出した。長軸 1.3m、短軸 0.8m で、平面形態は楕円形を呈する。遺構面からの深さは 0.2m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。埋土には地山ブロックが含まれることから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には奈良時代後半と考えられる土師器・須恵器がある。

図 21　SP149 平面・土層断面図（S=1/40）

ピット

SP149（図 21）

調査区中央部南端で検出した。南半が調査区外となるが、直径 0.6m 程度で、平面形態は円形を呈するものと考えられる。遺構面からの深さは 0.1m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。

出土遺物には奈良時代後半の土師器・瓦などがある。

素掘小溝

調査区西側を中心に検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、幅 0.2 ～ 0.6m、遺構面からの深さは 0.1 ～ 0.2m を測る。断面形態は逆台形を呈する。主軸方向は北で 1 ～ 3°東へ振れるものである。

（2）出土遺物

道路遺構

SD030（図 22、図版 17）

須恵器平瓶（1）　内外面ともに回転ナデ調整を施し、天井部外面には把手を貼り付けた痕跡が残る。底部外面にはナデ調整を施し、板状の方形の痕跡が残る。底部外面は使用により平滑となっている。内面には白色の付着物が残る。

SD075（図 22、図版 17）

土師器杯（2）　杯 A である。内外面ともにナデ調整し、内面には放射状暗文、外面には横方向のヘラミガキ調整を施す。底部外面は表面劣化のため調整不明である。

土師器甕（3）　口縁部にはヨコナデ調整、体部にはナデ調整を施す。口縁端部は上方に肥厚し、外傾する面を持つ。

SD080（図 22）

土師器皿（4）　皿 A である。内外面ともにナデ調整し、内面には放射状暗文、外面には横方向のヘラミガキ調整を施す。底部外面にはヘラケズリ調整を施す。

土師器椀（5）　椀 A である。内面は表面劣化のため調整不明であるが、外面にはナデ調整後下半にヘラケズリ調整を施し、粗いヘラミガキ調整を加える。

SD085（図 22、図版 17）

須恵器杯(6)　杯 B である。内外面ともに回転ナデ調整後、口縁部外面下端に回転ヘラケズリ調整を行う。底部には高台を貼り付ける。底部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。

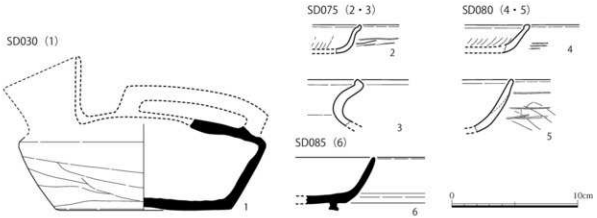


図22　SD030・075・080・085出土遺物実測図（S=1/3）

SD095（図23・24、図版17～20）

【暗褐色土】

土師器杯（7）　杯Cである。内外面ともにナデ調整後、口縁部にヨコナデ調整を行う。底部外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器皿（8・9）　いずれも皿Aである。口縁部にヨコナデ調整、底部外面にヘラケズリ調整を施す。口縁部内面には斜放射状暗文を施す。

土師器椀（10～12）　10は椀Cである。内外面ともにナデ調整し、口縁部にはヨコナデ調整を加える。外面にはユビオサエ痕が残る。11・12は椀Dである。いずれも内面は表面劣化のため調整不明であるが、外面にはヘラケズリ調整を施し、11ではさらにヘラミガキ調整を加える。

土師器高杯（13）　高杯Aである。杯部は内面は表面劣化のため調整不明であるが、外面には横方向のヘラミガキ調整を施す。脚部外面には10面の面取りを行い、脚部内面にはシボリ痕が残る。

土師器甕（14）　体部は外面に縦方向のハケメ調整、内面に縦方向のヘラケズリ調整を施す。口縁部は内面に横方向のハケメ調整後、内外面ともにヨコナデ調整を行う。

土師器甑（15）　外面に縦方向のハケメ調整、内面にナデ調整を施し、内外面ともにユビオサエ痕が残る。体部外面には把手を貼り付ける。

須恵器壺蓋（16）　内外面ともに回転ナデ調整後、屈曲部には回転ヘラケズリ調整を施す。天井部外面には宝珠状のツマミを貼り付け、その外側には浅い2条の凹線が廻る。

平瓦（17）　凸面に格子タタキ調整を施す。凹面は側縁部にヘラケズリ調整を施し、布目痕、模骨痕が残る。

【黒褐色シルト】

土師器蓋（18）　内外面ともに表面劣化のため調整不明である。天井部外面には扁平な宝珠状のツマミを貼り付ける。

土師器杯（19）　杯Aである。外面にヘラケズリ調整後、横方向のヘラミガキ調整を施す。口縁部内面には斜放射状暗文、連弧状暗文を施す。口縁端部に煤がわずかに付着する。

土師器甕（20）　外面に縦方向のハケメ調整、内面に横方向のハケメ調整を施し、口縁端部付近にはヨコナデ調整を加える。口縁部から体部外面にかけて煤が付着する。

木製品燃えさし（21～27）　27を除き、いずれも端部に炭化が認められる。炭化していない側の端部では切断の痕跡がみられる。断面形態は三角形や方形などを呈し、一定ではない。

図 23　SD095 出土遺物実測図（1）（S=1/3）

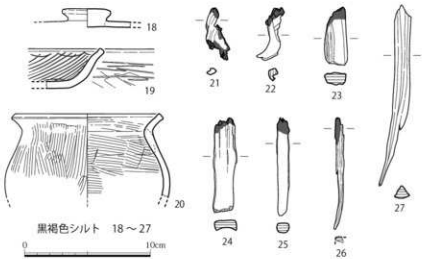


図 24　SD095 出土遺物実測図（2）（S=1/3）

SD100（図 25、図版 20・21）

土師器杯（28）　杯 A である。外面は下半にヘラケズリ調整後、横方向のヘラミガキ調整を施す。内面には斜放射状暗文を施す。

土師器高杯（29）　杯部は内面にラセン状暗文を施す。脚部外面には 13 面の面取りを行い、内面にはシボリ痕が残る。

土師器甕（30）　体部は内外面ともにナデ調整を行い、口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部内面上端及び体部外面中位にはユビオサエ痕が残る。

須恵器杯（31・32）　31 は杯 A である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。底部外面には墨書「事」がある。32 は杯 B である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には高台を貼り付ける。底部外面には回転ヘラキリ後ナデ調整を施す。

土製品竈（33・34）　33 は基部で、外面に縦方向のハケメ調整、内面にナデ調整を施す。外面には庇部を貼り付ける。庇部の貼付け部及び下端にはユビオサエ痕が残る。34 は切開部の上方にあたり、外面に縦方向のハケメ調整、内面にナデ調整を施す。外面には庇部を貼り付け、その内面にはユビオサエ痕が残る。

掘立柱建物

SB040（図 26、図版 21）

須恵器皿（35）　皿 C である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は表面劣化のため調整不明である。

須恵器壺（36）　壺 L である。内面及び体部外面に回転ナデ調整、外底面には回転ヘラケズリを施す。底部外面には高台を貼り付ける。

SB090（図 26、図版 21）

須恵器杯（37）　杯 B である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面はヘラキリ後回転ヘラケズリ調整を施す。底部外面には高台を貼り付ける。

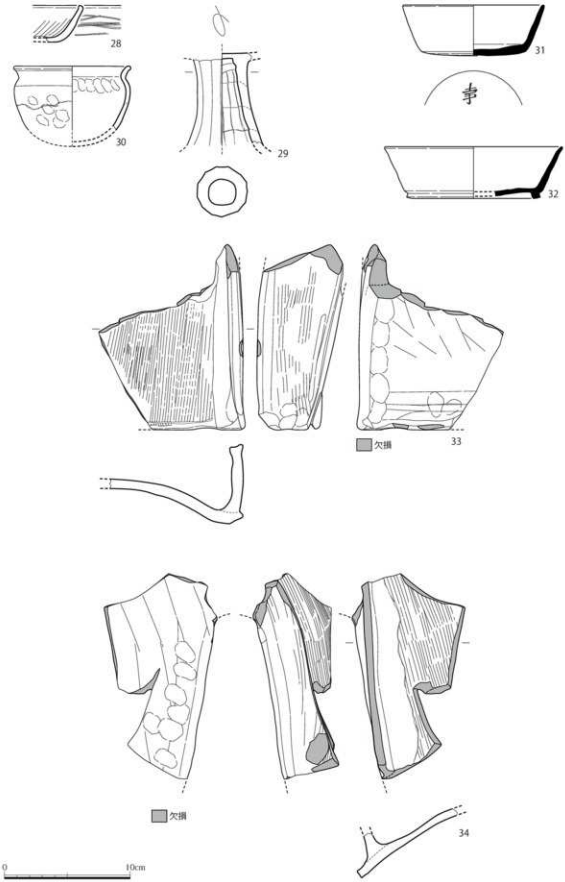


図 25　SD100 出土遺物実測図（S=1/3）

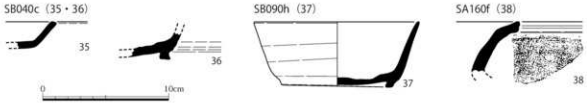


図 26　SB040・090、SA160 出土遺物実測図（S=1/3）

掘立柱塀

SA160（図 26、図版 21）

須恵器甕（38） 甕 A である。外面にタタキ調整後、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁端部はやや尖り気味で、外方に面を持ち、1 条の凹線が廻る。口縁端部には重ね焼き痕がみられる。

溝

SD020（図 27・28、図版 22 ～ 25）

土師器杯（39 ～ 42） いずれも杯 A である。39 は口縁部にヨコナデ調整、底部内面にナデ調整を施す。底部外面は表面劣化のため調整不明である。40 は口縁部はヨコナデ調整後、内面に斜放射状暗文を施す。底部は内面にラセン状暗文、外面にヘラケズリ調整後、ナデ調整を施す。底部外面にはユビオサエ痕が残る 41 は口縁部にヨコナデ調整、底部外面にヘラケズリ調整を施す。42 は口縁部はヨコナデ調整、底部は内面にナデ調整、外面にヘラケズリ調整を施す。底部外面にはユビオサエ痕が残る。底部内面にはラセン状暗文を施す。

土師器皿（43 ～ 47） いずれも皿 A である。43 は口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施し、底部は内面にナデ調整、外面にヘラケズリ調整を行う。口縁部内面には粗い斜放射状暗文を施す。44 は内面及び口縁部外面にヨコナデ調整、底部外面にヘラケズリ調整を施す。45 は内面は表面劣化のため調整不明だが、外面は口縁部にヨコナデ調整、底部にヘラケズリ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。46 は内面は付着物のため調整不明だが、外面は口縁部上半にヨコナデ調整、口縁部下半から底部にかけてヘラケズリ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。47 は内面は表面劣化のため調整不明だが、外面にはヘラケズリ調整後、口縁部上半に横方向のヘラミガキ調整を施す。

土師器椀（48 ～ 51） 48・49 は椀 C である。いずれも口縁部にヨコナデ調整を施し、体部外面にはユビオサエ痕が残る。50・51 は椀 A である。50 は口縁部をヨコナデ調整し、底部は内面にナデ調整、外面にヘラケズリ調整後ナデ調整を施す。51 は口縁部をヨコナデ調整後、口縁部外面下半から底部外面にかけてヘラケズリ調整を施す。底部内面にはナデ調整を行う。口縁部外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器甕（52 ～ 54） いずれも甕 A である。52 は外面に縦方向のハケメ調整を施し、内面は体部にナデ調整、口縁部に横方向のハケメ調整後ナデ調整を行う。口縁部外面と体部内面にはユビオサエ痕が残る。口縁端部及び口縁部外面中程には浅い凹線が廻る。53 は体部は内面にナデ調整、外面に縦方向のハケメ調整を施し、口縁部にはヨコナデ調整を行う。口縁端部には浅い凹線が廻る。外面にはユビオサエ痕が残る。54 は外面に縦方向のハケメ調整後、口縁部にヨコナデ調整を施す。内面は口縁部に横方向のハケメ調整、体部にナデ調整を施す。口縁端部及び口縁部外面中程には浅い凹線が廻る。口縁部外面にはユビオサエ痕が残る。

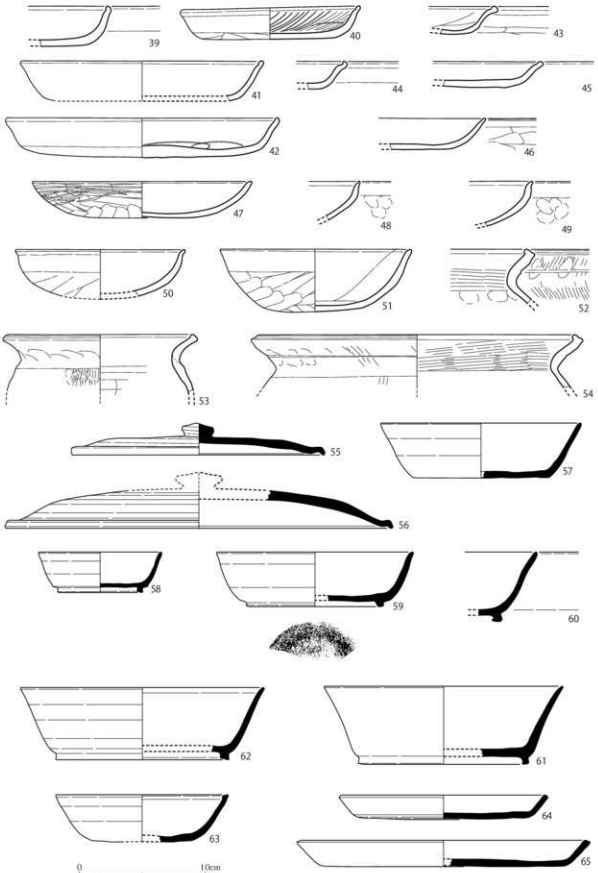


図 27　SD020 出土遺物実測図（1）（S=1/3）

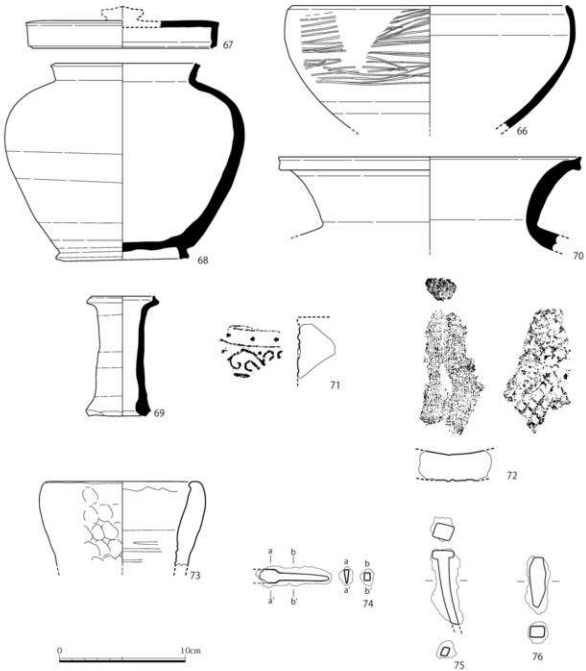


図 28　SD020 出土遺物実測図（2）（S=1/3）

須恵器蓋（55・56）　55 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、頂部には扁平な宝珠状のツマミを貼り付ける。56 は内外面ともに回転ナデ調整後、天井部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。内面は平滑となっており、硯に転用されたものと考えられる。

須恵器杯（57 ～ 63）　57 は杯 A である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には回転ヘラキリ後ナデ調整を行う。58 ～ 62 は杯 B である。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には高台を貼り付ける。58･59 は底部外面に回転ヘラキリ後ナデ調整を行い、59 には工具痕が残る。63 は杯 E である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面は回転ヘラキリ後ナデ調整を施す。口縁端部から外面上半にかけて重ね焼き痕が残る。

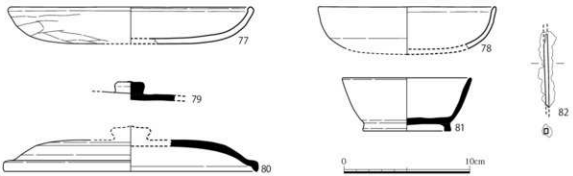


図 29　SD055 出土遺物実測図（S=1/3）

須恵器皿（64・65） いずれも皿 C である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面は 64 は回転ヘラキリ後ナデ調整、65 は回転ヘラキリ後無調整である。口縁端部は上方に面を持ちやや外傾する。

須恵器鉢（66） 鉢 A である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、外面には下半に横方向のヘラケズリ調整後、上位から中位にかけて横方向のヘラミガキ調整を行う。外面上半には重ね焼き痕が残る。口縁端部は外傾する面を持つ。

須恵器壺蓋（67） 内外面ともに回転ナデ調整を施す。頂部には全体的に降灰がみられる。

須恵器壺（68・69） 68 は壺 A である。内外面ともに回転ナデ調整後、胴部外面下半に回転ヘラケズリ調整を施し、さらに回転ナデ調整を加える。底部外面には高台を貼り付ける。底部外面中央部にはユビオサエ痕が残る。胴部外面肩部以下には降灰がみられる。69 は壺 L である。体部以下を打ち欠いている。内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁端部は外傾する面を持ち、上方に拡張する。

須恵器甕（70） 甕 A である。内面に回転ナデ調整、外面にタタキ調整後ナデ調整を施す。口縁端部は上下に肥厚し、外方に面を持つ。体部外面に降灰、口縁部内面に自然釉が僅かにみられる。

軒平瓦（71） 6675 型式である。平城宮瓦編年Ⅰ -2 期（715 ～ 721）に属するものである。

平瓦（72） 凸面に格子タタキ調整を施す。凹面には布目痕が残る。

土製品製塩土器（73） 内外面ともにナデ調整を施し、外面にはユビオサエ痕が残る。口縁端部は上方に面を持つ。外面には被熱痕が残る。

鉄製品刀子（74） 両関で、関部から茎部が遺存する。茎部の断面形態は方形を呈する。

鉄製品釘（75・76） いずれも断面形態は方形を呈する。75 は頂部が遺存し、方形を呈する。

SD055（図 29、図版 25）

土師器皿（77） 皿 A である。内外面ともにナデ調整し、口縁部下半から底部外面にかけてはヘラケズリ調整を施す。

土師器椀（78） 椀 C である。内外面ともにナデ調整を施す。口縁端部は尖り気味で内傾する面を持つ。

須恵器蓋（79・80） 79 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、頂部には扁平な宝珠状のツマミを貼り付ける。内面は平滑となっており、硯に転用されたものと考えられる。80 は内外面ともに回転ナデ調整後、頂部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。外面には重ね焼き痕が残る。

須恵器杯（81） 杯 B である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には高台を貼り付ける。底部外面には回転ヘラキリ後ナデ調整を行う。底部内面にはユビオサエ痕が残る。

鉄製品釘（82） 断面形態は方形を呈する。一辺 3mm 程度で細身のものである。

SD065（図 30、図版 25 ～ 27）

【上層】

土師器杯（83） 杯 A である。内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはヘラケズリ調整を行う。口縁部内面には斜放射状暗文を施す。

土師器皿（84・85） いずれも皿 A である。内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、口縁部外面下半から底部外面にかけてはヘラケズリ調整を行う。

土師器椀（86 ～ 88） 86 は椀 C である。内外面ともにナデ調整し、口縁部にはヨコナデ調整を加える。外面下半にはユビオサエ痕が残る。87・88 は椀 D である。いずれも内外面ともにナデ調整後、外面にヘラケズリ調整を施す。

土師器甕（89） 体部は内外面ともに表面劣化のため調整不明であるが、口縁部にはヨコナデ調整を施す。口縁端部は内方に肥厚し、外上方に面を持つ。

須恵器蓋（90） 内外面ともに回転ナデ調整を施し、頂部には輪状のツマミを貼り付ける。内面は平滑となっており、硯に転用されたものと考えられる。

須恵器杯（91 ～ 93） 91 は杯 A である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面はナデ調整である。92・93 は杯 B である。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面に高台を貼り付ける。93 は胎土が灰白色を呈する。

須恵器壺（94） 内面及び体部外面に回転ナデ調整、底部外面に回転ヘラケズリ後ナデ調整をを施し、体部外面には自然釉がみられる。底部外面には融着した他個体片が残る。

平瓦（95） 凸面に縄タタキ調整を施す。凹面には布目痕、糸切痕が残る。

土製品製塩土器（96） 内外面ともにナデ調整を施し、内面にはユビオサエ痕が残る。

土製品土馬（97） 頭部から左前脚にかけて遺存するが、頭部端部は欠損する。

鉄製品釘（98） 断面形態は方形を呈する。頭部が遺存し、方形を呈するものと考えられる。

【下層】

土師器杯（99） 杯 C である。内外面ともにナデ調整を施し、外面にはユビオサエ痕が残る。口縁端部は上方に内傾する面を持つ。

須恵器皿（100） 皿 C である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面には重ね焼き痕が残る。

【最下層】

土師器皿（101） 皿 A である。内外面ともにナデ調整後、口縁部外面下半から底部外面にかけてヘラケズリ調整を施す。

土師器壺（102） 壺 A と考えられる。内外面ともにナデ調整後、口縁部にヨコナデ調整を施す。

須恵器杯（103） 杯 A である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面は回転ヘラキリ後無調整である。口縁部外面には重ね焼き痕が残る。

土坑

SK117（図 31、図版 27）

平瓦（104） 凸面に縄タタキ調整を施す。凹面は側縁部にヘラケズリ調整により面取りを行い、布目痕が残る。挟端部側は打ち欠かれている。

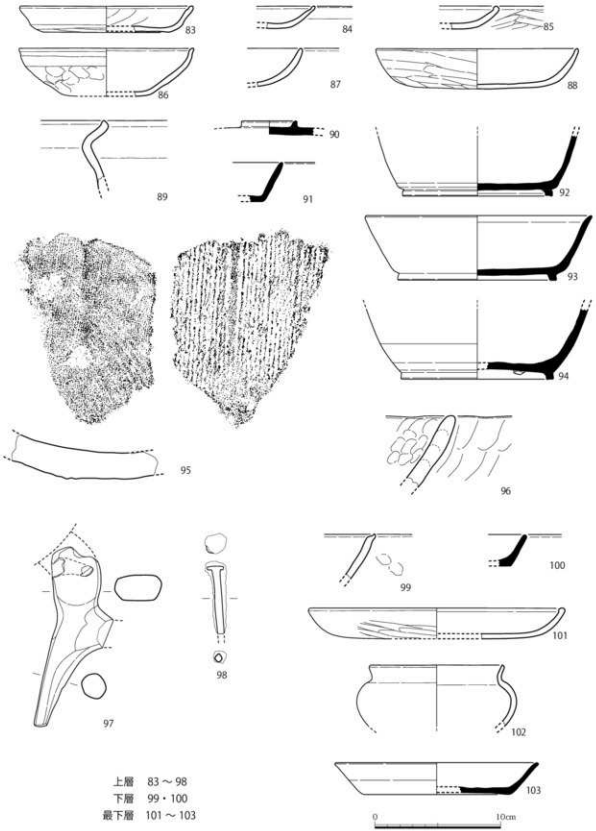


図 30　SD065 出土遺物実測図（S=1/3）

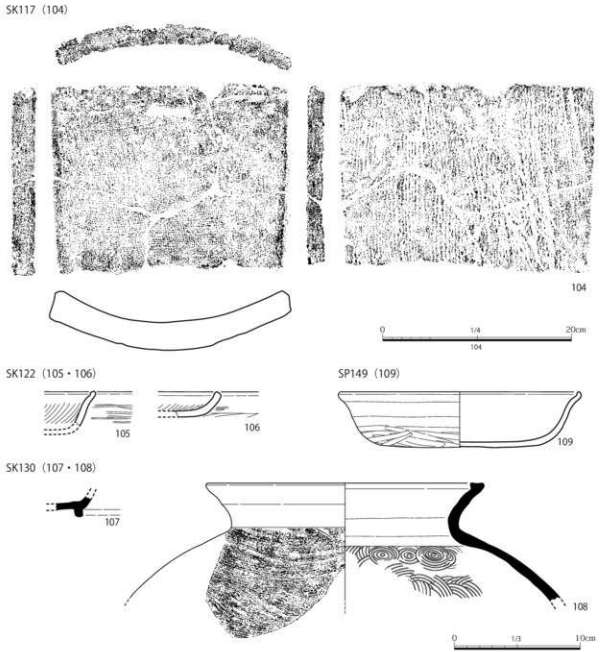


図 31　SK117・122・130、SP149 出土遺物実測図（S=1/3・1/4）

SK122（図 31）

土師器杯（105）　杯Ａである。外面には横方向のヘラミガキ調整を粗く施す。内面には斜放射状暗文を施す。

土師器皿（106）　皿Ａである。外面は下半から底部にかけてヘラケズリ調整後、横方向のヘラミガキ調整を施す。内面には斜放射状暗文を施す。

SK130（図 31）

須恵器杯（107）　杯Ｂである。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面にはヘラケズリ調整を行う。

須恵器甕（108）　体部は外面に平行タタキ調整を施し、内面には当て具痕が残る。口縁部は内外面ともに回転ナデ調整である。体部外面には降灰がみられる。

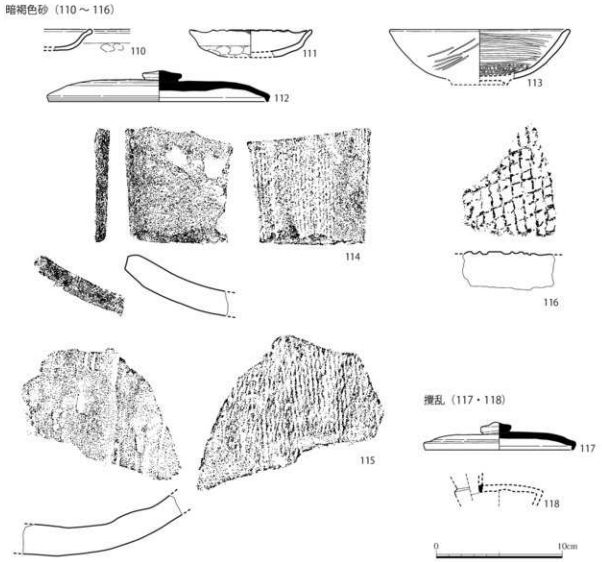


図 32　暗褐色砂・攪乱出土遺物実測図（S=1/3）

ピット

SP149（図 31、図版 27）

土師器杯（109） 杯 A である。内外面ともにナデ調整を施し、口縁部にはヨコナデ調整、体部下半から底部外面にかけてヘラケズリ調整を加える。外面には黒斑が残る。

暗褐色砂（図 32、図版 27・28）

土師器皿（110・111） 110 は皿 A である。内外面ともにナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。111 は内外面ともにナデ調整後、口縁部にヨコナデ調整を加える。底部外面にはユビオサエ痕が残る。口縁部には煤が付着する。

須恵器蓋（112） 内外面ともに回転ナデ調整後、天井部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。天井部外面にはやや扁平な宝珠状のツマミを貼り付ける。内面は平滑となっており、硯に転用されたものと考えられる。

黒色土器椀（113） A 類である。内面に横方向のヘラミガキ調整、外面に斜め方向のヘラミガキ調整を施す。口縁端部やや内側に浅い沈線が廻る。

平瓦（114 ～ 116） 114 は狭端部である。凸面に縄タタキ調整を施し、凹面には布目痕が残る。側縁部にはヘラケズリ調整による面取りを行う。115 は凸面に縄タタキ調整を施し、凹面には布目痕、模骨痕が残る。116 は凸面に格子タタキ調整を施す。凹面は表面が剥離しており不明である。

攪乱（図 32、図版 28）

須恵器蓋（117） 内外面ともに回転ナデ調整を施し、天井部外面にはやや扁平な宝珠状のツマミを貼り付ける。口縁端部付近には重ね焼き痕が残る。

須恵器平瓶（118） 直径 7cm 程度の小型のものである。内外面ともに回転ナデ調整施し、天井部外面全面に自然釉がみられる。

第３節　令和４年度調査

（1）検出遺構

SF260（東五坊坊間東小路）（図 33、図版 32 ～ 34）

調査区中央部で検出した。SD220 を東側溝、SD230 を西側溝とする南北方向の道路で、東五坊坊間路と考えられる。側溝心心間距離は調査区南端で約 5.3m を測り、18 小尺の設計であったと考えられる。東側溝 SD220 は幅 0.8 ～ 1.4m で、約 37m 検出した。検出面からの深さは 0.1 ～ 0.2m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。底面の標高は 69.0m 程度である。主軸方向は北で 1° 26′ 東へ振れるものである。西側溝 SD230 は後世の削平により南半のみが遺存していたが、幅 0.6 ～ 1.0m で、約 12.8m 検出した。検出面からの深さは 0.1m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。底面の標高は 68.8m 程度である。主軸方向は北で 0° 14′ 東へ振れるものである。埋土は粗砂混じりのシルトを主とし、自然堆積により埋没したものと考えられる。

両側溝心の座標は、調査区南端で東側溝 SD220 が X=-147,104、Y=-16,318.6306、西側溝 SD230 が X=-147,104、Y=-16,323.8864 である。

SF260 に関連して、東側溝 SD220 の周囲に側溝掘削に先立つ整地土が確認されている。整地土は２種類に分けられ、上層から整地土１、整地土２とした。整地土１は灰色を呈するシルトであり、整地土２は褐色を呈するシルトである。整地土２が地山ブロックを主体とするのに対して、整地土１では土壌化の進んだ土が利用されている。整地土２は道路敷設に伴い施された整地であると考えられるが、整地土１については道路の利用開始後の修理に伴う可能性が考えられる。整地土１が確認されている範囲が調査区の北寄りの一部に限られている点もこの想定を補強するものである。

出土遺物には平城宮土器Ⅲに属する土師器・須恵器のほか、黒色土器や灰釉陶器がみられることから奈良時代中頃から、平城京遷都後も機能し、最終的には 10 世紀ごろに埋没したと考えられる。

掘立柱塀

SA240（図 34、図版 35 ～ 38）

調査区南側に存在する。南北方向の掘立柱塀で、南北方向で四間分検出した。一間分は東へ張り出している。柱間は一定せず、南北方向で 121 ～ 194cm を測り、張り出し部の東西方向は 93 ～ 97cm 前後で南北方向よりも短い。主軸方向は北で 2° 17′ 東へ振れるものである。柱材はいずれも抜き取られているが、抜き取りの痕跡からは直径 20cm 前後の柱が想定できる。坪内への出入り口に関わる施設

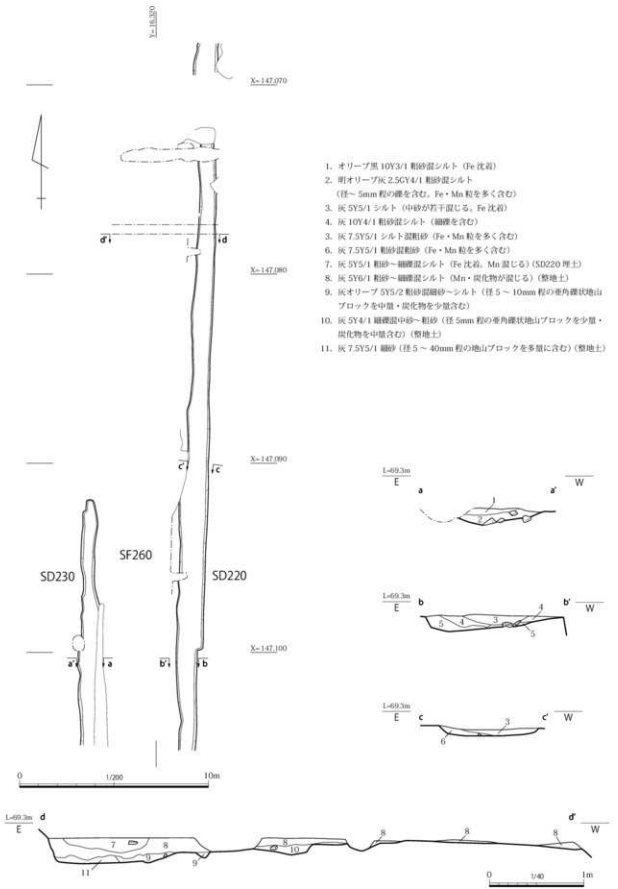


図 33　SF260、SD220・230 平面・土層断面図（平面 S=1/200・断面 S=1/40）

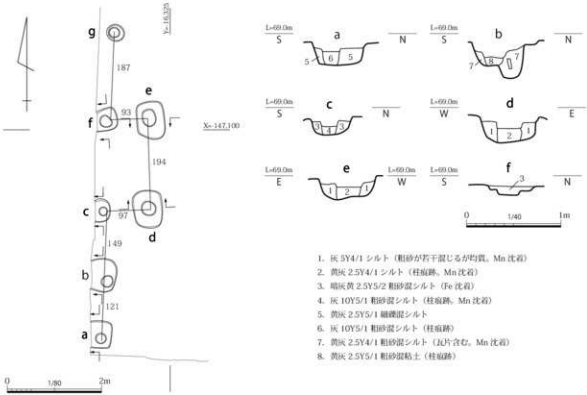


図 34　SA240 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

や目隠し塀を伴う出入口などが想定できる。

遺物には奈良時代後半の土師器・須恵器・瓦がある。

SA250（図 35）

東側拡張区に存在する。南北方向の塀であり、二間分検出したが、上部は大きく削平されており、柱穴内の埋土についてはほぼ観察できなかった。柱間は 160 ～ 186cm である。

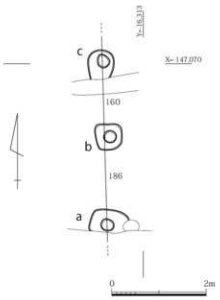


図 35　SA250 平面図（S=1/40）

土坑

SK231

調査区中央部で検出した。東半は調査区外にある。一辺 0.5m以上で、平面形態は方形を呈するものと考えられる。遺構面からの深さは 0.3m を測り、断面形態は浅い「U」字形を呈する。埋土には地山ブロックが含まれることから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物には奈良時代後半の土師器・須恵器がある。

素掘小溝

調査区西側を中心に検出した。南北方向のものが多くを占め、幅 0.2 ～ 0.3m、遺構面からの深さは 0.2 ～ 0.3m を測る。断面形態は逆台形を呈する。主軸方向は北で 1° 08′ 東へ振れるものである。

（2）出土遺物

道路遺構

SD220（図 36・37、図版 39 ～ 41）

土師器高杯（119） 高杯 A である。杯部は表面劣化のため調整不明である。脚部外面には 11 面の面取りを行い、脚部内面にはナデ調整を施す。

土師器甕（120） 体部にはナデ調整、口縁部には内面に横方向のハケメ調整後ヨコナデ調整を施す。

須恵器杯（121） 杯 B である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面はヘラキリ後ナデ調整を施す。高台内には「本」の墨書がある。

須恵器皿（122） 皿 C である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面は表面剥離のため調整不明である。口縁部外面には重ね焼き痕が残る。

須恵器壺（123） 壺 M である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面にはシボリ痕が残る。

須恵器平瓶（124） 内外面ともに回転ナデ調整を施す。把手部分である。

黒色土器椀（125） A 類である。内面は表面劣化のため調整不明であるが、外面にはナデ調整を施す。外面には断面が三角形を呈する高台を貼り付ける。

灰釉陶器椀（126） 高台畳付を除き施釉がみられる。高台は削り出しによるものである。

軒平瓦（127・128） 127 は重郭文の一種と考えられる。瓦当文様は笵型によるものである。128 は三重圏線を持つ均整唐草文で、6663E 型式であると考えられる。

丸瓦（129） 玉縁丸瓦である。凸面にナデ調整を施す。凹面は無調整で布目痕が残る。端部はヘラケズリ調整により面取りを行う。

平瓦（130 ～ 134） 130・131 は凸面に格子タタキ調整を施し、凹面は無調整で布目痕が残る。130 は側縁部にヘラケズリ調整による面取りを行う。132 ～ 134 は凸面に縄タタキ調整を施す。凹面は無調整で 132・133 では布目痕、134 では布目痕、糸切痕が残る。132 は凸面の一部に糸切痕が残る。132・133 は側縁部にヘラケズリ調整よる面取りを行う。

塼（135） 全面に板状工具痕が残り、仕上がりは粗い。胎土や焼成は瓦類と共通する。

鉄製品釘（136） 断面形態は方形を呈する。頂部が遺存し、方形を呈するものと考えられる。

SD230（図 38、図版 41）

土師器皿（137） 皿 A である。内面にナデ調整、外面にヘラケズリ調整を施す。底部外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器甕（138） 内面に横方向のハケメ調整、外面に縦方向のハケメ調整を施し、口縁部にはヨコナデ調整を加える。口縁端部は上方に肥厚し、外傾する面を持つ。

掘立柱塀

SA240（図 39、図版 42）

土師器皿（139） 皿 A である。内外面ともにナデ調整後、口縁部にヨコナデ調整を加える。外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器椀（140） 椀 C である。外面は表面劣化のため調整不明であるが、内面にはナデ調整を施し、口縁端部付近にはヨコナデ調整を加える。

土師器甕（141） 体部は内外面ともにナデ調整、口縁部はヨコナデ調整を施す。口縁部内面には煤が付着する。外面には被熱痕がみられる。

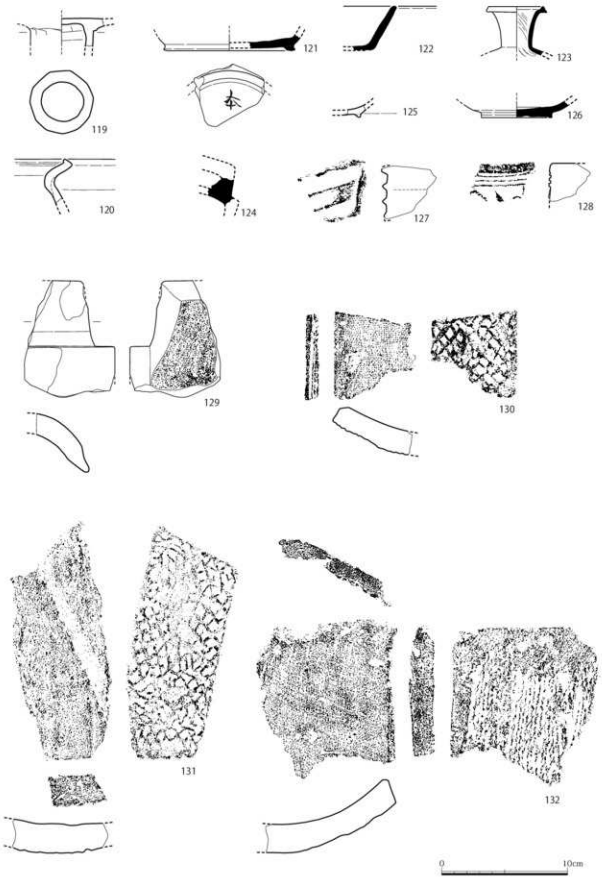


図 36　SD220 出土遺物実測図（1）（S=1/3）

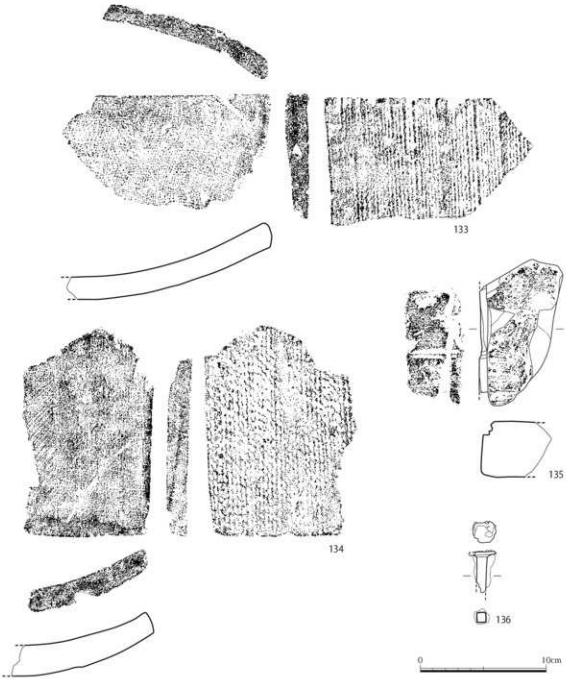


図 37　SD220 出土遺物実測図（2）（S=1/3）

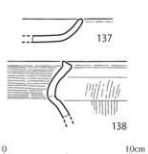


図 38　SD230 出土遺物実測図（S=1/3）

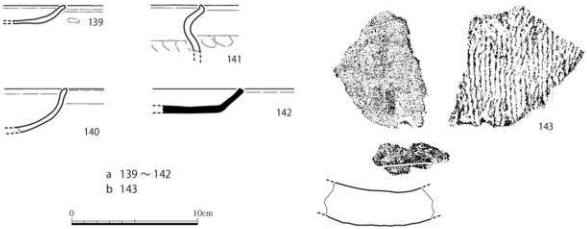


図 39　SA240 出土遺物実測図（S=1/3）

須恵器皿（142）　皿Ｃである。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面には回転ヘラキリ後ナデ調整を施す。口縁外面には重ね焼き痕が残る。

平瓦（143）　凸面に縄タタキ調整、凹面にナデ調整を施す。凹面には布目痕が残る。

土坑

SK231（図 40、図版 42）

土師器杯（144）　杯Ａである。外面は下半に横方向のヘラケズリ調整後横方向のヘラミガキ調整を施す。内面には斜放射状暗文を施す。

土師器甕（145）　内面に横方向のハケメ調整、外面に縦方向のハケメ調整後、内外面ともにヨコナデ調整を施す。

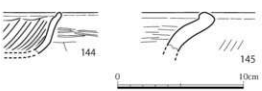


図 40　SK231 出土遺物実測図（S=1/3）

整地土１（図 41・42、図版 42 ～ 44）

土師器杯（146）　杯Ｃである。内面から口縁部にかけてナデ調整を施す。底部外面にはユビオサエ痕が残る。口縁端部と内面に煤が付着する。

土師器皿（147・148）　いずれも皿Ａである。147 は外面下半に横方向のヘラケズリ調整後、ヨコナデ調整を加える。内面には放射状暗文を施す。148 は内面は表面劣化のため調整不明であるが、外面は下半にヘラケズリ調整後、ヨコナデ調整を加える。

土師器椀（149）　椀Ａである。内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を加える。外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器高杯（150・151）　いずれも高杯Ａである。150 は杯部内面にナデ調整を施す。杯部外面は下半にヘラケズリ調整後、横方向のヘラミガキ調整を施し、口縁部付近にユビオサエ痕が残る。151 は脚部外面には 13 面と推定できる面取りを行い、脚部内面には杯部との接合部付近に横方向のナデ調整、それ以下に縦方向ナデ調整を施す。

土師器甕（152）　体部は内面にナデ調整、外面に縦方向のハケメ調整を施し、口縁部にはヨコナデ調整を行う。口縁端部は上方に肥厚し、外傾する面を持つ。体部外面には煤が付着し、被熱痕もみられる。

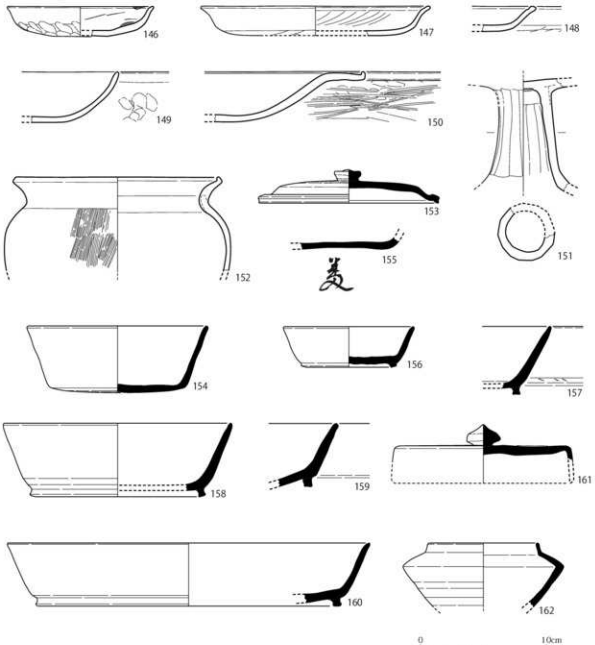


図 41　整地土 1 出土遺物実測図（1）（S=1/3）

須恵器蓋(153)　内面から口縁部にかけては回転ナデ調整を施す。天井部はヘラキリ後ナデ調整を施し、やや扁平な宝珠状のツマミを貼り付ける。内面は平滑となっており、墨の付着もみられることから、硯に転用されたものと考えられる。

須恵器杯（154 ～ 158）　154・155 は杯 A である。154 は内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面はヘラキリ後回転ヘラケズリ調整を施す。胎土には長石が多く含まれる。155 は内面にナデ調整、外面にヘラキリ後ナデ調整を施す。底部外面には墨書「奚」もしくは「美」がある。156 ～ 158 は杯 B である。156 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には高台を貼り付ける。底部外面はヘラキリ後、無調整である。157 は内外面ともに回転ナデ調整後、口縁部下端には回転ヘラケズリ調整を施す。

底部外面には高台を貼り付ける。口縁部外面下端に工具痕が残る。158 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面に高台を貼り付ける。口縁部外面には重ね焼き痕が残る。

須恵器皿（159・160）　いずれも皿Ｂである。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。胎土は灰白色を呈する。

須恵器壺蓋（161）　内外面ともに回転ナデ調整を施し、天井部には宝珠状のツマミを貼り付ける。天井部外面には自然釉がみられる。

須恵器壺（162）　壺Ｅである。内外面ともに回転ナデ調整を施し、体部外面下端に回転ヘラケズリ調整を加える。外面には重ね焼き痕が残る。

軒平瓦（163）　均整唐草文で、6702A 型式と考えられる。顎は段顎である。凹面には布目痕が残る。

平瓦（164・165）　164 は凸面に格子タタキ調整、凹面は無調整で布目痕が残る。165 は凸面に縄タタキ調整、凹面は無調整で布目痕が残る。

塼（166）　全面に板状工具痕、刺突痕が残り、板状を呈するものの仕上がりは粗い。胎土や焼成は瓦類と共通する。

木製品燃えさし(167)　端部に炭化が認められる。炭化していない側の端部では切断の痕跡がみられる。断面形態は台形を呈する。

整地土２（図 43、図版 44・45）

土師器杯（168 ～ 170）　168・169 は杯Ａである。168 は口縁部内面に斜放射状暗文、底部は内面ににラセン状暗文、外面にはヘラケズリ調整を施す。169 は内外面ともに表面劣化のため調整不明である。口縁端部は玉縁状である。170 は杯Ｃである。内外面ともにナデ調整を施し、口縁部にはヨコナデ調整を加える。外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器皿（171・172）　ともに皿Ａである。171 は内面にナデ調整後、口縁部にヨコナデ調整を施す。底部外面にはヘラケズリ調整を施す。外面には黒斑が観察できる。172 は内面にナデ調整後、口縁部にヨコナデ調整を施す。口縁部内面には放射状暗文を施す。底部外面にはヘラケズリ調整を施し、ユビオサエ痕が残る。

須恵器杯（173 ～ 175）　173 は杯Ａである。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部外面は回転ヘラキリ後、無調整である。内面は平滑となっている。174 は杯Ｌである。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には回転ヘラキリ後ナデ調整を施す。外面全体に降灰がみられる。175 は杯Ｂである。内面に回転ナデ調整、底部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。底部には高台を貼り付ける。高台内には墨書「真」がある。

須恵器皿（176）　皿Ｃである。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。

土製品製塩土器（177）　内外面ともにナデ調整を施し、外面にはユビオサエ痕が残る。口縁部は片口状となる。外面には被熱痕がみられる。

土製品竈（178）　基部である。内面にナデ調整、外面に縦方向のハケメ調整を施す。内面下端にはユビオサエ痕が残る。

土製品土馬（179）　前足から体部にかけて遺存する。首部の断面形態は楕円形、胴部の断面形態は腹側が凹んだ「U」字状を呈する。

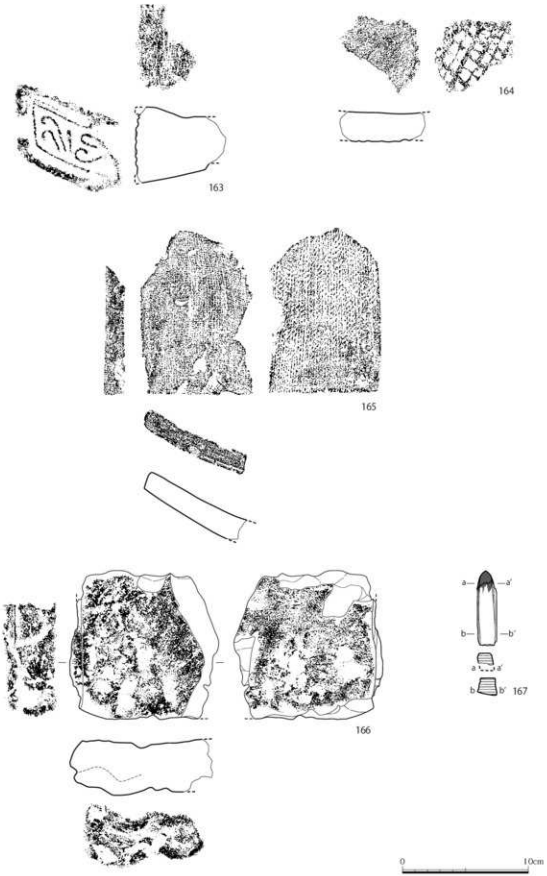


図 42　整地土 1 出土遺物実測図（2）（S=1/3）

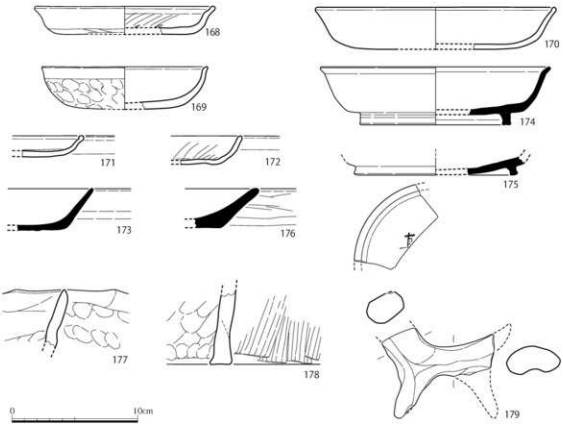


図 43　整地土 2 出土遺物実測図（S=1/3）

その他（図 44、図版 45・46）

須恵器蓋（180）　内外面ともに回転ナデ調整を施す。天井部外面には回転ヘラキリ後ナデ調整を施す。天井部外面には墨書があるが、文字種は判別できない。

須恵器杯（181）　杯Ｂである。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には高台を貼り付ける。高台内側に十字と考えられる墨書がある。

国産磁器杯（182）　内外面施釉する。薄手で、見込みに旗と桜を描く。いわゆる軍杯である。

国産磁器椀（183）　内外面施釉し、外面には赤色の十字を描く。

軒平瓦（184）　圏線に唐草文が接続する文様で、6664I 型式と考えられる、

丸瓦（185）　玉縁丸瓦である。凸面に縄タタキ調整後ナデ調整を施す。凹面は無調整で布目痕が残る。

平瓦（186）　凸面に格子タタキ調整を施す。凹面は表面剥離のため不明である。

煉瓦（187）　両面に「山に七」の刻印がみられる。

木製品しゃもじ（188）　一木からなる。持ち手部分には赤色漆を塗布する。

石鏃（189）　サヌカイト製である。基部を折損する。

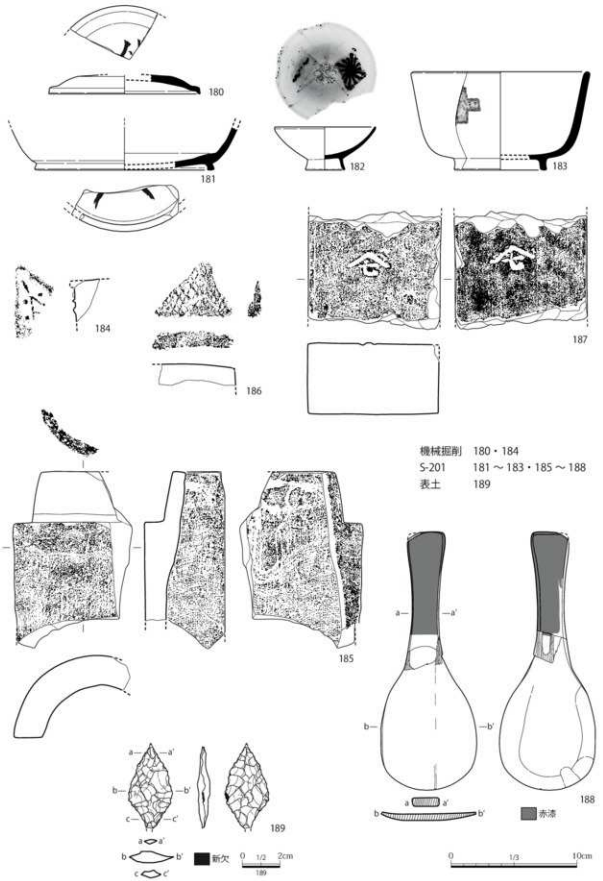


図 44　その他出土遺物実測図（S=1/3）

第 4 章　自然科学分析

第 1 節　花粉分析

1. はじめに

平城京左京五条五坊十一坪の発掘調査地において、古環境を検討するために堆積物試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、奈良時代後半の溝埋土から採取された 2 試料である（表 1）。これらの試料について、以下の処理を施し、分析を行った。

表 1　分析試料一覧

遺構	時期	層位	岩質
SD095	奈良時代後半	2	オリーブ黒色（7.5Y3/1）シルト
SD020		10	黄褐色（2.5Y4/1）中粒砂混じりシルト

試料（湿重量約 3 ～ 4g）を遠沈管にとり、10% 水酸化カリウム溶液を加え、10 分間湯煎する。水洗後、46% フッ化水素酸溶液を加え、1 時間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が 200 を超えるまでカウントし、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、主要な分類群の単体標本（PLC.3961 ～ 3966）を作製し、写真を図 46 に載せた。

3. 結果

検鏡の結果、SD020 からは花粉化石が検出されなかった。SD095 からは花粉化石が検出されており、検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 16、草本花粉 12、形態分類のシダ植物胞子 2 の、総計 30 である。これらの花粉・胞子の一覧表を表 2 に、花粉分布図を図 45 に示した。花粉分布図にお

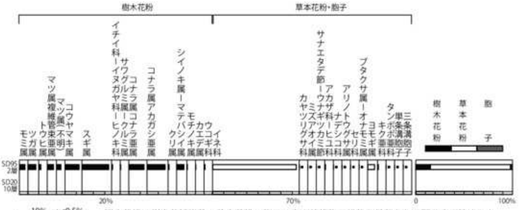


図 45　花粉分布図

表 2　産出花粉胞子一覧

学名	和名	SD095	SD020
樹木			
Abies	モミ属	10	-
Tsuga	ツガ属	14	-
Picea	トウヒ属	4	-
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	11	-
Pinus（unknown)	マツ属 (不明)	8	-
Sciadopitys	コウヤマキ属	25	-
Cryptomeria	スギ属	47	-
Taxaceae − Cephalotaxaceae − Cupressaceae	イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	2	-
Pterocarya − *Juglans*	サワグルミ属−クルミ属	1	-
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	27	-
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	32	-
Castanea	クリ属	2	-
Castanopsis − *Pasania*	シイノキ属−マテバシイ属	13	-
Ilex	モチノキ属	1	-
Acer	カエデ属	1	-
Araliaceae	ウコギ科	2	-
草本			
Gramineae	イネ科	977	-
Cyperaceae	カヤツリグサ科	5	-
Monochoria	ミズアオイ属	1	-
Polygonum sect. *Persicaria* − *Echinocaulon*	サナエタデ節−ウナギツカミ節	4	-
Chenopodiaceae − Amaranthaceae	アカザ科−ヒユ科	9	-
Caryophyl laceae	ナデシコ科	1	-
Haloragis	アリノトウグサ属	1	-
Apiaceae	セリ科	4	-
Ambrosia − *Xanthium*	ブタクサ属−オナモミ属	1	-
Artemisia	ヨモギ属	83	-
Tubuliflorae	キク亜科	11	-
Liguliflorae	タンポポ亜科	6	-
シダ植物			
monolete type spore	単条溝胞子	2	-
trilete type spore	三条溝胞子	5	-
Arboreal pollen	樹木花粉	200	-
Nonarboreal pollen	草本花粉	1103	-
Spores	シダ植物胞子	7	-
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	1310	-
unknown	不明	17	-

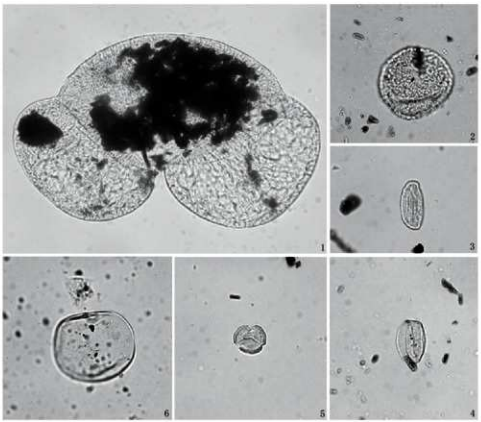
いて、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図および表においてハイフン (-) で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

SD095 の樹木花粉では、コウヤマキ属やスギ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、シイノキ属 - マテバシイ属の産出が、草本花粉ではイネ科の産出が目立つ。

4. 考察

SD020 からは花粉化石が検出されなかった。一般的に、花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがって、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では、花粉化石が残りにくい。SD020 は、埋没時に酸化的環境に晒されていたために、花粉化石が分解・消失してしまった可能性がある。

SD095 から産出した樹木花粉では、モミ属やツガ属、マツ属複維管束亜属、コウヤマキ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ属、シイノキ属 - マテバシイ属、ウコギ科などがある。これらの分類群から考えると、遺跡周辺の山地・丘陵斜面や台地上などには、モミ属やツガ属、コウヤマキ属、スギ属などの針葉樹林や、コナラ属アカガシ亜属やシイノキ属 - マテバシイ属などの照葉樹林



1.モミ属 (PLC.3961)　2.コウヤマキ属 (PLC.3962)　3.コナラ属コナラ亜属 (PLC.3963)
4.コナラ属アカガシ亜属 (PLC.3964)　5.ヨモギ属 (PLC.3965)　6.イネ科 (PLC.3966)

図 46　SD095 から産出した花粉化石

が分布していたとみられる。また、山地・丘陵斜面や台地上だけでなく、調査区周辺の氾濫原面の開けた明るい場所には、マツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属、クリ属、ウコギ科などが分布していたと考えられる。

草本花粉ではイネ科が突出するため、SD095 周辺には、イネ科が分布を広げる草地が展開していたと考えられる。

なお、今回の調査区の周辺では、左京六条三坊・七条二坊において 8 世紀代の井戸埋土の花粉分析結果が存在する（齊藤ほか，2022）。この分析結果では、今回の SD095 と同様の樹木花粉の群集組成やイネ科草本の多産が確認できる。ただし、左京六条三坊・七条二坊での樹木花粉の割合は 50% 前後であり、20% 未満であった SD095 での分析結果よりも高率である。このように、奈良時代を主体する時期の樹木花粉の割合の違いについては、局地的な植生の差異を示している可能性や、井戸と溝での堆積物への花粉化石の取り込まれ方の違い（タフォノミー）を反映している可能性も考えられるが、現状の分析結果のみで今回の調査区とその近辺での局地的な植生復元に言及するのは難しい。よって、本報告では、奈良時代を主体する時期での左京五条五坊と左京六条三坊・七条二坊の樹木花粉の割合に違いがある点のみ指摘に留めておきたい。

《引用文献》
齊藤　希・辰巳祐樹・西浦　熙・清水康二（2022）平城京左京六条二条・七条二坊・八条一坊.「奈良県遺跡調査概報 2021 年度（第二分冊）」：45-68，奈良県立橿原考古学研究所.

第５章　総括

第１節　遺構の変遷について

令和２・４年度調査区のいずれでも、奈良時代に属する遺構を確認することが出来た。令和２年度調査区では、遺構の重複関係から少なくとも２時期に分けて考えることが出来た。

Ⅰ期に属するものとしては掘立柱建物 SB050・060・090、SA160 がある。掘立柱建物は互いに近接していることから、全てが同時に存在していなかった可能性も考えられる。SA160 は坪内を南北に八分の一に分割する東西方向の掘立柱塀であり、ここからは坪内を十六分割しての利用が想定できる。

Ⅱ期に属するものとしては SF170、SA070、SD020・025・065、SB040 が挙げられる。Ⅱ期になると坪内を南北に三分の一に分割すると考えられる坪内道路 SF170 が敷設されている。また SA070 は坪内を東西に三分の一に分割する位置にあり、また調査区西側あり互いに近接して南北に並ぶ SD020・025・065 が十一坪の東から三分の一にあたることから、坪内道路と溝とで坪内を分割していたものと考えられる。SD020・025・065 の溝は SF170 と同様に坪内道路の側溝となる可能性もある。SB040 はⅠ期の掘立柱建物との重複関係や SF170 との位置関係からⅡ期に属するものと考えられる。この段階では坪内を九分割しての利用が想定できる。

Ⅰ期の時期は出土遺物から平城宮土器Ⅲを遡ることはなく、平城京還都後に坪内の利用が開始されたと考えられる。この状況は周辺における既往の調査で奈良時代中頃から後半にかけての遺構が検出されている状況とも整合している。そして、利用開始後まもなく、坪内分割の変更が行われている点にも注意が必要である。平城京外京の開発の経過についてはさらに検討を経ねばならないが、今回の調査地点についていえば、その利用開始は遅れるものであったという成果となった。

令和４年度調査区で確認された東五坊坊間東小路についても、同様の時期が想定でき、この地域の坊間小路の敷設が奈良時代中頃まで下る可能性が指摘できる。また、東五坊坊間東小路の最終埋没は９世紀頃と考えられ、平城京廃都後も機能していた点も明らかとなった。

第２節　東五坊坊間東小路の位置について

令和４年度調査区では、平城京の東五坊坊間東小路を確認し、東西側溝の心心間距離が 5.3m、約 18 小尺であることが明らかとなった。通常坊間小路の心心間距離は 20 小尺であり、それよりはやや狭い点が指摘できる。東五坊坊間東小路は市 274 次調査の十二坪でも東側溝が確認されているが、今回の調査で確認した東側溝の位置関係について大きな矛盾はない。

敷設位置については、復元される条坊道路の割り付け位置からずれた位置である点が指摘できる。同様の状況は東五坊坊間路でもみられる（市 17 次、市 313 次）。その一方で東五坊大路では想定位置にほぼ一致する形で検出されており（市 333 次）、東四坊大路では西側溝は想定位置であるが、想定される道路幅は通常の大路より幅が狭く、そのため東側溝が西へずれることになっている。

上記の状況は東四坊大路東側溝から東五坊坊間東小路にかけて、想定位置より西へずれているという

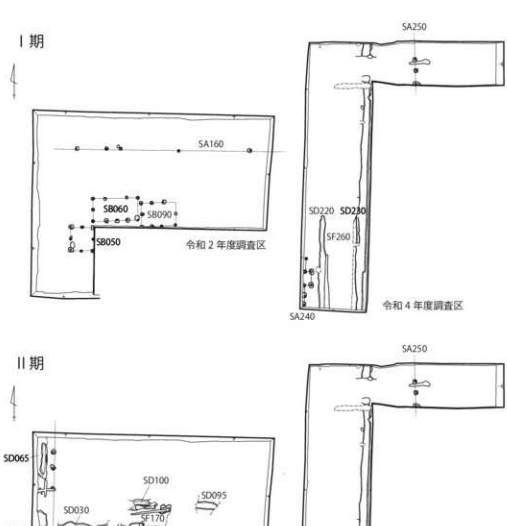


図 47　遺構変遷図

ことを示している。その要因として考えられるのが、東五坊坊間西小路である。報告書では東坊間西小路との記載はないが（奈良県立橿原考古学研究所 2015）、東四坊大路から東五坊大路の間における道路敷設位置の西へのずれを考慮すると、溝 1 が東五坊坊間西小路西側溝、流路 1 が同東側溝である可能性が考えられる。ここで検出された流路 1 は、幅が 18m 以上であり、通常の道路側溝の幅を大きく超えるものとなっている。幅の広い道路側溝を敷設すれば、それによる宅地の規模の縮小は避けることは出来ない。そのために東四坊大路の大路幅の減少と道路位置の西への変更を行うことで、宅地ごとの縮小の影響を低減させる目的があったのではないかと考えている。東五坊坊間西小路の東側溝の幅を広げる必要性については、詳細な検討は出来ていないが、この付近で東からの傾斜がやや緩くなることによる溝内の流水の越流を防ぐという目的が考えられる。周辺の遺跡の状況も含め、道路の敷設計画とその時期についてはさらに検証してゆく必要がある。

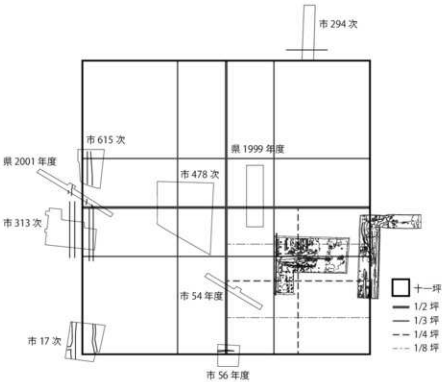


図 48　十一坪内の宅地分割模式図

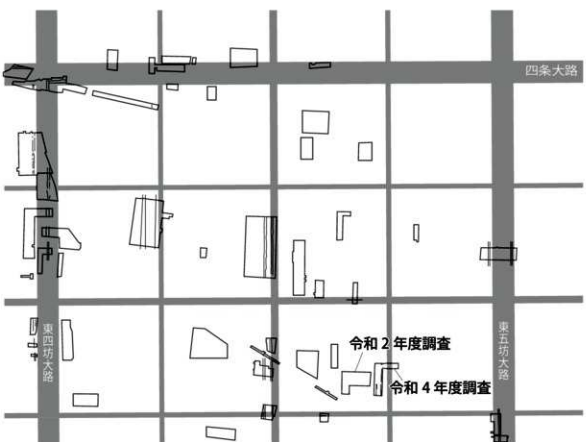


図 49　調査地周辺の条坊道路検出地点と想定条坊道路位置

《参考文献》

産業技術総合研究所 2014『平成 25 年度「活断層の補完調査」成果報告書　奈良盆地東縁断層帯』
奈良市教育委員会 1982a『平城京（外京）左京五条五坊七・十坪発掘調査概要報告』
奈良市教育委員会 1982b「平城京左京（外京）五条五坊坊間路発掘調査報告」『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和 56 年度』
奈良市教育委員会 1994「平城京左京五条五坊十三坪の調査　第 274 次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　平成 6 年度』
奈良市教育委員会 1995a「平城京左京五条五坊六坪・東五坊坊間路の調査　第 313 次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　平成 5 年度』
奈良市教育委員会 1995b「平城京左京五条六坊二坪・東五坊大路の調査　第 333 次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　平成 6 年度』
奈良市教育委員会 2006「平城京左京五条五坊十一坪の調査　第 478 次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　平成 14 年度』
奈良市教育委員会 2011「平城京跡（左京五条五坊十一坪・東五坊坊間路）の調査　第 615 次」『奈良市埋蔵文化財調査年報　平成 20（2008）年度』
奈良県立橿原考古学研究所 1991「平城京左京五條五坊十一坪」『奈良県遺跡調査概報 1990 年度』
奈良県立橿原考古学研究所 2013「左京五条五坊六・十一坪の調査」『平城京左京二・三・五条五坊』奈良県文化財調査報告書第 160 集
奈良文化財研究所 2003『平城京条坊総合地図』

令和２年度調査
関連資料

図 50　令和２年度調査　検出遺構配置略図
表３～６　令和２年度調査　報告遺物一覧（1）～（4）
表７～10　令和２年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（1）～（4）

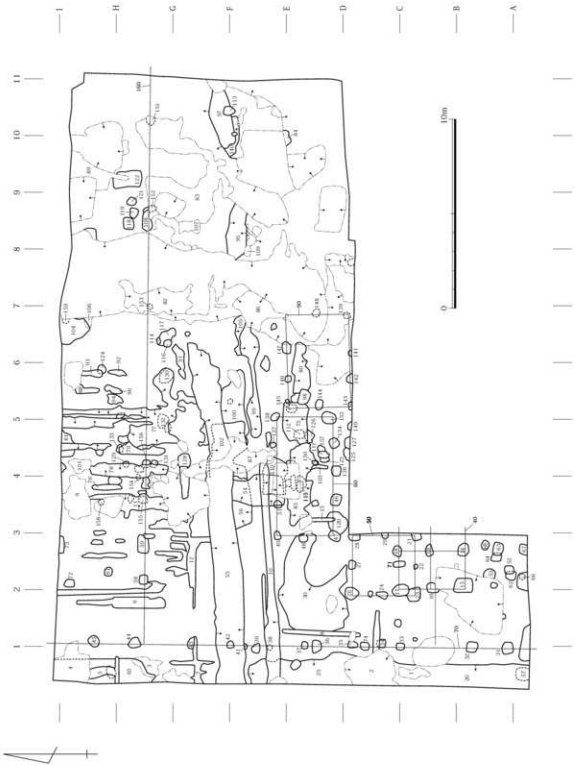


図 50　令和 2 年度調査　検出遺構配置略図（S=1/200）

表 3　令和 2 年度調査　報告遺物一覧（1）

報告番号	掘図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径（長）	器高（幅）	底径（厚）	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
1	図 22	図版 17	SD030	須恵器平瓶	*	(7.2)	14.0		体部片	密 ～ 1mm 長石	良 灰白 N7/0	
2	図 22	図版 17	SD075	土師器杯	*	2.3	*		体部片	中粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	中・不良 橙 5YR7/6	杯 A
3	図 22	図版 17	SD075	土師器甕	*	(3.7)	*		口縁部片	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/8	
4	図 22	図版 17	SD080	土師器皿	*	2.2	*		体部片	中粗 ～ 1mm 石英・長石	不良 橙 5YR7/6	皿 A
5	図 22		SD080	土師器椀	*	(4.2)	*		体部片	中粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 2.5YR6/8	椀 A
6	図 22	図版 17	SD085	須恵器杯	*	4.2	*		体部片	密 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 B
7	図 23	図版 17	SD095 明褐色土	土師器杯	(12.9)	3.2	*		25%	中粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	杯 C
8	図 23		SD095 明褐色土	土師器皿	*	2.0	*		体部片	中粗 ～ 1mm 石英・長石	不良 橙 5YR7/6	皿 A
9	図 23	図版 17	SD095 明褐色土	土師器皿	(21.5)	2.1	*		10%	中粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	皿 A
10	図 23		SD095 明褐色土	土師器椀	(13.5)	(3.8)	*		20%	中粗 ～ 1mm 石英・長石・雲母	良 橙 5YR6/8	椀 C
11	図 23	図版 17	SD095 明褐色土	土師器椀	(14.2)	2.6	*		35%	中粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 7.5YR7/8	椀 D
12	図 23	図版 18	SD095 明褐色土	土師器椀	(15.2)	2.6	*		50%	中粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/8	椀 D
13	図 23	図版 18	SD095 明褐色土	土師器高杯	*	(4.0)	*		10%	中粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	高杯 A
14	図 23	図版 18	SD095 明褐色土	土師器甕	(16.2)	(3.9)	*		口縁部片	中粗 ～ 1mm 石英・長石	良 橙 2.5YR7/6	
15	図 23	図版 18	SD095 明褐色土	土師器甑	(27.4)	(23.5)	*		口縁部片	密 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 7.5YR8/2	
16	図 23	図版 19	SD095 明褐色土	須恵器蓋	(22.3)	7.8	*		40%	密 微小砂粒	良 灰白 N7/0	壺蓋
17	図 23	図版 19	SD095 明褐色土	瓦平瓦	(8.2)	(8.4)	(5.3)			粗 ～ 5mm 石英・長石・雲母	良 灰 N5/0	
18	図 24	図版 19	SD095 黒褐色シルト	土師器杯	*	(1.6)	*		つまみ部片	中粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 橙 5YR7/6	
19	図 24	図版 19	SD095 黒褐色シルト	土師器杯	*	3.1	*		体部片	中粗 ～ 1mm 石英・長石・微小砂粒	良 灰白 10YR8/2	杯 A
20	図 24	図版 19	SD095 黒褐色シルト	土師器甕	(11.4)	(6.7)	*		25%	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 にぶい黄橙 10YR7/2	
21	図 24	図版 20	SD095 黒褐色シルト	木製品燃えさし	4.2	1.9	0.5					
22	図 24	図版 20	SD095 黒褐色シルト	木製品燃えさし	4.2	1.9	1.0					
23	図 24	図版 20	SD095 黒褐色シルト	木製品燃えさし	4.6	1.8	1.0					
24	図 24	図版 20	SD095 黒褐色シルト	木製品燃えさし	7.6	1.9	0.8					
25	図 24	図版 20	SD095 黒褐色シルト	木製品燃えさし	7.8	1.0	0.8					
26	図 24	図版 20	SD095 黒褐色シルト	木製品燃えさし	(8.9)	(0.8)	(0.5)					
27	図 24	図版 20	SD095 黒褐色シルト	木製品燃えさし	(14.4)	(2.6)	(1.0)					
28	図 25	図版 20	SD100	土師器杯	*	3.0	*		体部片	密 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 淡橙 5YR8/4	杯 A
29	図 25	図版 20	SD100	土師器高杯	*	(7.3)	*		脚柱部片	密 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	高杯 A
30	図 25	図版 20	SD100	土師器甕	(9.1)	(5.1)	*		20%	中粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 浅黄橙 7.5YR8/4	
31	図 25	図版 20	SD100	須恵器杯	(11.0)	4.0	*		40%	中粗 ～ 1mm 石英・長石	不良 灰白 2.5Y8/1	杯 A 墨書あり
32	図 25	図版 20	SD100	須恵器杯	(14.0)	4.1	(9.3)		25%	密 ～ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 B
33	図 25	図版 21	SD100	土製品鞴	(14.7)	(11.6)	6.8		底部片	粗 ～ 4mm 石英・長石・クサリ礫・チャート	良 橙 5YR7/6	
34	図 25	図版 21	SD100	土製品鞴	(16.2)	(6.8)	5.4			粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 橙 5YR7/6	

表４　令和２年度調査　報告遺物一覧（2）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径（長）	器高（幅）	底径（厚）	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
35	図 26	図版 21	SB040c 抜取	須恵器 皿	＊	－（2.1）	－	＊	体部片	やや粗 ～ 4mm 石英・長石・微小砂粒	不良 灰白 N8/0	皿 C
36	図 26	図版 21	SB040c	須恵器 壺	＊	－（2.1）	－	＊	底部片	密 ～ 4mm 長石・黒色粒	良 灰 N7/0	壺 L
37	図 26	図版 21	SB090h 抜取	須恵器 杯	13.0	－ 5.2	－ 8.6		80%	密 ～ 1mm 石英・長石	良 灰 N5/0	杯 B
38	図 26	図版 21	SA160f	須恵器 甕	＊	－（4.0）	－	＊	口縁部片	密 ～ 5mm 長石・黒色粒	良 灰 N6/0	甕 A
39	図 27	図版 22	SD020	土師器 杯	＊	－（3.2）	－	＊	体部片	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	杯 A
40	図 27	図版 22	SD020	土師器 杯	14.1	－ 2.7	－	＊	80%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	杯 A
41	図 27	図版 22	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	土師器 杯	（19.0）	－ 3.2	－	＊	10%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 2.5YR7/6	杯 A
42	図 27	図版 22	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	土師器 杯	（21.5）	－ 3.1	－	＊	50%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 浅黄橙 7.5YR8/6	杯 A
43	図 27	図版 22	SD020	土師器 皿	＊	－（2.2）	－	＊	体部片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	皿 A
44	図 27		SD020	土師器 皿	＊	－（2.2）	－	＊	体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 2.5YR7/6	皿 A
45	図 27	図版 22	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	土師器 皿	＊	－ 2.1	－	＊	体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	皿 A
46	図 27		SD020 西壁 10・11 層（最下層）	土師器 皿	＊	－（2.5）	－	＊	体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	皿 A
47	図 27	図版 22	SD020	土師器 皿	（17.4）	－ 2.9	－	＊	25%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 橙 5YR7/6	皿 A
48	図 27		SD020 西壁 10・11 層（最下層）	土師器 椀	＊	－（3.1）	－	＊	体部片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石	良 灰褐 7.5YR4/2	椀 C
49	図 27	図版 22	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	土師器 椀	＊	－（3.6）	－	＊	体部片	粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 橙 5YR6/8	椀 C
50	図 27	図版 22	SD020	土師器 椀	（13.2）	－（3.7）	－	＊	40%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 にぶい橙 7.5YR7/4	椀 A
51	図 27	図版 22	SD020	土師器 椀	15.1	－ 5.0	－	＊	70%	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫・微小砂粒	良 浅黄橙 7.5YR8/3	椀 A
52	図 27	図版 23	SD020	土師器 甕	＊	－（4.3）	－	＊	口縁部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 にぶい橙 5YR7/4	甕 A
53	図 27	図版 23	SD020	土師器 甕	（14.5）	－（4.8）	－	＊	口縁部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	甕 A
54	図 27	図版 23	SD020	土師器 甕	（24.9）	－（4.4）	－	＊	口縁部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 にぶい橙 5YR7/4	甕 A
55	図 27	図版 22	SD020	須恵器 蓋	19.9	－ 2.5	－	＊	80%	やや粗 ～ 1mm 石英・長石	良 灰白 2.5Y7/1	
56	図 27		SD020 西壁 10・11 層（最下層）	須恵器 蓋	（30.6）	－（3.0）	－	＊	10%	密 ～ 1mm 石英・長石	良 灰白 N8/0	硯転用
57	図 27	図版 23	SD020	須恵器 杯	（15.7）	－ 4.4	－	＊	25%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 2.5Y8/1	杯 A
58	図 27	図版 23	SD020	須恵器 杯	（9.6）	－ 3.2	－	＊	50%	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・微小砂粒	良 灰白 N7/0	杯 B
59	図 27	図版 23	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	須恵器 杯	（15.5）	－ 4.3	－（10.5）		35%	密 ～ 5mm 石英・長石	良 灰 N5/0	杯 B
60	図 27		SD020 西壁 10・11 層（最下層）	須恵器 杯	＊	－ 5.5	－	＊	体部片	密 ～ 1mm 石英・長石	良 青灰 5PB5/1	杯 B
61	図 27	図版 23	SD020	須恵器 杯	（18.8）	－ 6.2	－（12.5）		25%	粗 ～ 9mm 石英・長石・黒色泥質	不良 灰 N6/0	杯 B
62	図 27		SD020 西壁 10・11 層（最下層）	須恵器 杯	（19.1）	－ 5.7	－（13.8）		10%	密 ～ 1mm 石英・長石	良 灰白 2.5Y8/1	杯 B

表 5　令和 2 年度調査　報告遺物一覧（3）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径（長）	器高（幅）	底径（厚）	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
63	図 27	図版 24	SD020	須恵器杯	(13.5)	3.8	*		25%	1mm 石英・長石・微小砂粒	良 灰白 10YR7/1	杯 E
64	図 27	図版 24	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	須恵器皿	(16.0)	1.9	*		20%	2mm 石英・長石	良 灰白 2.5Y8/1	皿 C
65	図 27	図版 24	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	須恵器皿	(22.5)	2.1	*		20%	1mm 石英・長石・微小砂粒	不良 灰白 10YR8/1	皿 C
66		図版 24	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	須恵器鉢	(21.9)	(9.7)	*		35%	2mm 石英・長石・黒色泥粒	良 灰 N6/0	鉢 A
67	図 28	図版 24	SD020	須恵器蓋	(14.2)	(2.2)	*		25%	1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
68	図 28	図版 24	SD020	須恵器壺	(11.2)	15.7	9.4		80%	2mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	壺 A
69	図 28	図版 24	SD020	須恵器壺	5.0	(9.5)	*		口縁部片	2mm 石英・長石	良 灰 N6/0	壺 L
70	図 28	図版 24	SD020	須恵器甕	(24.0)	(7.5)	*		口縁部片	1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	甕 A
71	図 28	図版 25	SD020	瓦 軒平瓦	(3.0)	(6.5)	(4.2)			1mm 石英・長石・クサリ礫	不良 灰白 7.5YR8/2	6675 型式
72	図 28	図版 25	SD020	瓦 平瓦	(11.2)	(6.1)	2.4			3mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰 N4/0	
73	図 28	図版 25	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	土製品 製塩土器	(12.0)	(6.7)	*		20%	3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 7.5YR7/6	
74	図 28		SD020	金属製品 刀子	(1.7)	(6.1)	1.1	(10.0)		鉄		
75	図 28	図版 25	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	金属製品 釘	(6.0)	2.6	2.0	(23.0)		鉄		
76	図 28	図版 25	SD020 西壁 10・11 層（最下層）	金属製品 釘	(4.6)	1.0	1.7	(14.0)		鉄		
77	図 29	図版 25	SD055	土師器皿	(19.0)	2.9	*		10%	2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR6/6	皿 A
78	図 29		SD055	土師器椀	(14.0)	(3.3)	*		20%	3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 浅黄橙 7.5YR8/3	椀 C
79	図 29		SD055	須恵器蓋	*	(1.5)	*		つまみ部片	2mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	
80	図 29	図版 25	SD055	須恵器蓋	(20.1)	(2.5)	*		25%	2mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	
81	図 29	図版 25	SD055	須恵器杯	(10.2)	4.2	(7.0)		40%	2mm 石英・長石	良 灰 N6/0	杯 B
82	図 29	図版 25	SD055	金属製品 釘	(10.2)	1.4	1.0	(9.0)		鉄		
83	図 30	図版 25	SD065 上層	土師器杯	(13.6)	2.1	*		25%	2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 2.5YR7/6	杯 A
84	図 30		SD065 上層	土師器皿	*	1.8	*		体部片	1mm 石英・長石・クサリ礫	良 浅黄橙 7.5YR8/3	皿 A
85	図 30		SD065 上層	土師器皿	*	1.8	*		体部片	1mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 2.5YR6/6	皿 A
86	図 30		SD065 上層	土師器椀	(13.7)	3.8	*		10%	2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	椀 C
87	図 30		SD065 上層	土師器椀	*	(3.0)	*		体部片	3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/8	椀 D
88	図 30	図版 25	SD065 上層	土師器椀	(15.9)	3.2	*		50%	2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/8	椀 D
89	図 30		SD065 上層	土師器甕	*	(5.5)	*		口縁部片	3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 淡橙 5YR8/4	
90	図 30		SD065 上層	須恵器蓋	*	(1.1)	*		つまみ部片	1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	硬転用
91	図 30		SD065 上層	須恵器杯	*	3.1	*		体部片	1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 A
92	図 30		SD065 上層	須恵器杯	*	(4.8)	(11.8)		20%	2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 B
93	図 30	図版 26	SD065 上層	須恵器杯	17.8	5.2	12.6		70%	2mm 石英・長石	不良 灰白 2.5Y8/1	杯 B

表6　令和２年度調査　報告遺物一覧（4）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構 層位	種別 器種	口径（長）	器高（幅）	底径（厚）	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
94	図30	図版26	SD065 上層	須恵器 壺	＊	－（5.6）	－（12.0）		体部片	密 微小砂粒	良 灰白 N7/0	
95	図30	図版26	SD065 上層	瓦 平瓦	（16.6）	－（12.7）	－（3.5）			粗 ～4mm 石英・長石・チャート・雲母	良 灰白 N7/0	
96	図30	図版26	SD065 上層	土製品 製塩土器	＊	－（5.6）	－＊		口縁部片	粗 ～10mm 石英・長石・クサリ礫・チャート	良 にぶい橙7.5YR7/4	
97	図30	図版26	SD065 上層	土製品 土馬	（14.3）	－（6.3）	－2.0			やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	
98	図30	図版26	SD065 上層	金属製品 釘	（5.8）	－1.7	－1.6	－（11.0）		鉄		
99	図30		SD065 下層	土師器 杯	＊	－（3.6）	－＊		口縁部片	やや粗 ～1mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 橙 5YR6/8	杯C
100	図30	図版26	SD065 下層	須恵器 鉢	＊	－2.5	－＊		体部片	密 ～4mm 石英・長石	良 灰白 N8/0	鉢C
101	図30	図版27	SD065 21層（最下層）	土師器 鉢	（20.1）	－2.5	－＊		10%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR6/8	鉢A
102	図30	図版27	SD065 21層（最下層）	土師器 壺	（10.4）	－（4.9）	－＊		10%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	壺A
103	図30	図版27	SD065 21層（最下層）	須恵器 杯	（16.0）	－2.6	－＊		25%	やや粗 ～1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯A
104	図31	図版27	SK117	瓦 平瓦	（20.8）	－（25.8）	－6.3			粗 ～13mm 石英・長石・黒色粒・チャート	良 灰白 N7/0	
105	図31		SK122	土師器 杯	＊	－（2.8）	－＊		体部片	密 ～1mm 石英・長石	良 橙 5YR7/6	杯A
106	図31		SK122	土師器 鉢	＊	－2.0	－＊		体部片	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 橙 5YR6/8	鉢A
107	図31		SK130	須恵器 杯	＊	－（1.6）	－＊		底部片	密 微小砂粒	良 灰白 N8/0	杯B
108	図31		SK130	須恵器 甕	（21.8）	－（9.4）	－＊		25%	密 ～2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
109	図31	図版27	SP149 東区南壁 56層	土師器 杯	（18.8）	－4.5	－＊		25%	やや粗 ～5mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/8	杯A
110	図32		暗褐色砂	土師器 鉢	＊	－1.7	－＊		体部片	やや粗 ～1mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 橙 2.5YR6/6	鉢A
111	図32	図版27	暗褐色砂	土師器 鉢	（9.6）	－2.2	－＊		30%	粗 ～1mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	
112	図32	図版27	暗褐色砂	須恵器 蓋	（17.4）	－2.4	－＊		20%	密 ～1mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	廃転用
113	図32	図版28	暗褐色砂	黒色土器 A 類 椀	（14.0）	－（3.9）	－＊		25%	やや粗 ～2mm 石英・長石・雲母	良（外）にぶい橙 7.5YR6/4（内）暗灰 N3/0	
114	図32	図版28	暗褐色砂	瓦 平瓦	（9.5）	－（8.8）	－4.8			やや粗 ～3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
115	図32	図版28	暗褐色砂	瓦 平瓦	（12.8）	－（14.2）	－（4.8）			やや粗 ～5mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰 N5/0	
116	図32	図版28	暗褐色砂	瓦 平瓦	（9.0）	－（7.5）	－（3.1）			やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 N7/0	
117	図32	図版28	攪乱	須恵器 蓋	11.8	－2.2	－＊		80%	やや粗 ～3mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	
118	図32	図版28	攪乱	須恵器 平瓶	＊	－（1.0）	－＊		体部片	密 ～1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	

数値の単位は法量 cm、重量 g

表7　令和2年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（1）

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
1			撹乱		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯・甕・蓋	C1
2			撹乱		土師器（古代）甕、須恵器（古代）壺・甕	D1
3			撹乱		土師器（古代）杯、須恵器（古代）杯	H1
4			撹乱		土師器（古代）甕・高杯、須恵器（古代）杯・鉢・壺・甕・高杯・蓋・ミニチュア横瓶、貝殻	I1
5			素掘溝		土師器（古代）盤	H・I1
6			素掘溝		土師器（古代）細片	H・I2
7			素掘溝		平瓦	G・H1・2
8			素掘溝		土師器（古代）細片	D～F2
9			撹乱		国産陶器土瓶	J4
10			溝	近世	土師器（古代）杯、須恵器（古代）蓋、国産染付椀、国産陶器擂鉢、平瓦、銭	F1～5
11			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕	H～I4
12			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯、瓦器椀・細片、瓦質土器細片	G・H2～4
13			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、丸瓦	E4
14	SB040a		ピット			B3
15	SB040b	掘方	ピット		土師器（古代）杯	B・C2・3
16	SB040c	抜取	ピット		須恵器（古代）杯 土師器（古代）細片、須恵器（古代）皿	C2・3
		掘方			土師器（古代）細片	
17	SB040d		ピット			C・D2・3
18	SB040e		ピット			CD3
19	SB040f	掘方	ピット		土師器（古代）細片	C3
20	SD020		溝		土師器（古代）皿・杯・甕・高杯・瓶、須恵器（古代）皿・杯・壺・甕・蓋・横瓶、黒色土器A類皿、軒平瓦・丸瓦・平瓦、不明鉄製品	A～D1
		西壁10・11層（最下層）			土師器（古代）皿・杯・甕・瓶、須恵器（古代）杯・鉢・壺・蓋・盤、製塩土器、平瓦、不明鉄製品	
21	SB050a		ピット			C3
22	SB050b		ピット			C3
23	SB050c		ピット		土師器（古代）細片	C2・3
24	SB050d		ピット			D2
25	SD025		溝		土師器（古代）杯・壺、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋	D～F1
26	SB050e	抜取	ピット		土師器（古代）細片、不明鉄製品	D2・3
27	SB050f		ピット			D3
28	SB050g		ピット			D3
29	SB050h		ピット			D3
30	SD030		溝	SF170 南側溝	土師器（古代）杯、須恵器（古代）杯・壺・甕・平瓶、黒色土器A類皿、製塩土器、瓦細片	D～F2・3
31	SA070a	抜取	ピット		土師器（古代）細片	B1・2
32	SA070b	掘方	ピット		須恵器（古代）細片	B1・2
33	SA070c		ピット		須恵器（古代）細片	C・D1・2
34	SA070d		ピット		土師器（古代）細片	C・D1・2
35	SA070e		ピット		土師器（古代）細片	D2
36	SA070f		ピット			E1・2
37	SA070g		ピット			E1・2
38	SA070h		ピット			F1・2
39	SA070i		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）皿	F1・2
40	SB040		掘立柱建物	S-14・15・16・17・18・19		B～D2・3
41	SA070j		ピット		縄文土器深鉢、土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	F1・2
42	SA070k		ピット		土師器（古代）細片	F・G1・2
43	SA070l		ピット			G1・2

表８　令和２年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（2）

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
44	SA070m	掘方	ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・壺、平瓦	H1・2
					須恵器（古代）杯、平瓦、凝灰岩石材（加工あり）	
		底砂			丸瓦・平瓦	
45	SA070n	柱痕	ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、棒状石（加工あり）	I1・2
					土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、平瓦	
		掘方			土師器（古代）細片	
46	SB060d		ピット			E4
47	SB060e		ピット			E3・4
48	SB060f		ピット			E3
49	SB060g		ピット			F3・4
50	SB050		掘立柱建物	S-21・22・23・24・26・27・28・29		C・D2・3
51	SB060h		ピット			F4
52			ピット		土師器（古代）細片	B3
		掘方			土師器（古代）甕	
53			ピット		木製品柱材	B3
54			土坑		土師器（古代）杯、須恵器（古代）壺・甕、平瓦	F4
55	SD055		溝	近世以降、混入あり	土師器（古代）椀・杯・甕・高杯・細片、須恵器（古代）皿・杯・壺・甕・蓋、黒色土器A類椀、瓦器椀、国産染付椀、国産陶器椀、丸瓦・平瓦、鉄釘	F・G1～7
56			土坑		土師器（古代）細片、平瓦	F4
57			ピット	S-20の下	土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	A1
58	SA160g		ピット		土師器（古代）杯・甕	H3
59	SA160f		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片	H3
60	SB060		掘立柱建物	S-46・47・48・49・51・134・135・136・137・138		E・F3～6
61			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・壺	I3
62			ピット			A・B3
63			ピット			B3
64			ピット			B3
65	SD065	上層	溝		土師器（古代）皿・杯・甕・高杯・蓋、須恵器（古代）杯・甕・蓋、製塩土器、丸瓦・平瓦、土製品土馬、鉄釘	H・I1
		下層			土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯、平瓦	
		最下層			土師器（古代）皿・壺、須恵器（古代）皿	
66			ピット			A2・3
67			ピット			A3
68			ピット			B3
69	欠番					
70	SA070		掘立柱列	S-31・32・33・34・35・36・37・38・39・41・42・43・44・45		B～I1・2
71			ピット			C・D3
72			ピット			I3
73			土坑			I3
74			ピット		土師器（古代）細片	D1・2
75	SD075		溝	SF170 南側溝	土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯・甕・蓋	E・F5・6
76			素掘溝		土師器（古代）細片	H・I4
77			素掘溝		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・壺、黒色土器A類細片、国産陶器細片、平瓦	G～I5・6
78			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺	H・I4・5
79			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯、国産陶器椀	H5
80	SD080		溝	SF170 南側溝	土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯、平瓦	E6・7
81			素掘溝		土師器（古代）細片、土師器（中世～）釜、須恵器（古代）杯・細片	I5
82			撹乱		土師器（古代）細片、丸瓦	G・H7・8

表９　令和２年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（3）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
83			撹乱		土師器（古代）細片、瓦器椀、国産陶器鍋・蓋、丸瓦・平瓦、銭・不明金属製品	F ～ H9 ～ 11
84			撹乱		不明鉄製品	E・F10・11
85	SD085		溝	SF170 南側溝	土師器（古代）杯・甕・鉢、須恵器（古代）杯、平瓦	E4・5
86			撹乱		須恵器（古代）細片、国産陶器細片、丸瓦	E・F7・8
87			撹乱		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕、国産染付椀、国産陶器細片、丸瓦・平瓦、金属製品類	F・G4・5
88			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片、瓦細片	I6
89			素掘溝		平瓦	H・I10
90	SB090		掘立柱建物	S-139・141・142・143・144・145・146・147・148		D ～ F6・7
91			溝		須恵器（古代）杯・蓋	G・H6・7
92			溝		土師器（古代）細片	H・I6
93			溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯、瓦細片	I6
94			溝		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯	H・I6
95	SD095	暗褐色砂 黒褐色シルト	溝	SF170 北側溝	土師器（古代）皿・杯・甕・高杯・鉢、須恵器（古代）杯・壺・蓋、平瓦	F・G8・9
					土師器（古代）杯・甕・蓋・鉢、須恵器（古代）杯・甕、燃えさし	
96			土坑		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	H・I6
97			溝	混入あり	土師器（古代）杯・甕、土師器（中世～）皿、須恵器（古代）杯・壺・甕、瓦質土器細片、国産染付椀、国産陶器椀・甕・擂鉢、丸瓦・平瓦	F・G10・11
98			撹乱		土師器（古代）細片、平瓦	E6
99			溝	S-10 の続き 近世以降	須恵器（古代）細片、国産陶器鉢、碍子	F5 ～ 7
100	SD100		溝	SF170 北側溝 混入あり	土師器（古代）杯・壺・高杯・鉢・甑、須恵器（古代）椀・杯・甕・蓋、国産陶器鉢、製塩土器、平瓦	F・G5・6
101			撹乱		土師器（古代）細片	I5
102			土坑		土師器（古代）杯・細片、土師器（中世～）皿、須恵器（古代）杯・壺・甕・高杯、瓦質土器細片、国産陶器細片、平瓦	F・G4・5
103			素掘溝		土師器（古代）細片	E5
104			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋・細片、平瓦	I7
105			溝			F7
106			撹乱		土師器（古代）皿・杯、ガラス	I7
107			撹乱		道具瓦	G9
108			土坑		土師器（古代）細片	H9
109			土坑		土師器（古代）甕・細片	F8・9
110			土坑		土師器（古代）細片、土師器（中世～）皿、須恵器（古代）杯・甕、瓦質土器細片、国産陶器皿、丸瓦・平瓦	F4・5
111			土坑		土師器（古代）杯・甕、丸瓦・平瓦	E5
112			土坑		土師器（古代）皿	E5
113			土坑			F・G11
114			ピット		土師器（古代）蓋・細片、須恵器（古代）細片	H7
115			土坑		土師器（古代）製塩土器・細片	E4
116			土坑		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	H7
117	SK117		土坑	混入あり	土師器（古代）細片、須恵器（古墳時代）杯、平瓦	G・H7
118			土坑		土師器（古代）壺・細片	H9
119			土坑		土師器（古代）細片	H9
120			土坑		土師器（古代）杯・甕、平瓦	D・E3・4
121			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	H9
122	SK122		土坑		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）蓋	H・I10
123			ピット	瓦質土器は混入か	土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、瓦質土器細片	E5
124			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・壺・蓋、平瓦	I6
125			土坑		土師器（古代）細片	D5

表 10　令和 2 年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（4）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
126			土坑		土師器（古代）細片	E5
127			土坑		土師器（古代）甕	D5
128			土坑		土師器（古代）杯、須恵器（古代）甕、平瓦	G5
129			ピット		土師器（古代）細片	H5
130	SK130		土坑		土師器（古代）甕、須恵器（古代）杯・甕	H6
131			ピット		平瓦	H5
132			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	H5・6
133			ピット		土師器（古代）細片	H5
134	SB060b		ピット			E5
135	SB060a		ピット		土師器（古代）細片	E5・6
136	SB060c		ピット			E5
137	SB060i		ピット			F5
138	SB060j		ピット		木製品杭	F5・6
139	SB090a		ピット			D7
140			土坑	埋土、S-100 に類似	土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	F・G10・11
141	SB090b		ピット			D7
142	SB090c		ピット			D6
143	SB090d		ピット			D6
144	SB090e		ピット			E6
145	SB090f		ピット			E6
146	SB090g		ピット			E・F6
147	SB090h	抜取	ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	E・F7
148	SB090i		ピット			E7
149	SP149	東区南壁 56 層	ピット		平瓦	D5
					土師器（古代）杯、平瓦	
150			ピット			E5
151	SA160a		ピット		須恵器（古代）杯	H11
152	SA160b		ピット			H9
153	SA160c		ピット			H7・8
154			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	H4・5
155	SA160e		ピット			H4
156	SA160d		ピット			H5
157			ピット		土師器（古代）細片	E5
158			ピット		須恵器（古代）甕	H・I4
159			ピット		土師器（古代）甕・細片	I7
160	SA160		掘立柱穴	S-58・59・151・152・153・155・156		H1 ～ I1
170	SF170		道路	南側溝：S-30・75・80・85 北側溝：S-95・100		D ～ F1 ～ 9
暗褐色砂					土師器（古代）皿・杯・甕・鉢、土師器（中世～）釜、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、黒色土器 A 類椀、国産陶器細片、丸瓦・平瓦	
表土					弥生土器甕、土師器（古代）皿・杯・甕・高杯・鉢、土師器（中世～）釜、須恵器（古代）皿・杯・壺・甕・高杯・蓋、瓦質土器釜・細片、国産染付椀、国産陶器甕・壺、仏飯器・灯明台・鉢、軒平瓦・丸瓦・平瓦、不明鉄製品	
南壁 56 層					土師器（古代）鉢、平瓦	

令和４年度調査
関連資料

図 51　令和４年度調査　検出遺構配置略図
表 11・12　令和４年度調査　報告遺物一覧（1）・（2）
表 13・14　令和４年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（1）・（2）

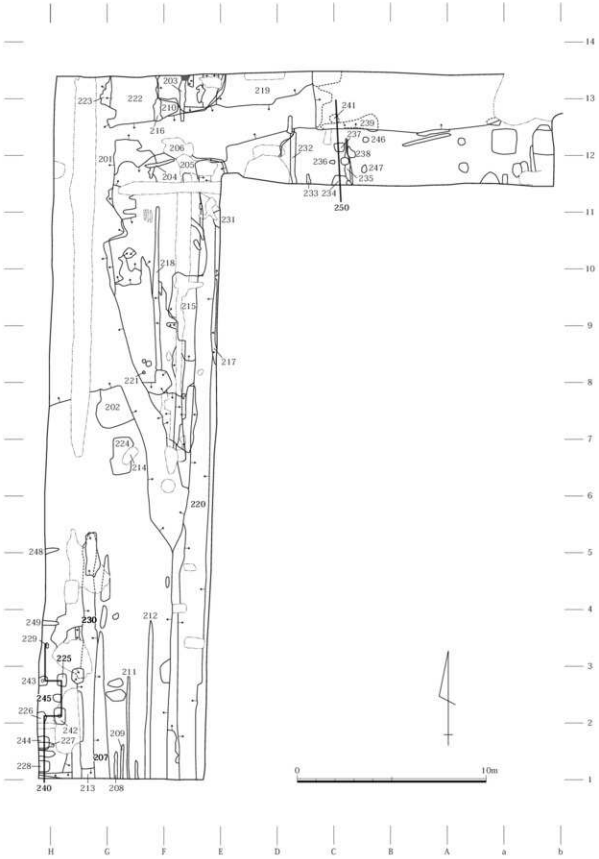


図 51　令和 4 年度調査　検出遺構配置略図（S=1/200）

表 11　令和４年度調査　報告遺物一覧（1）

報告番号	掃図	写真図版	出土遺構	種別器種	口径（長）	器高（幅）	底径（厚）	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
119	図 36		SD220	土師器高杯	＊	(2.3)	＊		10%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/8	高杯 A
120	図 36	図版 39	SD220	土師器甕	＊	(3.8)	＊		体部片	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	良 にぶい橙 5YR7/4	
121	図 36	図版 39	SD220	須恵器杯	＊	(1.3)	＊		底部片	やや密 ～ 1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 B 墨書「本」
122	図 36		SD220	須恵器鉢	＊	(3.5)	＊		体部片	密 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 N8/0	鉢 C
123	図 36	図版 39	SD220	須恵器壺	4.4	(3.9)	＊		口縁部片	密 微小砂粒	良 灰 N6/0	壺 M
124	図 36		SD220	須恵器平瓶	＊	(2.5)	＊		体部片	密 ～ 1mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	
125	図 36	図版 39	SD220	黒色土器 A 類 椀	＊	(1.0)	＊		底部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・雲母	不良 にぶい橙 7.5YR7/3	
126	図 36	図版 39	SD220	灰釉陶器 椀	＊	(1.3)	(5.6)		底部片	やや密 微小砂粒	良 灰白 N8/0	（輸）灰白 10YR8/2
127	図 36	図版 39	SD220	瓦 軒平瓦	(4.4)	(5.5)	(4.2)			粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・角閃石	不良 にぶい橙 5YR7/4	
128	図 36	図版 39	SD220	瓦 軒平瓦	(3.2)	(8.7)	(3.0)			やや粗 ～ 2mm 石英・長石	良 灰白 N8/0	6663E 型式
129	図 36		SD220	瓦 丸瓦	(9.3)	(7.2)	(4.6)			粗 ～ 7mm 石英・長石・チャート	不良 灰 N4/0	
130	図 36	図版 39	SD220	瓦 平瓦	(7.4)	(6.7)	(3.7)			密 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N5/0	
131	図 36	図版 40	SD220	瓦 平瓦	(19.4)	(9.1)	(2.7)			やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 灰 N4/0	
132	図 36	図版 40	SD220	瓦 平瓦	(13.4)	(11.1)	5.8			粗 ～ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N6/0	
133	図 37	図版 40	SD220	瓦 平瓦	(10.5)	(16.4)	6.1			やや粗 ～ 5mm 石英・長石	良 灰 N5/0	
134	図 37	図版 41	SD220	瓦 平瓦	(17.1)	(11.4)	5.0			やや粗 ～ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
135	図 37	図版 41	SD220	土製品 塼	(11.7)	(6.6)	4.4			粗 ～ 11mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N4/0	
136	図 37	図版 41	SD220	金属製品 釘	(3.4)	(1.8)	1.7	(8.0)		鉄		
137	図 38		SD230	土師器鉢	＊	1.9	＊		体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石	良 にぶい橙 5YR7/4	鉢 A
138	図 38	図版 41	SD230	土師器甕	＊	(4.5)	＊		体部片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 淡橙 7.5YR8/3	
139	図 39		SA240a 埋土	土師器鉢	＊	1.4	＊		体部片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石	良 橙 5YR7/8	鉢 A
140	図 39	図版 42	SA240a 埋土	土師器椀	＊	3.5	＊		体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 淡橙 5YR8/4	椀 C
141	図 39	図版 42	SA240a 埋土	土師器甕	＊	(3.8)	＊		口縁部片	粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 淡黄橙 7.5YR8/4	
142	図 39	図版 42	SA240a 埋土	須恵器鉢	＊	1.9	＊		体部片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・チャート	不良 灰白 N8/0	鉢 C
143	図 39	図版 42	SA240b	瓦 平瓦	(10.9)	(10.8)	3.4			粗 ～ 4mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 N7/0	
144	図 40	図版 42	SK231	土師器杯	＊	(3.3)	＊		体部片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 10YR8/2	杯 A
145	図 40		SK231	土師器甕	＊	(3.1)	＊		口縁部片	やや粗 ～ 5mm 石英・長石・チャート	良 淡黄橙 10YR8/3	
146	図 41	図版 42	整地土 1	土師器杯	(11.5)	2.4	＊		25%	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 淡黄橙 7.5YR8/3	杯 C
147	図 41		整地土 1	土師器鉢	(18.0)	2.4	＊		10%	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 2.5YR7/6	鉢 A
148	図 41		整地土 1	土師器鉢	＊	2.0	＊		体部片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5 Y R 7/6	鉢 A
149	図 41		整地土 1	土師器椀	＊	4.0	＊		体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	椀 A
150	図 41		整地土 1	土師器高杯	＊	4.0	＊		体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 2.5YR6/8	高杯 A
151	図 41		整地土 1	土師器高杯	＊	(9.0)	＊		脚柱部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	高杯 A
152	図 41	図版 43	整地土 1	土師器甕	(16.1)	(7.5)	＊		体部片	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	甕 A
153	図 41	図版 43	整地土 1	須恵器蓋	(14.3)	2.6	＊		50%	密 ～ 1mm 石英・長石	良 灰白 N8/0	転用

表 12　令和 4 年度調査　報告遺物一覧（2）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構 層位	種別 器種	口径（長）	器高（幅）	底径（厚）	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
154	図 41	図版 43	整地土 1	須恵器 杯	(14.1)	5.3	*		35%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 A
155	図 41	図版 43	整地土 1	須恵器 杯	*	(1.0)	*		底部片	密 ～ 1mm 石英・長石	不良 白 N9/0	杯 A 墨書「蘭」か
156	図 41	図版 43	整地土 1	須恵器 杯	(10.2)	3.2	*		35%	密 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N6/0	杯 B
157	図 41		整地土 1	須恵器 杯	*	5.4	*		体部片	密 ～ 1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N6/0	杯 B
158	図 41		整地土 1	須恵器 杯	(18.0)	5.8	(12.8)		25%	密 ～ 1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N6/0	杯 B
159	図 41		整地土 1	須恵器 皿	*	(5.0)	*		体部片	やや粗 ～ 3mm 石英・長石	不良 白 N9/0	皿 B
160	図 41		整地土 1	須恵器 皿	(28.6)	5.0	(24.0)		30%	密 ～ 1mm 石英・長石・黒色粒	不良 灰白 2.5Y8/1	皿 B
161	図 41	図版 44	整地土 1	須恵器 蓋	*	(2.4)	*		天井部片	密 ～ 3mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	
162	図 41	図版 44	整地土 1	須恵器 甕	(8.5)	(5.2)	*		体部片	密 ～ 3mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	甕 E
163	図 42	図版 44	整地土 1	瓦 軒平瓦	(7.2)	(10.2)	6.0			粗 ～ 8mm 石英・長石・黒色粒	不良 灰白 N8/0	6702A 型式
164	図 42		整地土 1	瓦 平瓦	(6.7)	(7.4)	2.4			粗 ～ 10mm 石英・長石・クサリ礫	不良 灰白 N8/0	
165	図 42		整地土 1	瓦 平瓦	(13.5)	(8.6)	(5.2)			やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 N8/0	
166	図 42	図版 44	整地土 1	土製品 塊	(11.8)	(11.8)	4.4			粗 ～ 5mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N4/0	
167	図 42	図版 44	整地土 1	木製品 燃えさし	5.9	1.6	1.4					
168	図 43	図版 44	整地土 2	土師器 杯	(14.1)	2.2	*		10%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石	良 浅黄橙 7.5YR8/4	杯 A
169	図 43	図版 44	整地土 2	土師器 杯	(13.0)	3.4	*		35%	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	杯 A
170	図 43		整地土 2	土師器 杯	(18.8)	3.3	*		30%	粗 ～ 3mm 石英・長石・雲母	良 橙 5YR6/8	杯 C
171	図 43		整地土 2	土師器 皿	*	1.7	*		体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	皿 A
172	図 43	図版 44	整地土 2	土師器 皿	*	2.3	*		体部片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 灰白 2.5Y8/1	皿 A
173	図 43		整地土 2	須恵器 杯	*	3.3	*		体部片	密 ～ 1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 A
174	図 43	図版 44	整地土 2	須恵器 杯	(18.0)	4.6	(11.9)		35%	密 ～ 1mm 石英・長石	良 灰白 N7/0	杯 L
175	図 43	図版 45	整地土 2	須恵器 杯	*	(1.4)	*		底部片	やや密 ～ 1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 B 墨書あり
176	図 43	図版 45	整地土 2	須恵器 皿	*	3.1	*		体部片	密 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 N7/0	皿 C
177	図 43	図版 45	整地土 2	土製品 製塩土器	*	(4.7)	*			粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 2.5YR7/6	
178	図 43	図版 45	整地土 2	土製品 環	*	(5.9)	*		底部片	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・チャート	良 灰白 10YR8/2	
179	図 43	図版 45	整地土 2	土製品 土馬	(9.0)	2.2	(7.2)			やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 橙 5YR7/6	
180	図 44	図版 45	機械掘削 南端部	須恵器 蓋	(12.0)	(1.5)	*		20%	密 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N7/0	墨書あり
181	図 44	図版 46	S-201	須恵器 杯	*	(3.4)	(14.1)		底部片	密 ～ 4mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 B 墨書あり
182	図 44	図版 46	S-201	国産磁器 杯	8.0	3.4	3.0		80%	密 微小砂粒	良 白 N9/0	
183	図 44		S-201	国産磁器 椀	(13.8)	7.8	(7.3)		15%	密 微小砂粒	良 白 N9/0	
184	図 44	図版 46	機械掘削 北半部	瓦 軒平瓦	(2.1)	(6.4)	(3.4)			やや粗 ～ 3mm 石英・長石	良 明灰 N3/0	6664I 型式
185	図 44		S-201	瓦 丸瓦	(14.0)	(9.5)	6.5			やや粗 ～ 4mm 石英・長石	良 灰 N6/0	
186	図 44		S-201	瓦 平瓦	(6.0)	(7.1)	(1.7)			やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 2.5Y7/1	
187	図 44	図版 46	S-201	土製品 雛瓦	(9.4)	10.5	5.7			粗 ～ 10mm 石英・長石・チャート	良 赤橙 10R6/8	朝田「山に七」
188	図 44		S-201	木製品 しゃもじ	20.5	7.1	0.7					柾目取り 赤色漆塗り
189	図 44	図版 46	表土南側	石器 石鏃	(4.3)	2.4	0.7	5.0		サヌカイト		

数値の単位は法量 cm、重量 g

表 13　令和 4 年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（1）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
201			溝		土師器（古代）椀・皿・杯・壺・甕・高杯・製塩土器・鍋片、土師器（中世～）皿、須恵器（古墳時代）蓋、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・横瓶・盤・鍋片、灰釉陶器皿、瓦器椀、瓦質土器鉢・風炉・土管・鍋片、国産染付椀・皿・鉢・徳利・瓶・青染皿・鍋片、国産陶器椀（唐津）・甕・壺・擂鉢・鉢・土瓶・徳利・鍋片、製塩土器・土馬、軒平瓦・丸瓦・平瓦・碑、燃えさし・しゃもじ、硯石、炭・煉瓦・碍子・馬衡	D ～ H5 ～ I3
		井戸内			土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）鍋片、国産染付皿、国産陶器壺、平瓦、不明木製品	
202			土坑		土師器（古代）高杯、土師器（中世～）皿、須恵器（古代）杯・甕・蓋・鍋片、瓦質土器鉢、国産陶器鍋片、丸瓦・平瓦	G・H7
203			溝		土師器（古代）杯・鍋片、須恵器（古代）杯・甕	F12・I3
204			溝		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）鍋片	F・G11
205			撹乱		土師器（古代）杯・甕・高杯・甑、須恵器（古墳時代）杯、須恵器（古代）杯・壺・蓋、瓦質土器壺、製塩土器、丸瓦・平瓦、炭	F11・I2
206			撹乱		土師器（古代）鍋片、土師器（中世～）皿、須恵器（古代）壺・甕、国産染付椀、国産陶器椀、平瓦	F・G11・I2
207			溝		土師器（古代）杯、須恵器（古代）杯・甕・蓋、瓦器椀、平瓦	G・H1 ～ 3
208			溝		土師器（古代）鍋片	G1
209			溝		土師器（古代）鍋片	G1
210			土坑		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯・壺・蓋、黒色土器 B 類鍋片、製塩土器、丸瓦・平瓦	F・G12
211			溝			G1・2
212			溝		国産染付鍋片、国産陶器鍋片、平瓦	G1 ～ 3
213			溝		土師器（古代）鍋片、土師器（中世～）釜、須恵器（古代）鍋片、平瓦	H・I1
214			撹乱		国産染付鍋片、桟瓦、不明鉄製品、炭・ガラス・煉瓦	G6
215			撹乱		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）壺、丸瓦・平瓦	F7 ～ I1
216			溝		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）杯・甕	G12
217			溝		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、黒色土器 A 類鍋片、丸瓦・平瓦	F8・9
218			溝		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）甕・鍋片、黒色土器 B 類鍋片、丸瓦・平瓦	G8 ～ I1
219			撹乱		土師器（古代）皿・壺、瓦質土器鍋片、国産青磁香炉、国産白磁皿、国産染付椀・皿・徳利・蓋、国産陶器椀・甕・擂鉢・鉢・蓋・土瓶・徳利・薬瓶、丸瓦・平瓦、炭	D ～ F12・I3
220	SD220		溝	SF260 東側溝	土師器（古代）杯・甕・高杯・甑・鍋片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・円面硯、灰釉陶器皿、黒色土器 A 類椀・鍋片、製塩土器、石材（凝灰岩）、軒平瓦・丸瓦・平瓦、釘、炭	F1 ～ I3
221			ピット		須恵器（古代）鍋片	G8
222			溝		土師器（古代）甕	G12
223			溝		丸瓦	G・H12・I3
224			土坑		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）甕、国産陶器皿（瀬戸）	G6・7
225	SA240e		ピット		土師器（古代）杯・甕	H2
226	SA240c		ピット		土師器（古代）鍋片	I2
227			溝		土師器（古代）杯、須恵器（古代）甕・蓋	H・I1
228	SA240a	埋土	ピット		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）甕	I1
					土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）甕・盤	I3
229	SA240g		ピット		土師器（古代）鍋片	
230	SD230		溝	SF260 西側溝	土師器（古代）杯・甕・高杯、須恵器（古代）杯・甕・蓋、製塩土器、丸瓦・平瓦	H1 ～ 5
231	SK231		土坑		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）壺・甕、平瓦	F10・I1
232			溝		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯、丸瓦	D11・I2
233			溝		土師器（古代）鍋片	D11
234	SA250a		ピット		土師器（古代）鍋片	C11
235			ピット		土師器（古代）鍋片、輸入青磁椀、国産染付鍋片	C11
236			ピット		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）杯	C・D11
237	SA250b		ピット		土師器（古代）鍋片、須恵器（古代）鍋片	C12

表 14　令和 4 年度調査　検出遺構および出土遺物一覧（2）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
238			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	C11・I2
239			撹乱		土師器（古代）細片	C・D12
240	SA240		掘立柱列	S-225・226・228・229・242・243・244		H・I1 ～ 3
241	SA250c		ピット		土師器（古代）杯、須恵器（古代）杯	C・D12
242	SA240d		ピット			H2
243	SA240f		ピット			I2
244	SA240b		ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・甕、平瓦	I1
245			ピット			H2
246			ピット			C12
247			ピット			C11
248			素掘小溝			H・I4・5
249			ピット			H・I3
250	SA250		掘立柱列	S-234・237・241		C・D11・12
260	SF260		道路	東側溝：S-200 西側溝：S-230		E ～ G1 ～ 11
整地土					土師器（古代）皿・杯・甕・竈、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、石材（凝灰岩）、製塩土器、丸瓦・平瓦、燃えさし、炭	H2
整地土 1					土師器（古代）椀・鉢・甕・高杯・鍋・竈、土師器（中世～）皿、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、黒色土器 B 類細片、瓦質土器細片、軒平瓦・丸瓦・平瓦	C12
整地土 2					土師器（古代）椀・杯・甕・高杯・鍋・竈・細片、須恵器（古代）皿・杯・鉢・壺・甕・高杯・蓋・鞴、製塩土器・土馬、軒平瓦・丸瓦・平瓦	C11
機械掘削					土師器（古代）杯・鉢・甕・高杯・鍋、土師器（中世～）釜、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、瓦器椀、国産染付椀・小杯、国産陶器椀・甕・擂鉢・鉢・細片、製塩土器、軒平瓦・丸瓦・平瓦	H・I4・5
表土					土師器（古代）杯・甕、土師器（中世～）皿・釜、須恵器（古代）杯・鉢・壺・甕、黒色土器 A 類底・細片・B 類細片、瓦質土器鉢、国産染付椀、国産陶器椀・皿・擂鉢・鉢、石臼・硯石、平瓦、竈炉・鞴羽口、鉄滓、ガラス・煙管	H・I3
撹乱					土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、国産陶器鉢、平瓦	C・D11・12

写真図版

令和２年度調査　図版　1 ～ 28
令和４年度調査　図版 29 ～ 46

調査前風景（西から）

西区全景（北から）

図版 2

令和２年度調査

東区全景（東から）

東区南半全景（西から）

西区西壁土層断面（東から）

SD030 土層断面（西から）

SD080 土層断面（東から）

SD095 土層断面（東から）

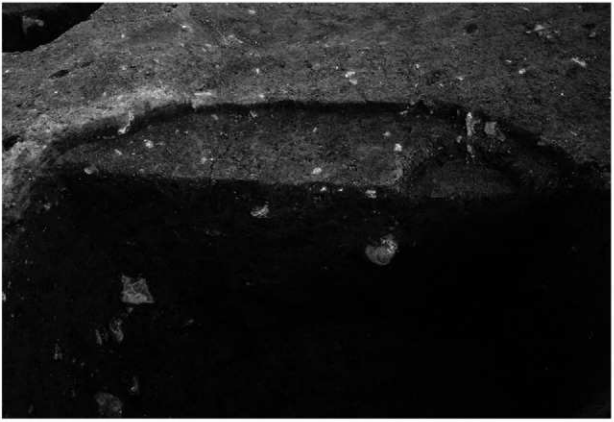
SD100 土層断面（東から）

SB040 全景（東から）

SB040c 土層断面（西から）

SB050 全景（東から）

SB050g 土層断面（西から）



SB060a 土層断面（西から）

SB060c 土層断面（西から）

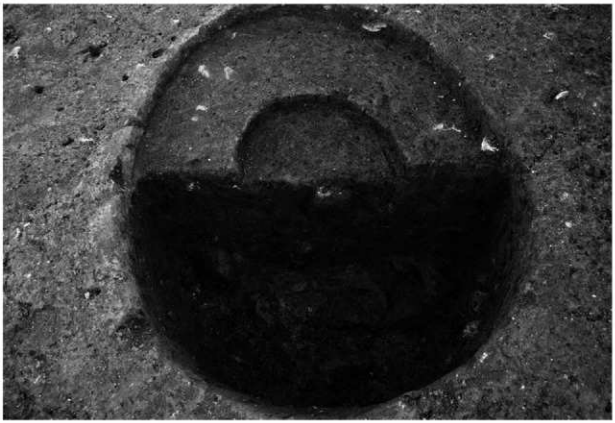
SB060d 土層断面（西から）

SB060e 土層断面（西から）

SB060f 土層断面（西から）

SB060g 土層断面（西から）

SB060h 土層断面（西から）

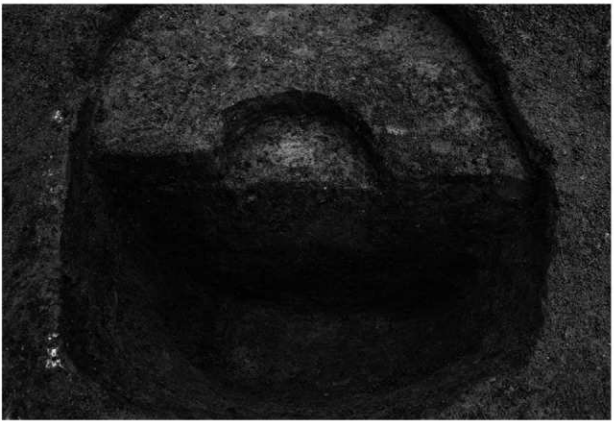


SB090e 土層断面（西から）

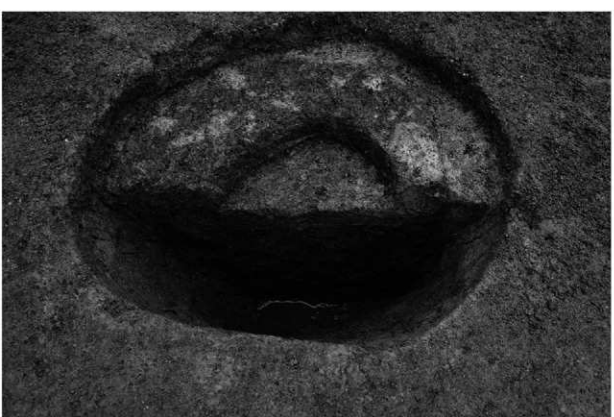
SB090f 土層断面（西から）

SB090g 土層断面（北から）

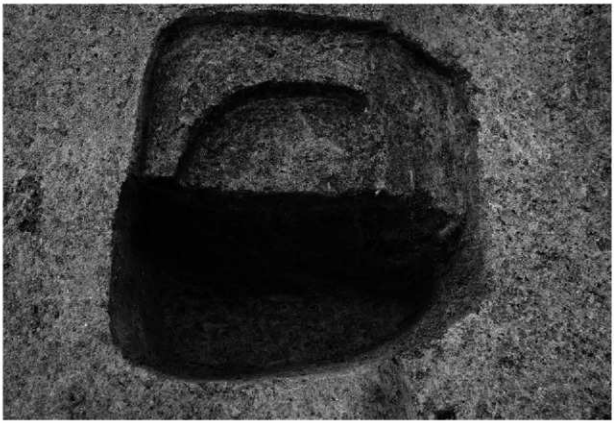
SB090h 土層断面（北から）



SA070a 土層断面土層断面（東から）

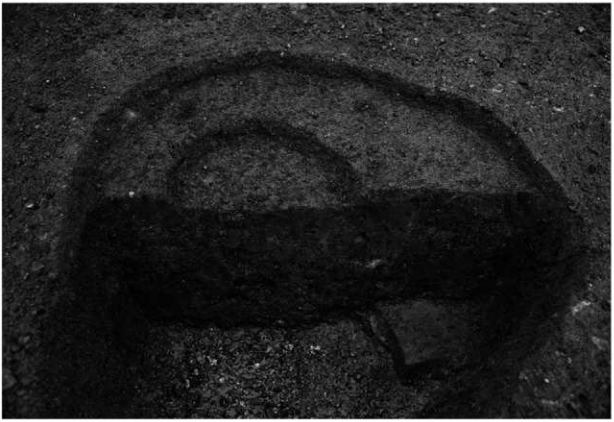


SA070b 土層断面（東から）



SA070d 土層断面（東から）

SA070e 土層断面（東から）



SA070n 土層断面（東から）

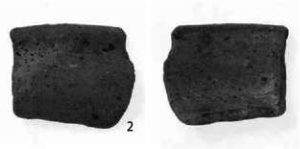
SA160f 土層断面（西から）

SD025 土層断面（南から）

SD065 土層断面（南から）

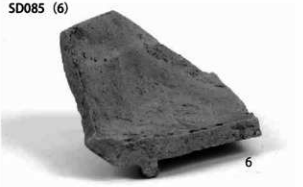
SD030（1）

SD075（2・3）



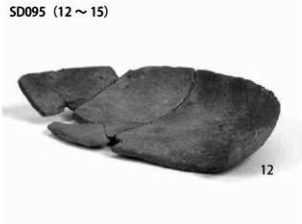
SD080（4）

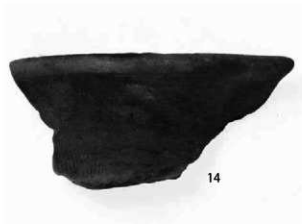
SD085（6）

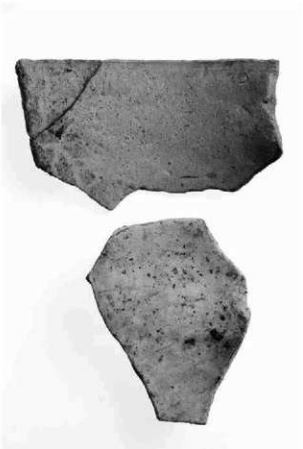


SD095（7・9・11）

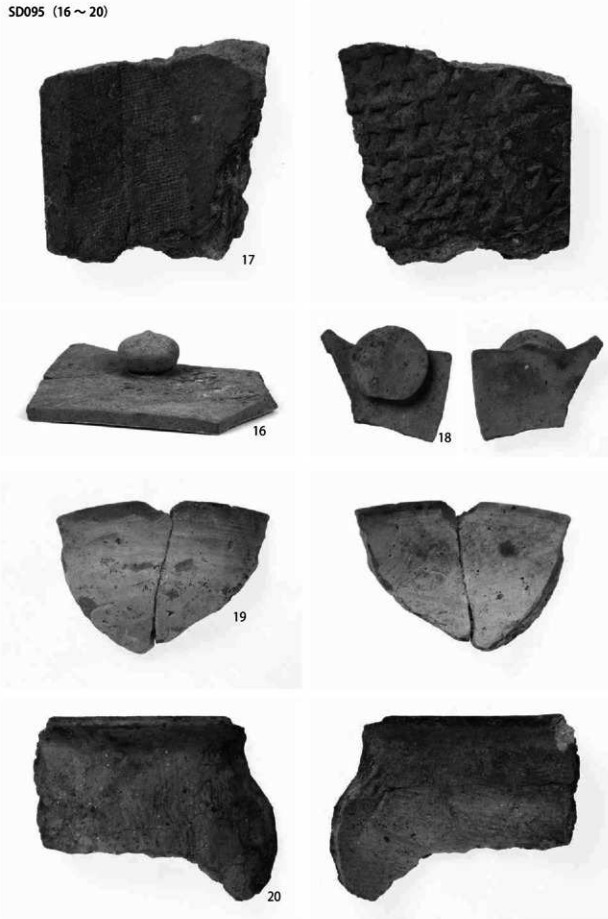
SD095（12～15）







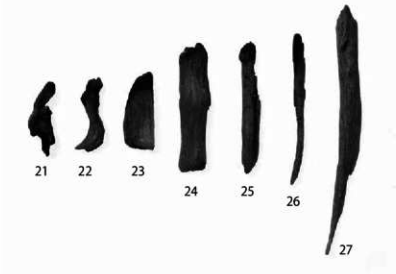
SD095（16～20）



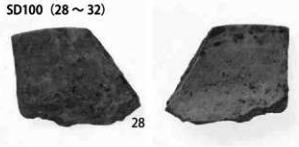
図版 20

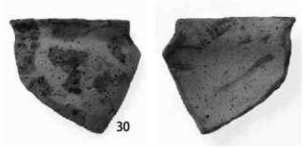
令和２年度調査

SD095（21～27）

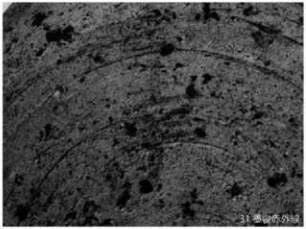


SD100（28～32）



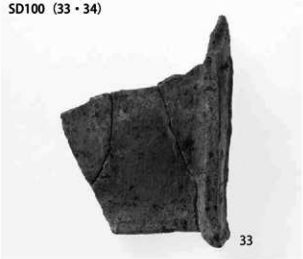


31 底部



31 墨書部分

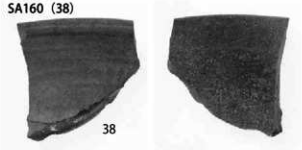
SD100（33・34）



SB040（35・36）

SB090（37）

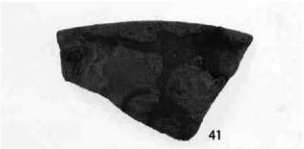
SA160（38）

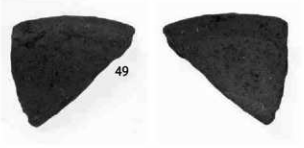


図版 22

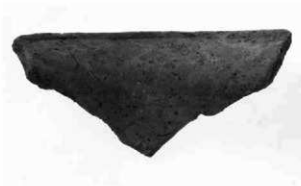
令和２年度調査

SD020（39～43・45・47・49～51・55）

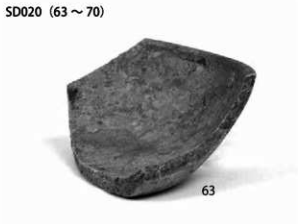




SD020（52～54・57～59・61）

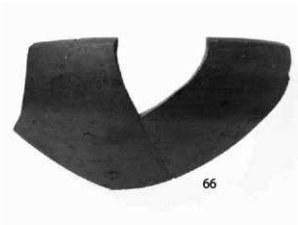


SD020（63 ～ 70）


63

64

65


66

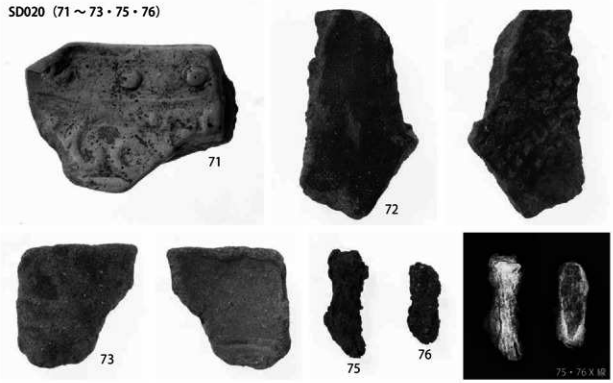
67

68

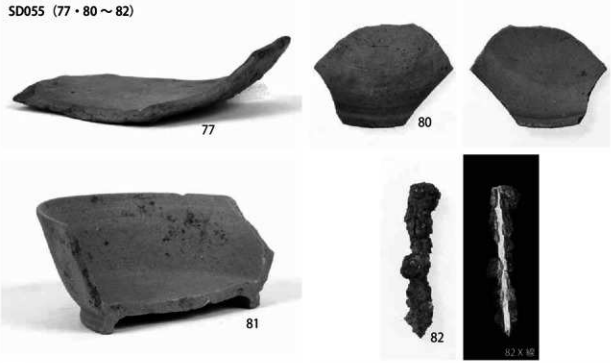
69

70

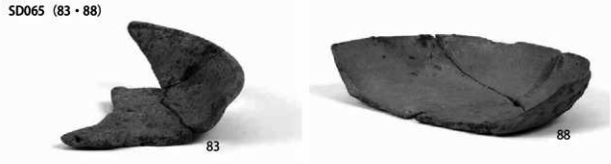
SD020（71 ～ 73・75・76）



SD055（77・80 ～ 82）



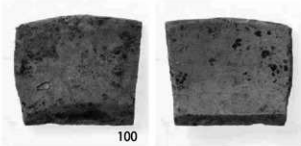
SD065（83・88）



図版 26

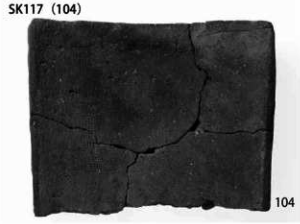
令和２年度調査

SD065（93～98・100）



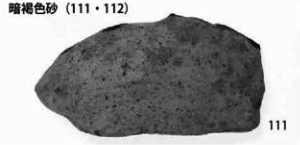
SD065（101～103）

SK117（104）



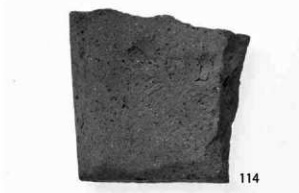
SP149（109）

暗褐色砂（111・112）



暗褐色砂（113～116）

113


114

115

撹乱（117・118）

117

116

118

調査前風景（北から）

遠景（南から）

全景（南から）

全景（北から）

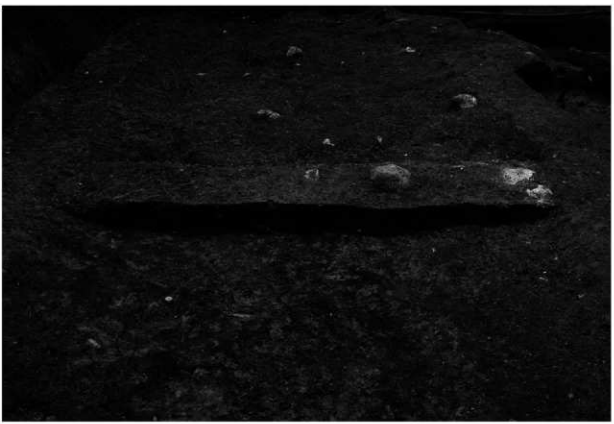
南壁面土層断面（北から）

東壁面土層断面（西から）

SD220・230 検出（南から）

SD220 北壁土層断面（南から）

SD220 土層断面 b-b′（北から）



SD220 土層断面 c-c′（北から）

SD230 土層断面（北から）

SD220・整地土土層断面（北から）

整地土 1 完掘状況（北から）

SA240 全景（東から）

SA240a 土層断面（東から）

SA240b 土層断面（東から）

SA240c 土層断面（東から）

SA240d 土層断面（北から）

SA240e 土層断面（南から）

整地土 2 完掘状況（北から）

SD220（120・121・123・125～128・130）

120

121

121 墨書赤外線

123

125

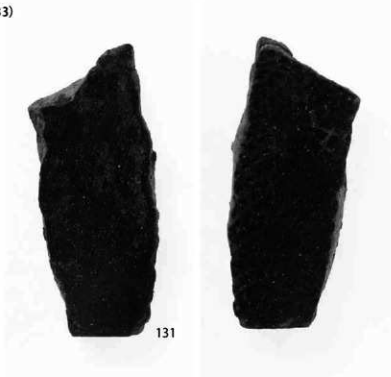
127

126

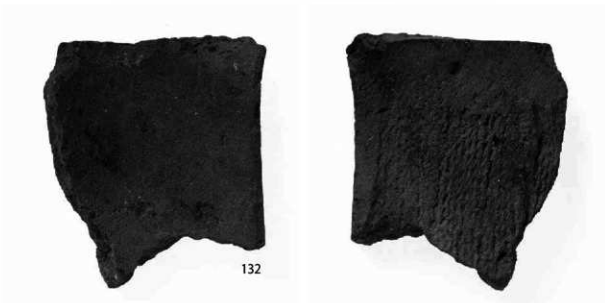
128

130

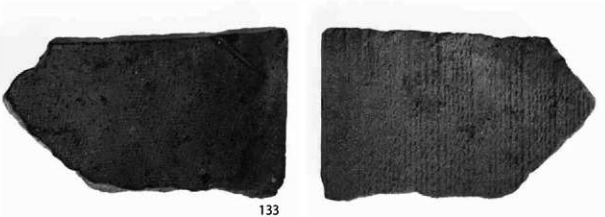
SD220（131 ～ 133）



131

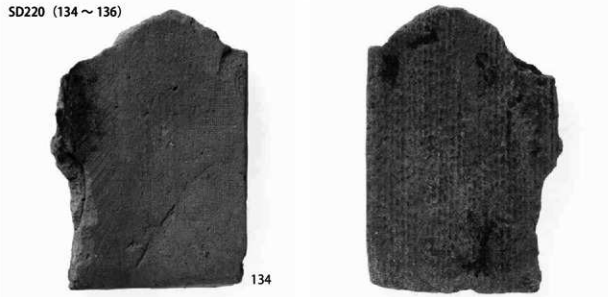


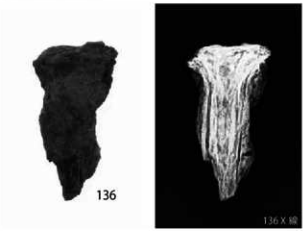
132



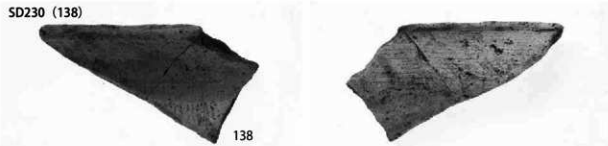
133

SD220（134～136）

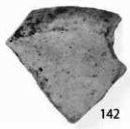


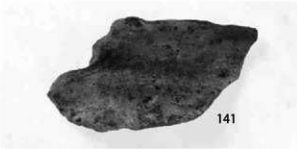


SD230（138）

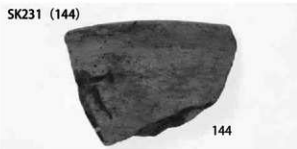


SA240（140～143）



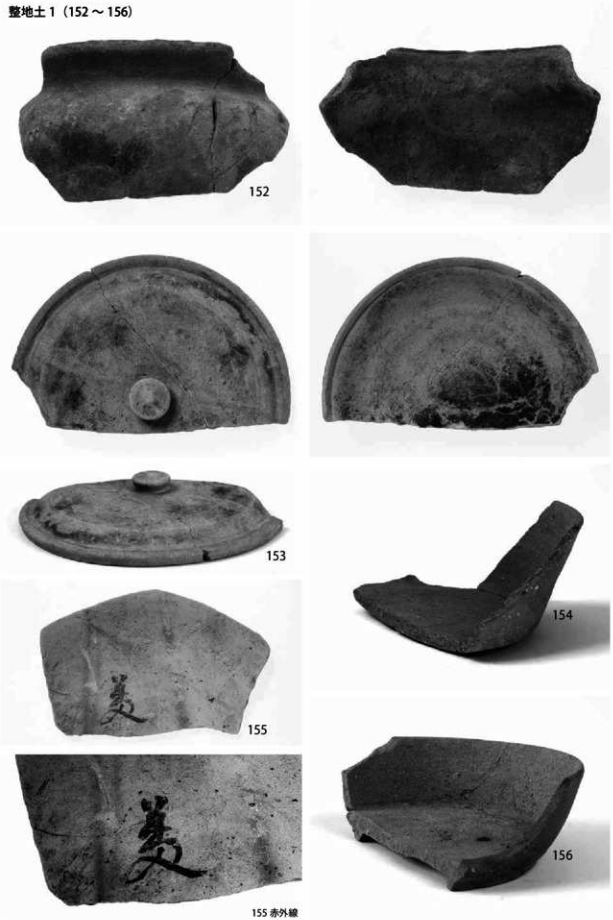


SK231（144）



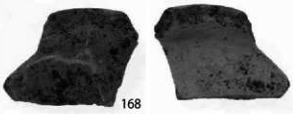
整地土１（146）

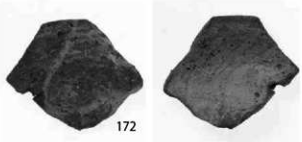
整地土 1（152 ～ 156）



整地土１（161～163・166・167）

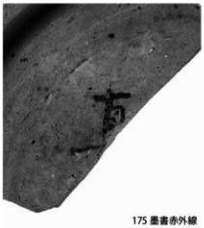
整地土２（168・169・172・174）





整地土 2（175 ～ 179）

175


175 墨書赤外線

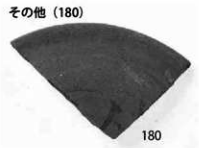
176

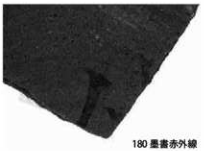
177

178

179

その他（180）


180

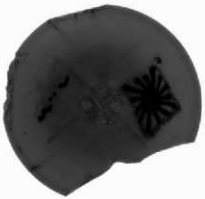

180 墨書赤外線

その他（181・182・184・187・189）

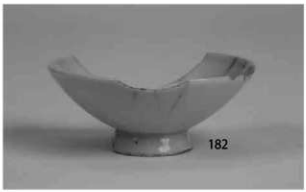
181

181 底部

181 墨書赤外線



184


182

189

187

報告書抄録

ふりがな	へいじょうきょうさきょうごじょうごぼうじゅういち・じゅうしつぼ
書　　名	平城京左京五条五坊十一・十四坪（HJG14・17次）
副 書 名	令和2・4年度発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	村田裕介、森将志、辻康男
編 集 機 関	公益財団法人 元興寺文化財研究所
所 在 地	〒630-8392　奈良市中院町11番地　Tel 0742-23-1376
発行年月日	西暦　2024年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
平城京左京（へいじょうきょうさきょう）五条五坊十一・十四坪（ごじょうごぼうじゅういち・じゅうしつぼ）	奈良市西木辻町（ならしにしきつじちょう）88番地外（ばんちほか）	29101		37°40′34″	135°49′14″	20201207 ～ 20210129 20220418 ～ 20220520	1,002㎡	工場新築

種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
都城跡	奈良時代	道路 掘立柱建物 掘立柱塀 ほか	土師器 須恵器 瓦 もえさし など	

要　約	奈良時代の平城京東五坊坊間東小路、十一坪内道路、掘立柱建物、掘立柱塀、などを確認した。東五坊坊間路は復元位置よりも西にずれる位置で確認され、奈良時代後半から平安時代初頭頃まで機能していたことが明らかとなった。十一坪内では、坪内を掘立柱塀、坪内道路で分割しており、最低でも2時期の掘立柱建物が建てられていたことが明らかになるなど、坪内の利用状況が判明した。

平城京左京五条五坊十一・十四坪
（HJG14・17 次）
－令和２・４年度発掘調査報告書－

2024.3.31

（発行・編集）公益財団法人　元興寺文化財研究所
（印刷）株式会社　明新社